

# 大熊町 住民意向調査(第1回)

## 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁  
福島県  
大熊町



## 目 次

I 調査の概要	5
1. 調査目的	7
2. 調査項目	7
3. 調査対象	7
4. 調査時期	7
5. 調査方法	7
6. 調査実施主体	7
7. 回収結果	7
8. 回答者の属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	8
(3) 職業(震災発生当時・現在)	9
(4) 震災発生当時居住地区と居住年数	10
(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)	11
9. この報告書を読む際の注意点	12
II 調査結果	13
1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況	15
(1) 震災発生当時の世帯構成	15
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方	17
(3) 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた方の有無	18
(4) 震災発生当時の職業	19
(5) 震災発生当時までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況	21
2. 現時点の状況	23
(1) 世帯の避難状況(震災発生当時世帯主)	23
(2) 現在の世帯構成	24
(3) 分散世帯数(分散世帯の震災発生当時世帯主)	25
(4) 現在避難している先の自治体	26
(5) 現在の住居種別	29
(6) 現在の職業	32
1) 現在の職業	32
2) 震災発生当時の職業との違い	34
3) 求職状況	36
(7) 避難生活の中で困っていること	38
(8) 医療サービスについて困っていること	40
(9) 介護・福祉サービスについて困っていること	42
(10) 教育(学校)について困っていること	43
(11) 就労について困っていること	44
(12) 地域のコミュニティについて困っていること	46

3. 将来についての想い	49
(1) 希望する避難生活のかたち	49
1) 希望する避難居住地	49
2) 希望する避難住居形態	52
3) 避難期間中の転居予定先	56
4) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数	58
(2) 希望する復興の拠点(町外コミュニティ)のかたち	59
1) 復興の拠点への居留意向	59
2) 復興拠点へ移転するまでの猶予年数	60
3) 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること	60
4) 移転する場合の望ましいコミュニティの単位	61
5) 他の町村の住民とともに移転することについて	62
6) 復興拠点に求めるもの	64
(3) 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの	66
(4) 避難指示が解除された際の大熊町への帰還意向	70
(5) 帰還を判断するのに必要な情報	72
(6) 大熊町へ帰還しない理由	74
(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング	76
(8) 今後の生活において行政に望む支援	79
4. 国・町への要望・提案・意見等	80
Ⅲ 調査票(付:単純集計結果)	87

## I 調査の概要



## 1. 調査目的

大熊町住民の避難期間中の生活環境の整備や、復興の拠点のあり方等の諸施策の適切な実施を行うための基礎データを収集することを目的とする。

## 2. 調査項目

- (1) 回答世帯属性
- (2) 東日本大震災発生時および震災前の状況
- (3) 現時点の状況
- (4) 将来についての思い
- (5) 国・町への要望・提案・意見等

## 3. 調査対象

- (1) 調査対象  
全世帯主(分散避難している場合は、それぞれの代表者)
  
- (2) 対象数 5,378 世帯

## 4. 調査時期

平成24年9月7日(金)～9月24日(月)

## 5. 調査方法

郵送法

## 6. 調査実施主体

復興庁 福島県 大熊町

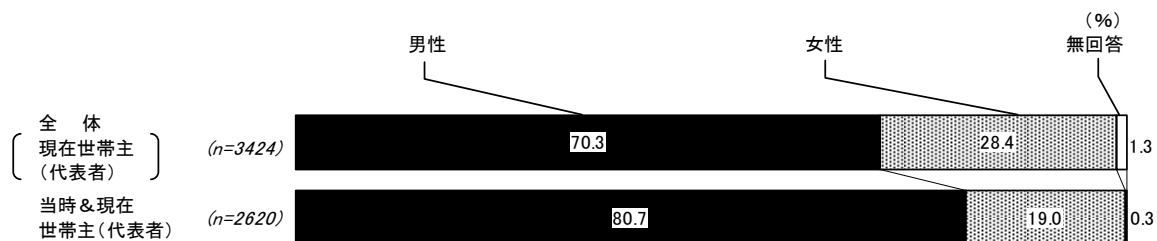
## 7. 回収結果

有効回収数(率) 3,424 世帯(63.6%)

8.回答者の属性

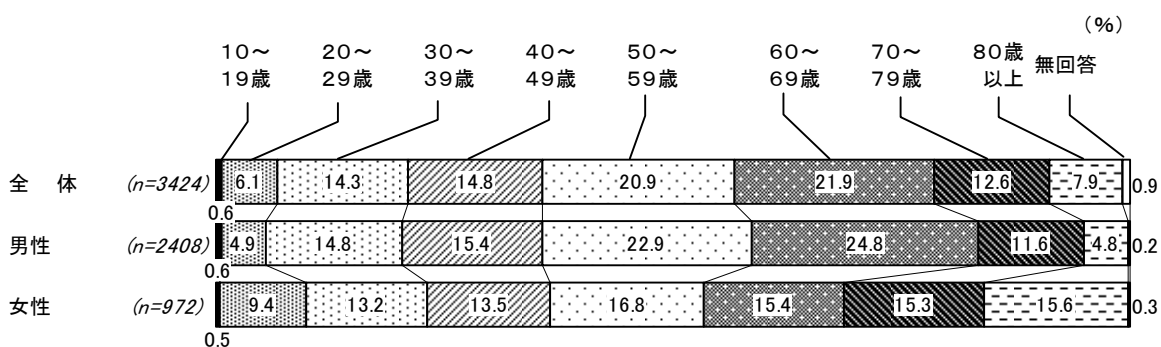
(1) 性別

図表1 性別

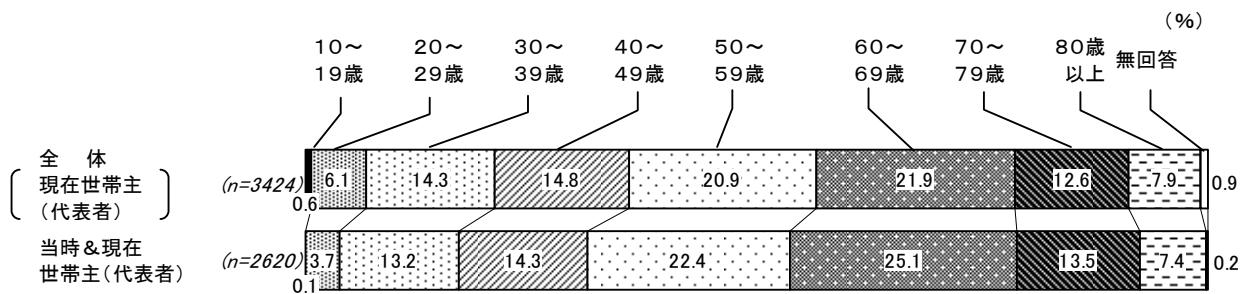


(2) 年齢

図表2 年齢



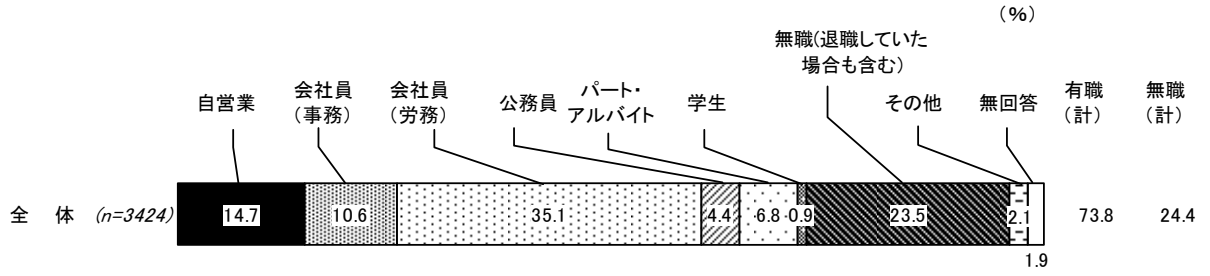
図表3 年齢(世帯主・構成員別)



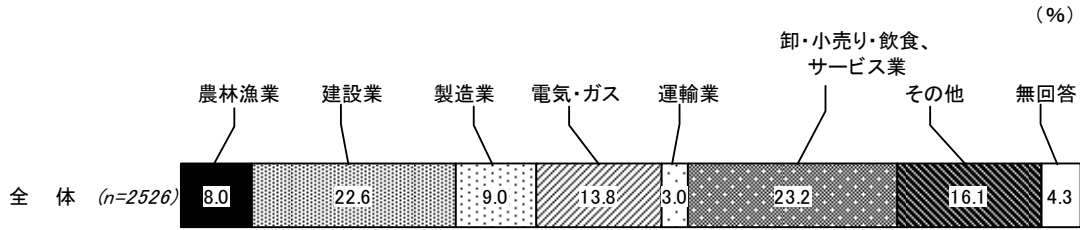


(3) 職業(震災発生当時・現在)

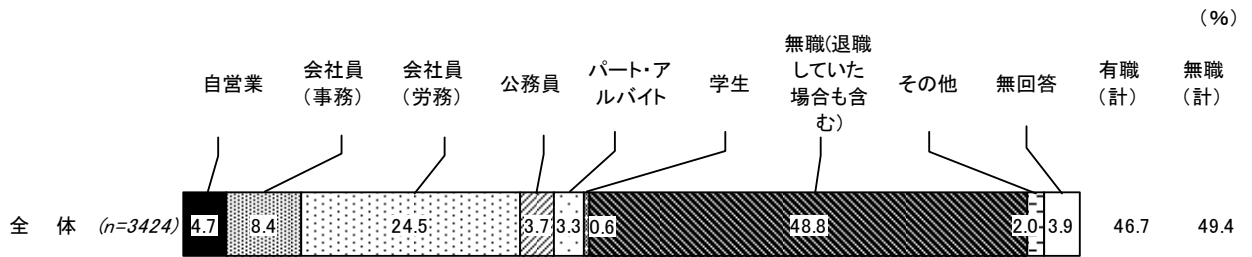
図表4 職業(震災発生当時)



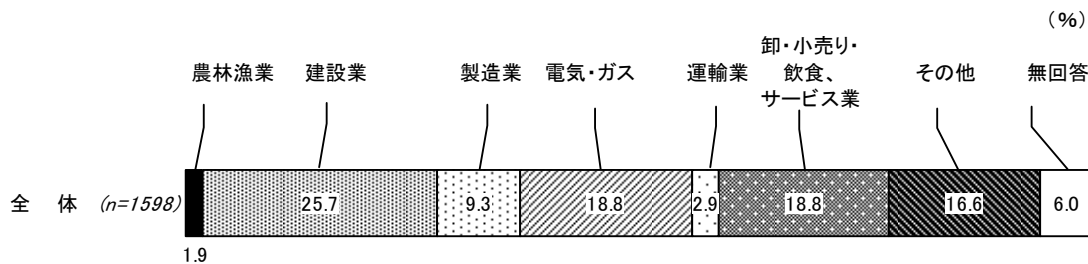
図表5 業種(震災発生当時)



図表6 職業(現在)



図表7 業種(現在)

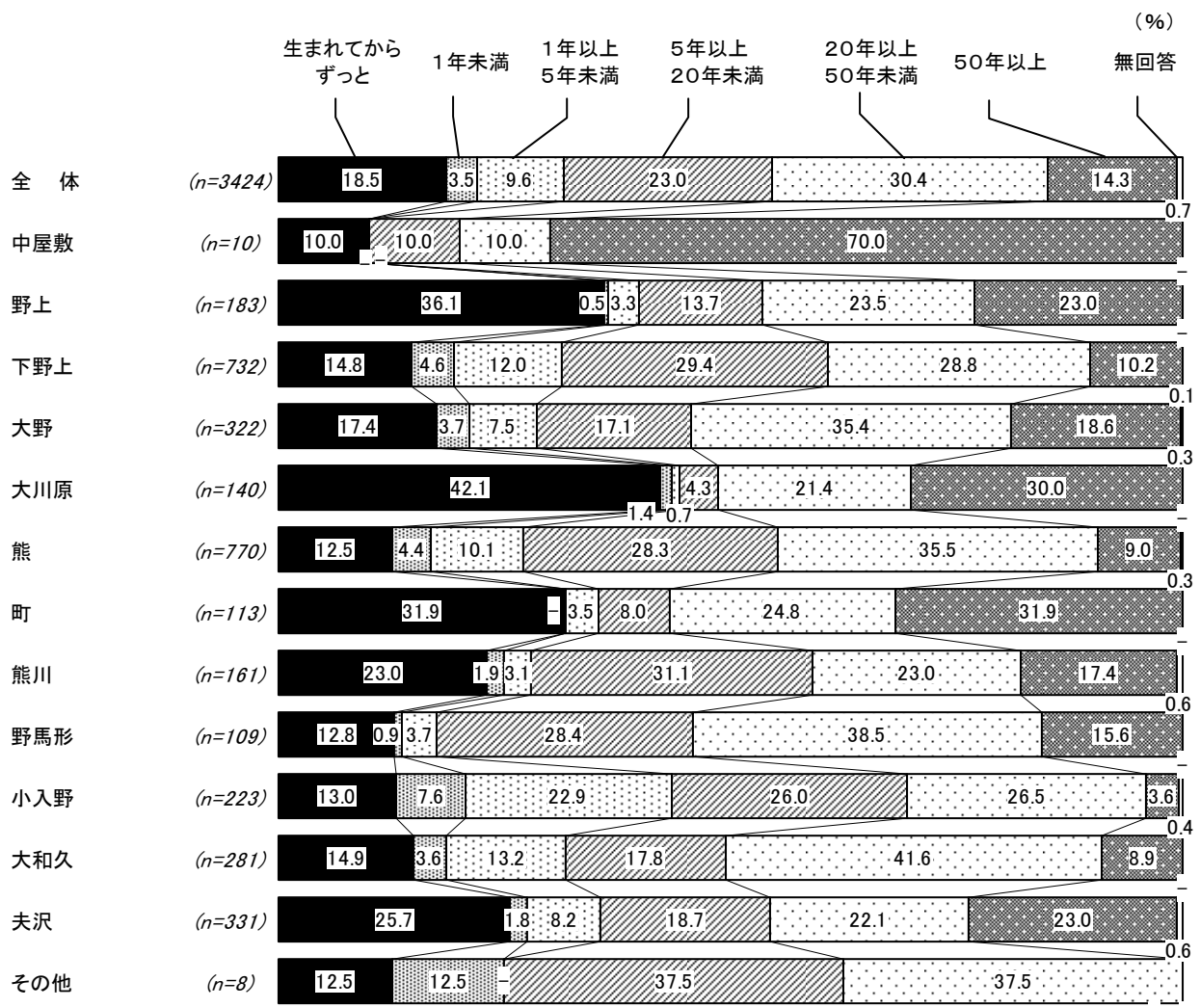


(4) 震災発生当時居住地区と居住年数

図表8 震災発生当時居住地区

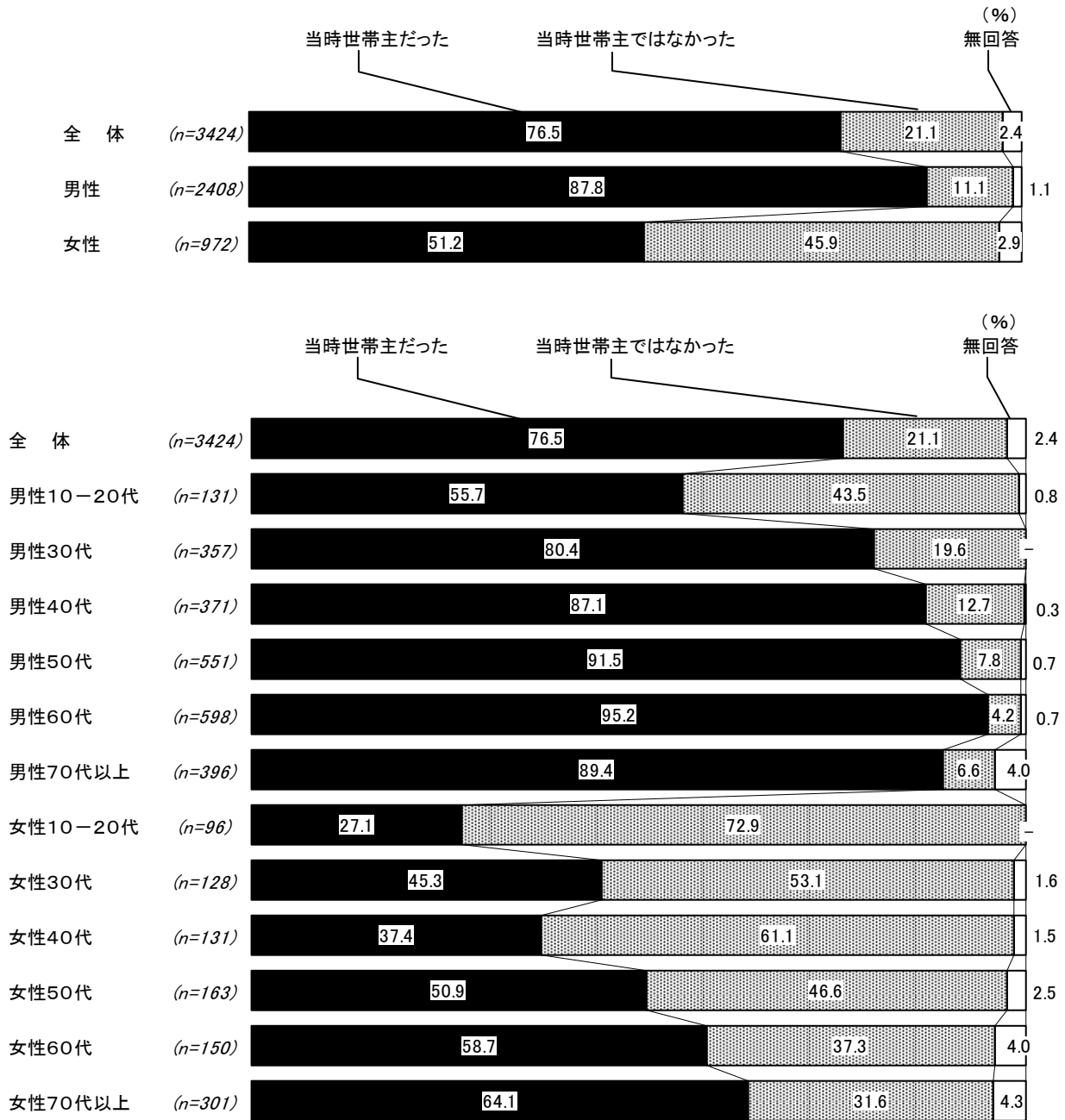
	n	中屋敷	野上 1	野上 2	下野上 1	下野上 2	下野上 3	大野 1	大野 2	大川原 1	大川原 2	熊 1	熊 2	熊 3	町	熊川	野馬形	小入野	大和久	夫沢 1	夫沢 2	夫沢 3	その他	無回答
全体	(3,424)	0.3	1.7	3.6	8.3	6.6	6.5	5.3	4.1	2.3	1.8	10.5	6.3	5.7	3.3	4.7	3.2	6.5	8.2	3.4	2.4	3.9	0.2	1.2

図表9 居住年数



(5) 世帯での立場(震災発生当時・現在)

図表 10 世帯での立場(震災発生当時)



#### 9.この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(3,424 人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第 2 位で四捨五入して、小数点第 1 位までを表示した。四捨五入したため、合計値が 100% を前後することがある。
- (3) 「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2 つ以上の複数回答を認めているため、回答計は 100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は 0.05 未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が 50 人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

## II 調査結果

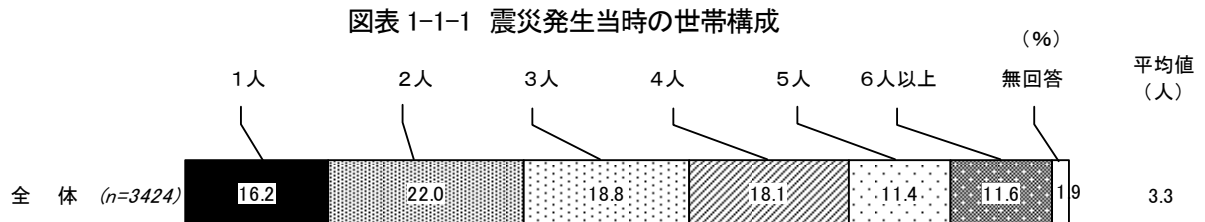


# 1. 東日本大震災発生当時および震災前の状況

## (1) 震災発生当時の世帯構成

問1 震災発生当時の世帯構成は、あなたを含めて何人でしたか。(具体的に)

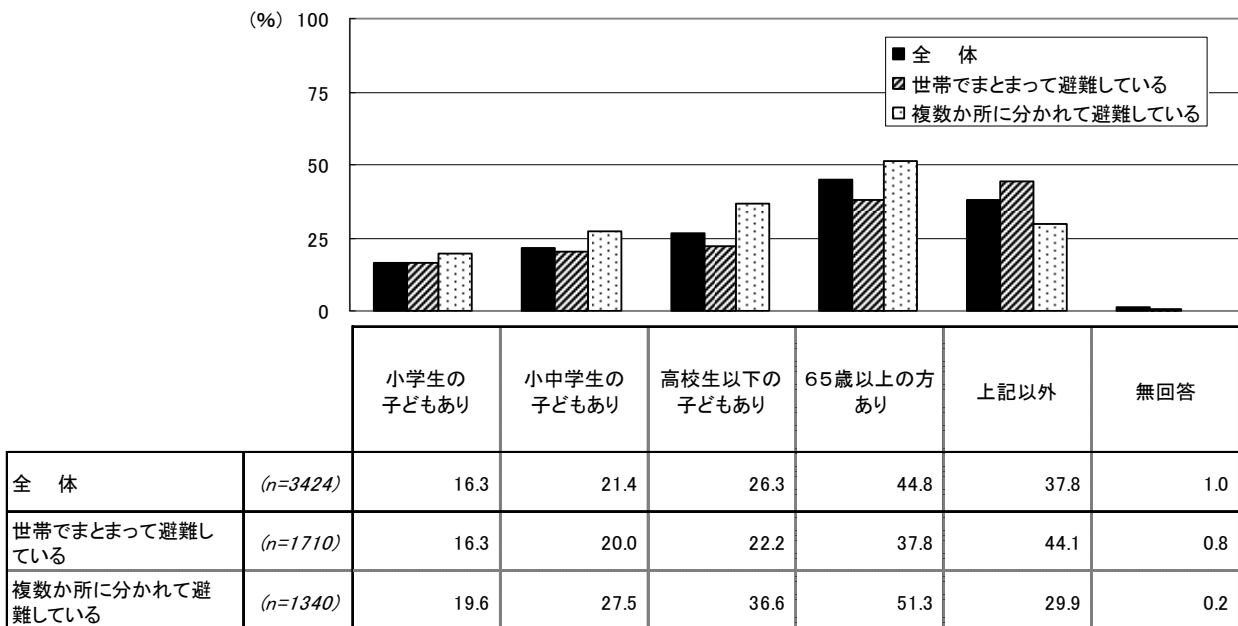
震災発生当時の世帯人数は平均 3.3 人で、「2 人」(22.0%)と「3 人」(18.8%)、「4 人」(18.1%)が 2 割前後、「1 人」が 16.2%、「5 人」(11.4%)と「6 人以上」(11.6%)が約 1 割である。(図表 1-1-1)



「当時小中学生の子ども」「当時高校生以下の子ども」「当時65歳以上の方」のそれぞれの有無を見ると、現在、65歳以上の高齢者がいる世帯は 44.8%である。「当時小中学生」の子どもがいた世帯は 21.4%、「当時高校生」以下の子どもがいた世帯は 26.3%となっている。(図表 1-1-2)

世帯の避難状況別(p.23 参照)を見ると、複数か所に分かれて避難している分散世帯では、「当時小中学生」もしくは「当時高校生以下」の子どもがいた世帯が、世帯でまとまって避難している家庭より多くなっている。(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 震災発生当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



世帯主(または代表者)の性・年代別に見ると、男女ともに10～20代では、「当時高校生以下」の子どもがいた世帯が約2割で、40代では6割前後となっている。(図表1-1-3)

図表 1-1-3 震災発生当時の世帯構成(性・年代別)

(%)

		小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	65歳以上の方あり	上記以外	無回答
全 体	(n=3424)	16.3	21.4	26.3	44.8	37.8	1.0
男性10-20代	(n=131)	9.9	13.7	19.1	18.3	68.7	-
男性30代	(n=357)	31.1	32.5	33.1	12.0	58.0	0.6
男性40代	(n=371)	39.6	53.6	59.3	25.1	29.1	0.5
男性50代	(n=551)	9.4	16.2	26.5	35.4	46.1	0.9
男性60代	(n=598)	9.2	10.5	12.4	45.0	49.0	1.2
男性70代以上	(n=396)	8.6	12.9	16.2	98.5	-	1.5
女性10-20代	(n=96)	8.3	10.4	20.8	15.6	68.8	-
女性30代	(n=128)	35.2	42.2	43.8	13.3	47.7	-
女性40代	(n=131)	31.3	48.9	61.1	36.6	22.9	-
女性50代	(n=163)	5.5	8.6	14.7	27.6	60.1	1.8
女性60代	(n=150)	13.3	14.0	14.7	49.3	46.7	1.3
女性70代以上	(n=301)	5.6	9.0	13.0	98.7	-	1.0



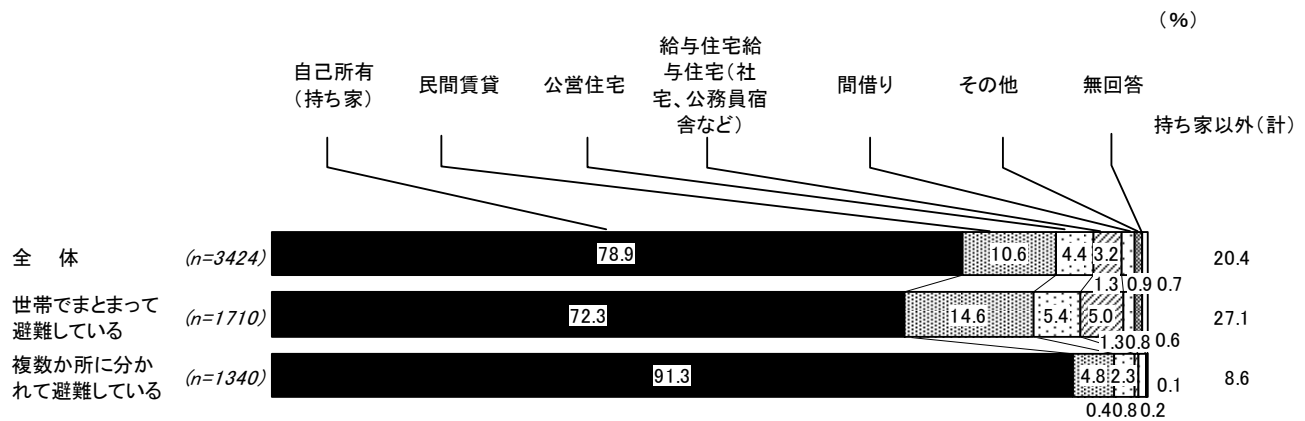
(2) 震災発生当時の住宅の所有形態と建て方

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

震災発生当時の住宅の所有形態としては、「自己所有(持ち家)」が78.9%で際立って多く、次いで「民間賃貸」が10.6%である。(図表 1-2-1)

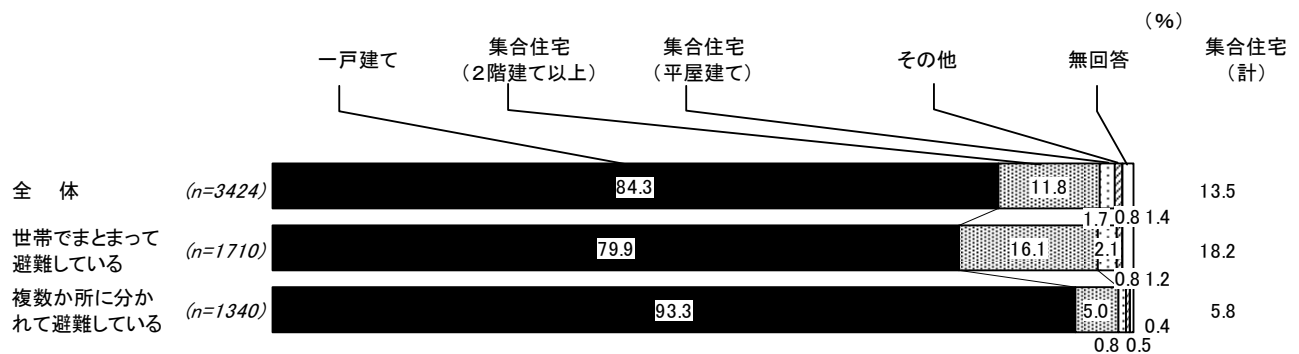
世帯の避難状況別(p.23 参照)を見ると、まとまって避難している世帯では、72.3%が「自己所有(持ち家)」に居住していたと回答しており、複数か所に分かれて避難している世帯では9割を上回る。(図表 1-2-1)

図表 1-2-1 震災発生当時の住宅の所有形態(世帯の避難状況別)



震災発生当時の住宅の建て方を見ると、「一戸建て」が84.3%と多数を占める。(図表 1-2-2)

図表 1-2-2 震災発生当時の住宅の建て方(世帯の避難状況別)



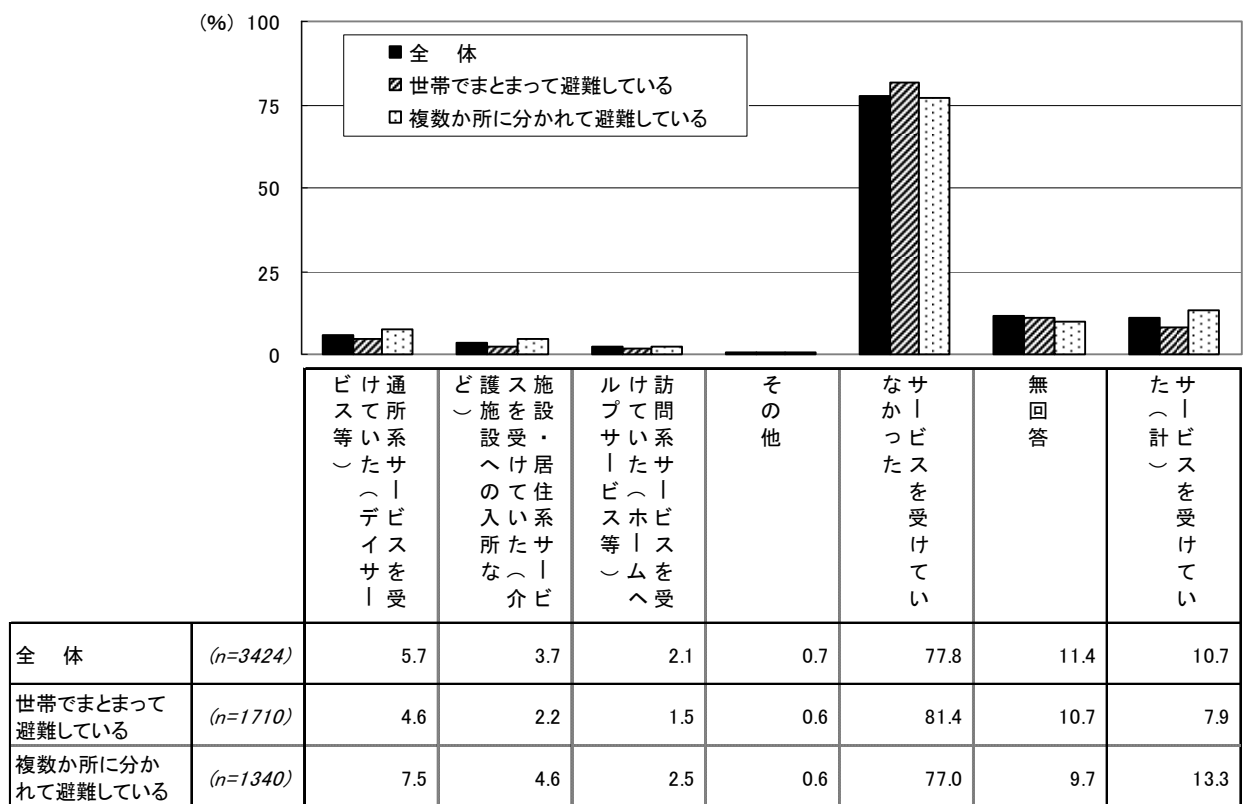
(3) 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた方の有無

問 6 震災発生時に、あなたを含めて、ご家族に介護や福祉サービスを受けていた方はいましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

震災発生時に世帯主や家族に介護や福祉サービスを受けていた者がいたかどうかを聞いたところ、「サービスを受けていなかった」が77.8%で、いずれかのサービスを受けていたとの回答は10.7%を占める。介護福祉サービスの内容としては、「通所系サービスを受けていた(デイサービス等)」が5.7%、「施設・居住系サービスを受けていた(介護施設への入所など)」が3.7%、「訪問系サービスを受けていた(ホームヘルプサービス等)」が2.1%となっている。(図表 1-3-1)

世帯の避難状況別(p.21 参照)に見ると、「サービスを受けていなかった」との回答は、世帯でまとまって避難している世帯(81.4%)で8割以上となっている。(図表 1-3-1)

図表 1-3-1 震災発生当時の世帯における介護や福祉サービスを受けていた方の有無(世帯の避難状況別)



(4) 震災発生当時の職業

問5 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。  
 当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

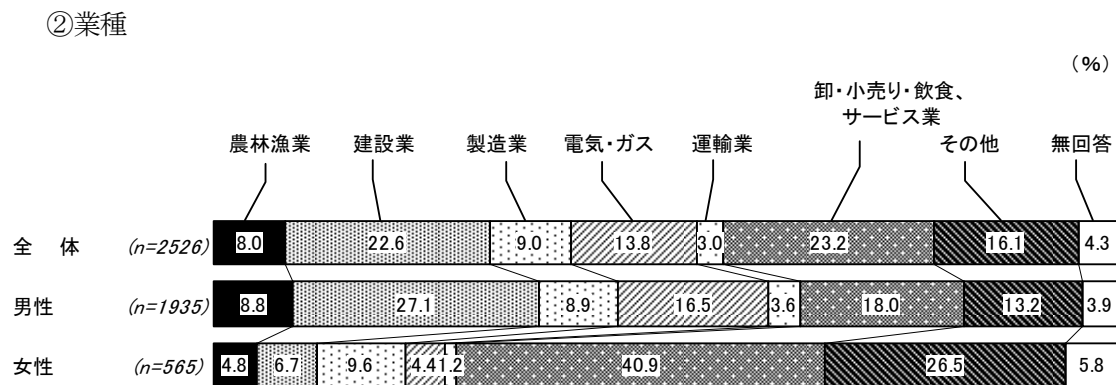
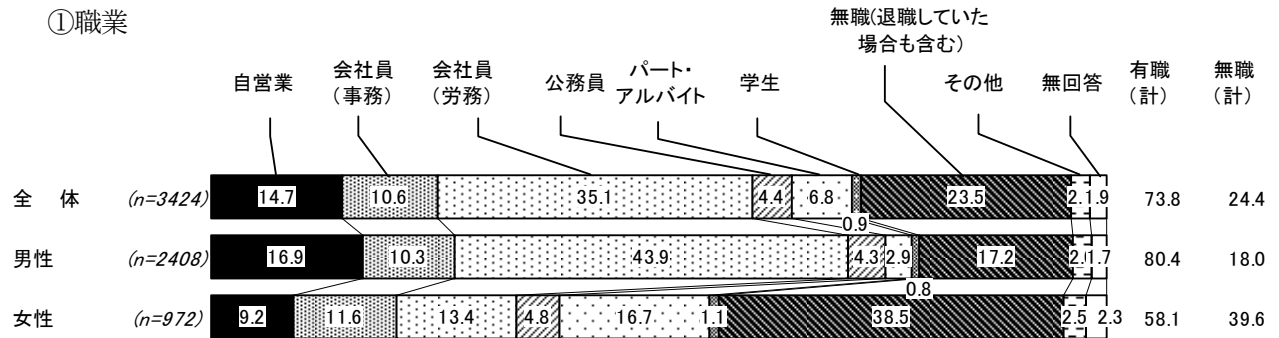
震災発生当時の職業を聞いたところ、「会社員(労務)」が 35.1%で最も多く、次いで「無職(退職していた場合も含む)」(23.5%)、「自営業」(14.7%)などの順となっている。(図表 1-4-1①)

震災発生当時の有職者(2,526 人)の業種としては、「卸・小売り・飲食、サービス業」(23.2%)が最も多く、次いで「建設業」(22.6%)、「電気・ガス」(13.8%)、「製造業」(9.0%)、「農林漁業」(8.0%)などの順となっている。(図表 1-4-1②)

男性では「会社員(労務)」が 43.9%を占め、次いで「無職(退職していた場合も含む)」(17.2%)、「自営業」(16.9%)などの順である。一方、女性は「無職(退職していた場合も含む)」が 38.5%で最も多く、「パート・アルバイト」が 16.7%、「会社員(労務)」が 13.4%などの順である。(図表 1-4-1①)

さらに業種を見ると、男性では「建設業」に従事する人が 27.1%で最も多く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」(18.0%)、「電気・ガス」(16.5%)などの順となっている。女性では、「卸・小売り・飲食、サービス業」(40.9%)に従事する人が 4 割以上で最も多く、次いで「製造業」(9.6%)となっている。(図表 1-4-1②)

図表 1-4-1 震災発生当時の職業(男女別)



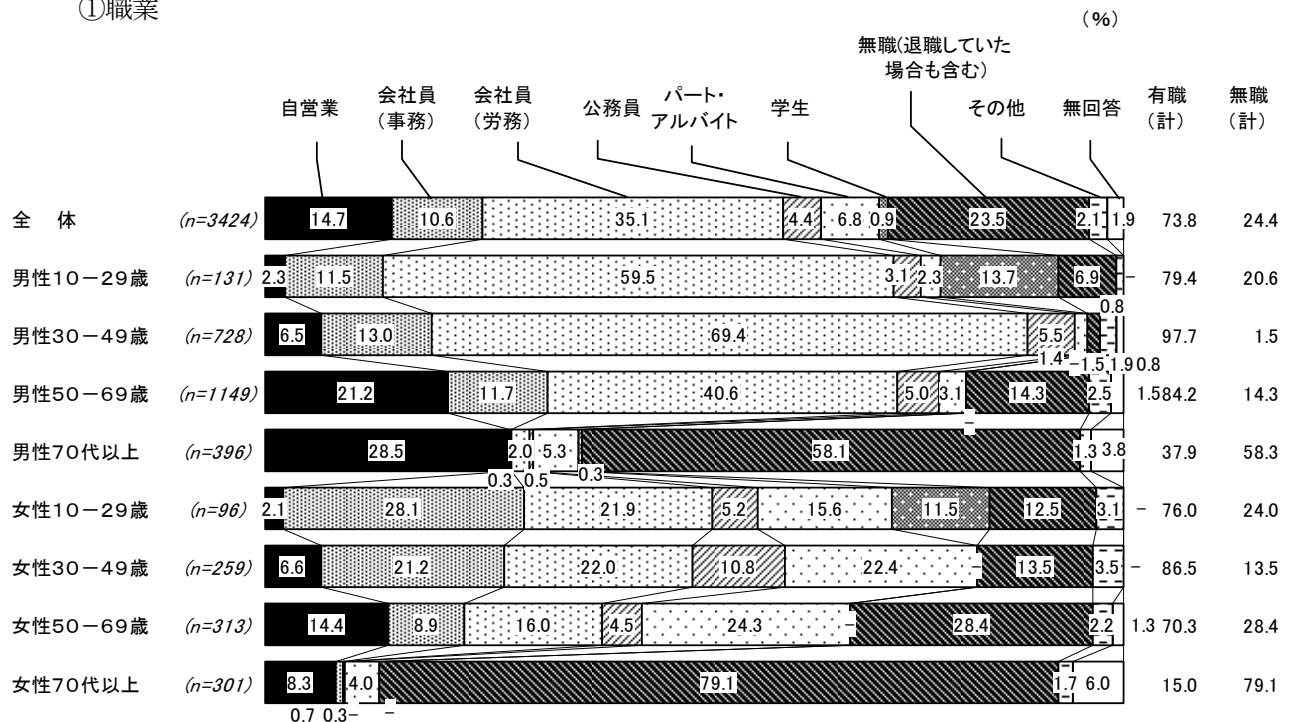
性・年代別に職業を見ると、男性の30～40代では「会社員(労務)」が69.4%と、他の性・年代より高くなっている。一方、女性の30～40代では、震災発生当時「パート・アルバイト」(22.4%)や「会社員(労務)」(22.0%)、「会社員(事務)」(21.2%)などの仕事に就いていた者(有職者)が8割を上回り、女性の他の年代より高くなっている。また、「自営業」従事者は、男性では高年齢層に多く、50歳以上では2割を超える。(図表1-4-2①)

「無職(退職していた場合も含む)」は、70代以上になると男性で58.3%、女性で79.1%である。(図表1-4-2①)

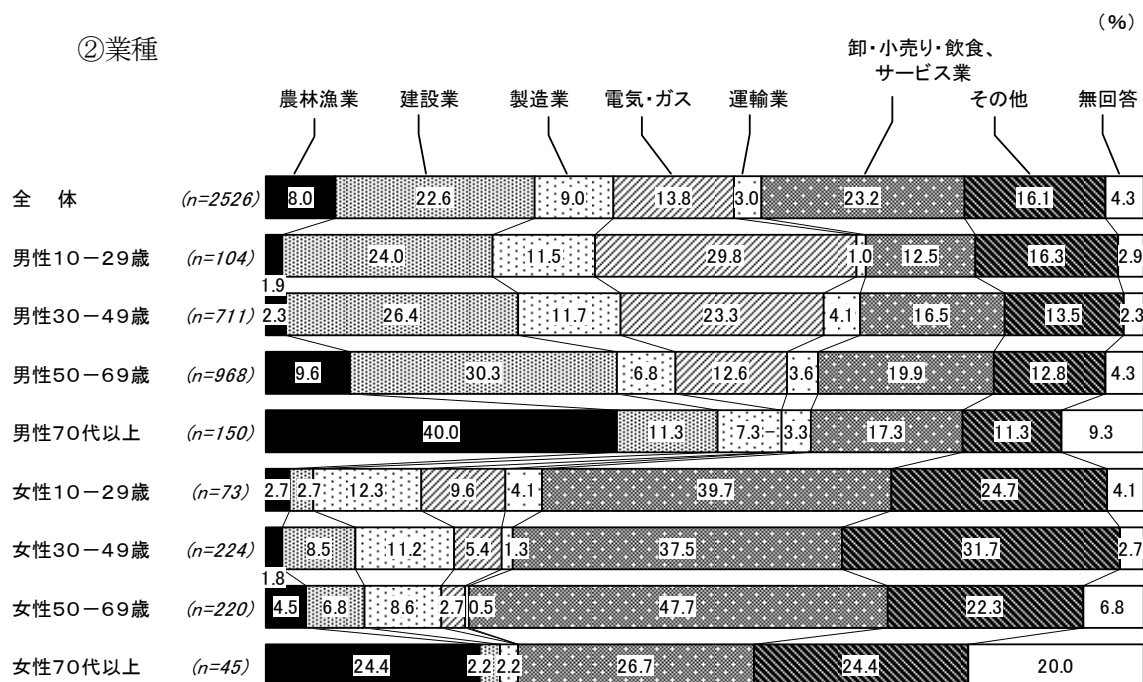
性・年代別に業種を見ると、「農林漁業」従事者は男女とも年齢が高年齢層ほど多く、男性70代以上では40.0%、女性70代以上では24.4%である。一方、「電気・ガス」や「製造業」は男女ともに年齢が低い層ほど高い。「卸・小売り・飲食、サービス業」は50～60代の女性で、「建設業」は同年代の男性で、それぞれ他の年代より高くなっている。(図表1-4-2②)

図表1-4-2 震災発生当時の職業(性・年代別)

①職業



②業種



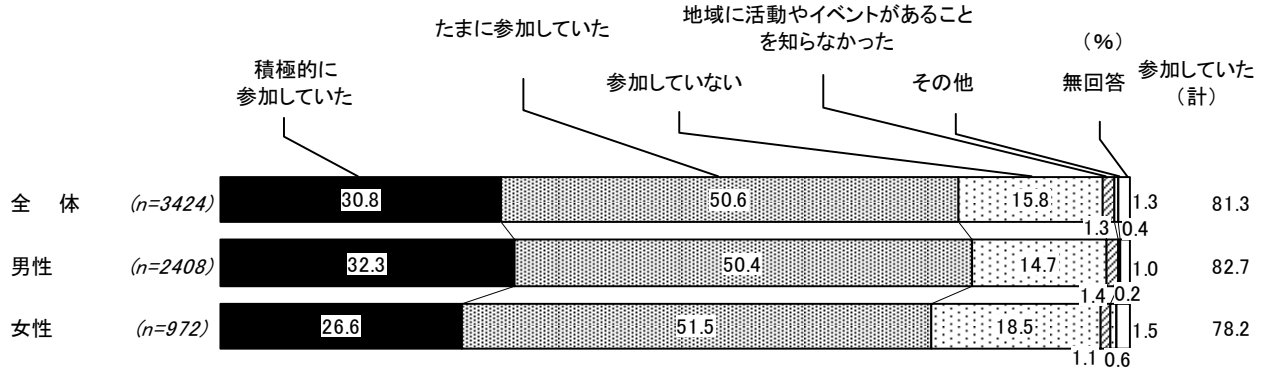
(5) 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況

問7 震災前の大熊町では、あなたやご家族は、コミュニティ活動や町内イベントに参加していましたか。(○は1つ)

震災発生前の大熊町でのコミュニティ活動や町内イベントに、「積極的に参加していた」という回答者は 30.8%で、「たまに参加していた」(50.6%)を合わせると、8割以上が『参加していた』と答えている。(図表 1-5-1)

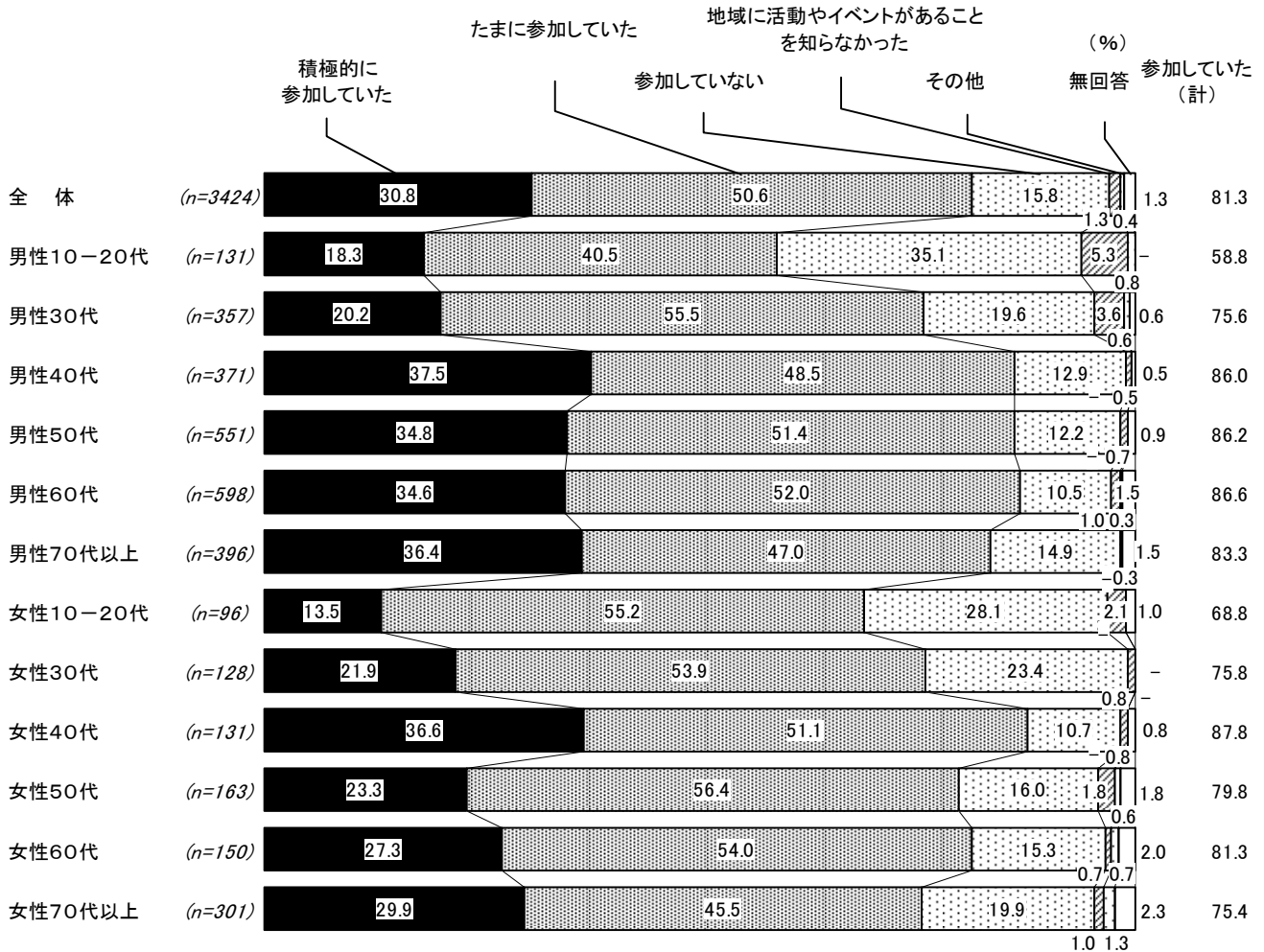
男女別に見ても、男女とも、8割前後が『参加していた』と答えている。(図表 1-5-1)

図表 1-5-1 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(男女別)



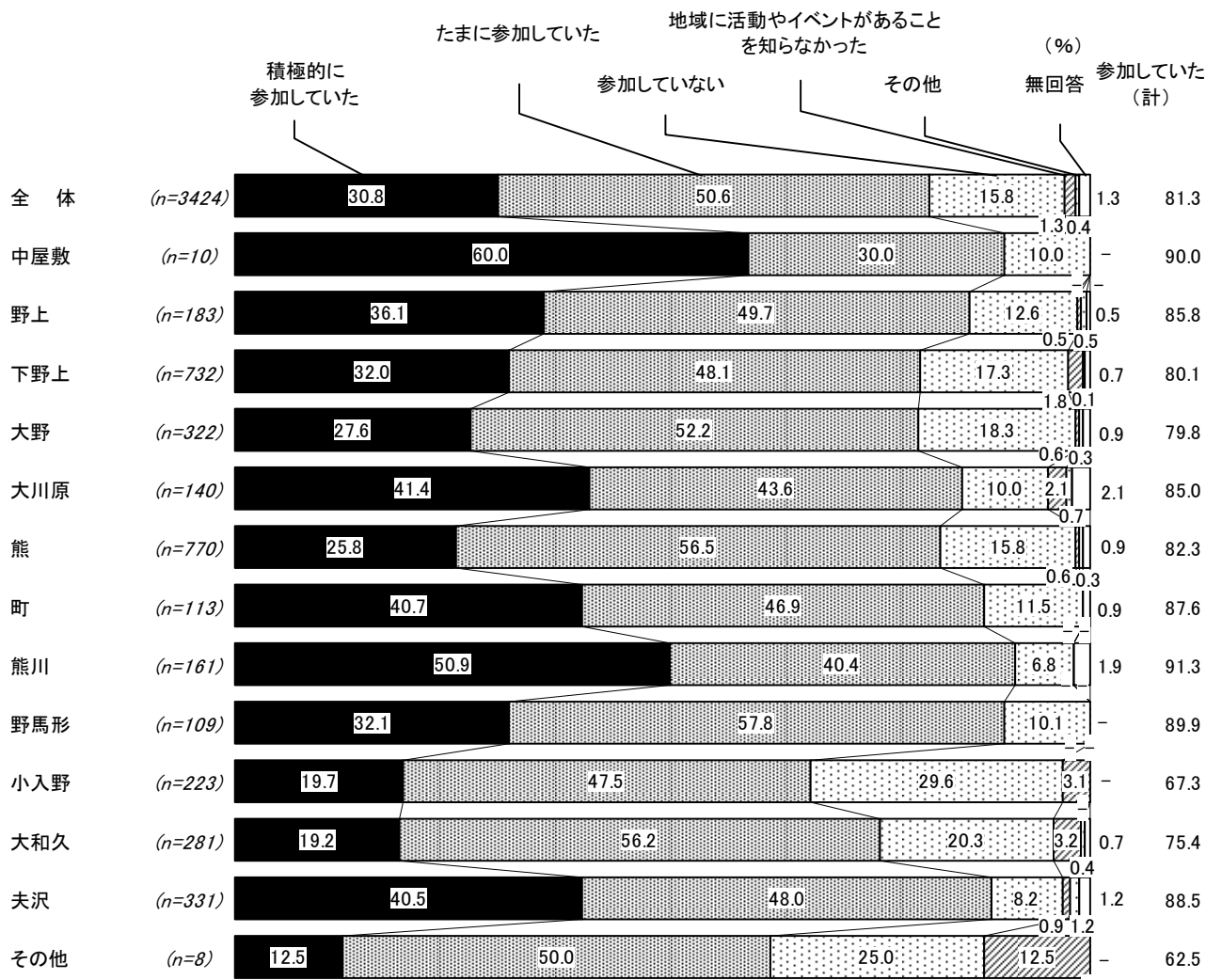
性・年代別に見ると、男性の40歳以上と女性の40代で、「積極的に参加していた」という回答者が3割強と多く、参加経験者がともに8割を超えている。女性の参加経験者は、40代で87.8%と最も多くなっている。(図表 1-5-2)

図表 1-5-2 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(性・年代別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、いずれの地区でも参加経験者が多数を占めているが、「積極的に参加していた」という回答者は、熊川(50.9%)、大川原(41.4%)、町(40.7%)、夫沢(40.5%)の順に多くなっている。(図表 1-5-3)

図表 1-5-3 震災発生前までのコミュニティ活動や町内イベントへの参加状況(震災発生当時の居住地区別)



## 2. 現時点の状況

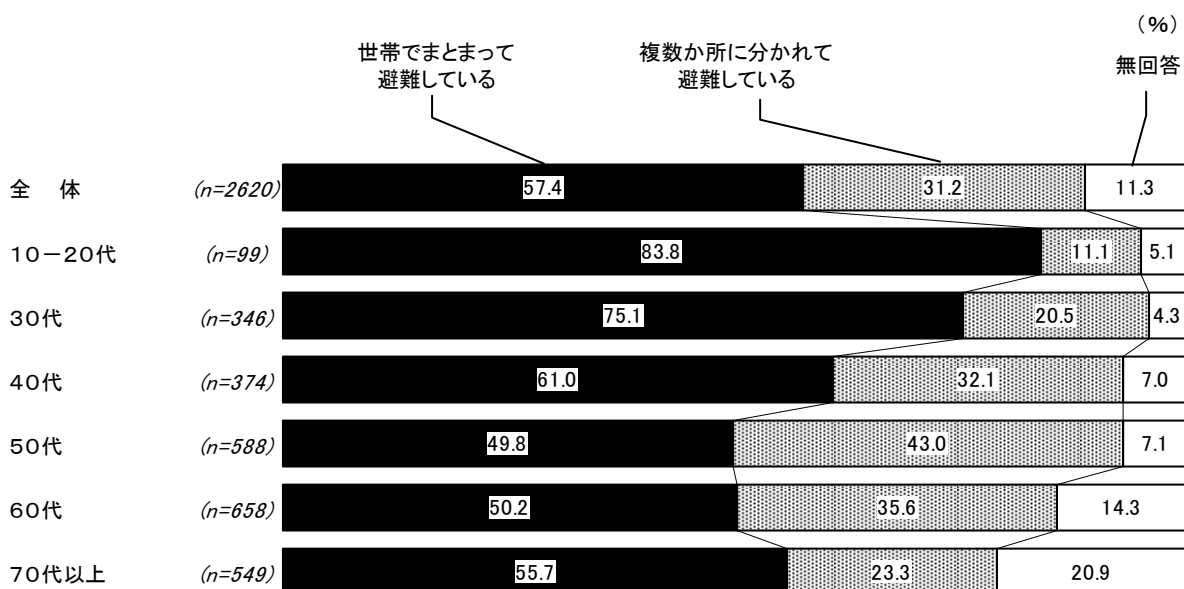
### (1) 世帯の避難状況(震災発生当時世帯主)

問 10 (1) 現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(〇は1つ)

震災発生当時の世帯主(2,620 世帯)の避難状況を聞いたところ、「世帯でまとまって避難している」世帯が57.4%で、「複数か所に分かれて避難している」と回答した、いわゆる“分散世帯”は31.2%である。(図表 2-1-1)

世帯主の年代別に見ると、若年齢層ほど「世帯でまとまって避難している」世帯が多くなり、10～20代では83.8%である。一方、50代の世帯主では「複数か所に分かれて避難している」世帯(43.0%)が4割を超えている。(図表 2-1-1)

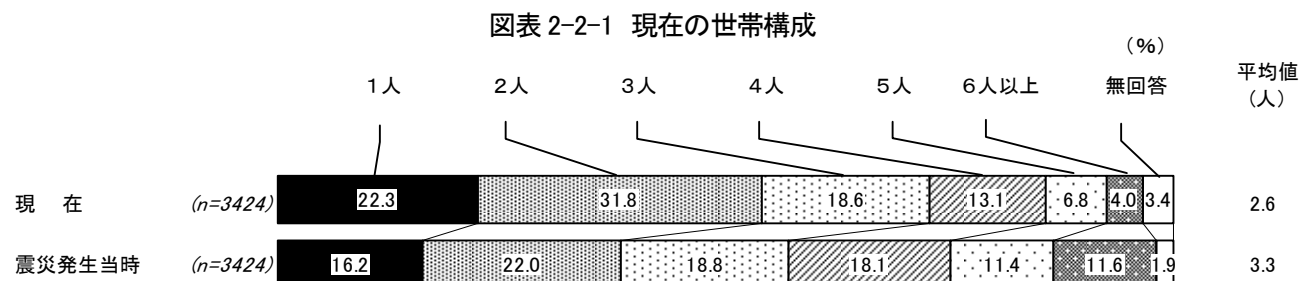
図表 2-1-1 世帯の避難状況(年代別)



(2) 現在の世帯構成

問 10 現在の同居人数とその内訳、及び別居人数を教えてください。(具体的に)

現在の同居世帯人数は平均 2.6 人で、「2 人」世帯が 31.8%で最も多く、次いで「1 人」世帯が 22.3%となっている。なお、震災発生当時の「1 人」世帯は 16.2%で、平均同居世帯人数は 3.3 人である。(図表 2-2-1)



現在の家族の状況としては、現在、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 39.0%で、震災当時より 5.8 ポイント減少している。また、「小学生の子ども」がいる世帯は 12.2%、「小中学生の子ども」がいる世帯は 16.6%、「高校生以下の子ども」がいる世帯は 20.7%となっている。(図表 2-2-2)

**図表 2-2-2 現在の世帯構成**

		小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	高校生以下の子どもあり	65歳以上の方あり	上記以外	無回答
現在	(n=3424)	12.2	16.6	20.7	39.0	43.2	2.0
震災発生当時	(n=3424)	16.3	21.4	26.3	44.8	37.8	1.0

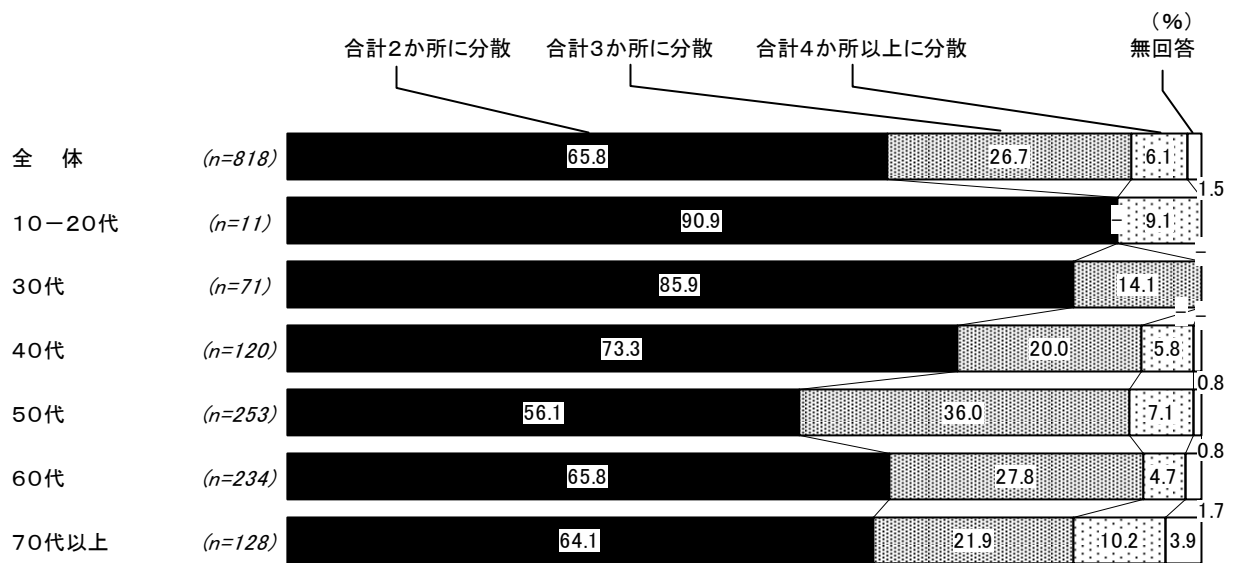


(3) 分散世帯数(分散世帯の震災発生当時世帯主)

【問 10(1)で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】  
 問 10(3) 震災発生当時、ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)  
 ※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。

複数か所に分かれて避難している分散世帯(818 世帯)の分散か所数を見ると、「合計2か所に分散」が65.8%で多数を占め、次いで「合計3か所に分散」が26.7%、「合計4か所以上に分散」という世帯は6.1%である。(図表 2-3-1)  
 年代別に見ると、30代以下の層では9割前後が「合計2か所に分散」と回答している。50代では、「合計3か所に分散」が36.0%、70代では、10.2%が「合計4か所以上に分散」と回答している。(図表 2-3-1)

図表 2-3-1 分散世帯数(年代別)



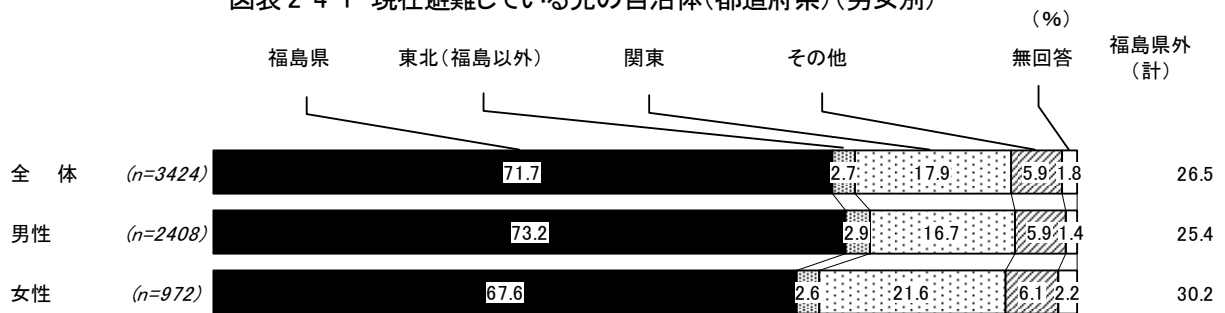
(4) 現在避難している先の自治体

問8 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(具体的に)

現在の避難先を都道府県別に見ると、「福島県」内が71.7%で多数を占める。(図表2-4-1)

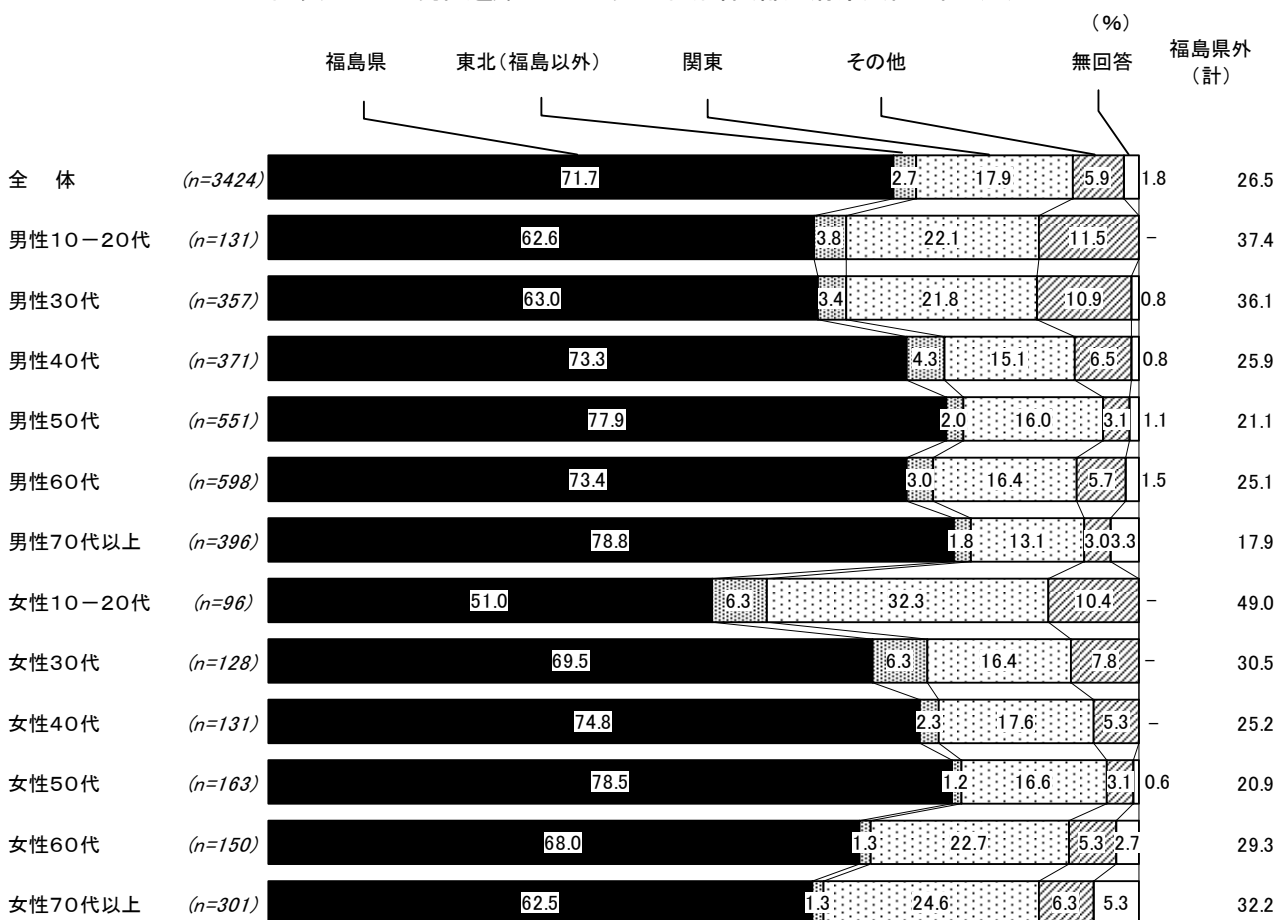
男女別に見ると、女性で「関東」と回答した割合が21.6%である。(図表2-4-1)

図表2-4-1 現在避難している先の自治体(都道府県)(男女別)



性・年代別に見ると、男性70代で「福島県」と回答した人が78.8%と最も多い。男女とも50代では8割近い人が「福島県」と回答している。女性10~20代は32.3%が「関東」と回答している。(図表2-4-2)

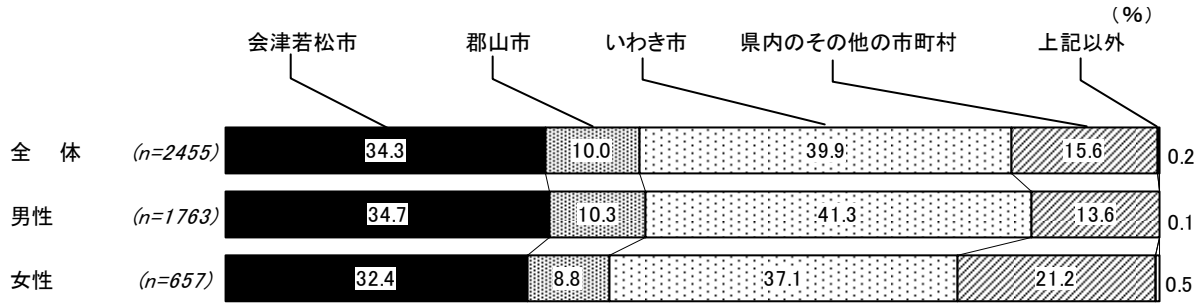
図表2-4-2 現在避難している先の自治体(都道府県)(性・年代別)



福島県内で避難している世帯(2,455 世帯)の県内での避難先は、「いわき市」が 39.9%で最も多く、次いで「会津若松市」(34.3%)、「郡山市」(10.0%)などの順となっている。(図表 2-4-3)

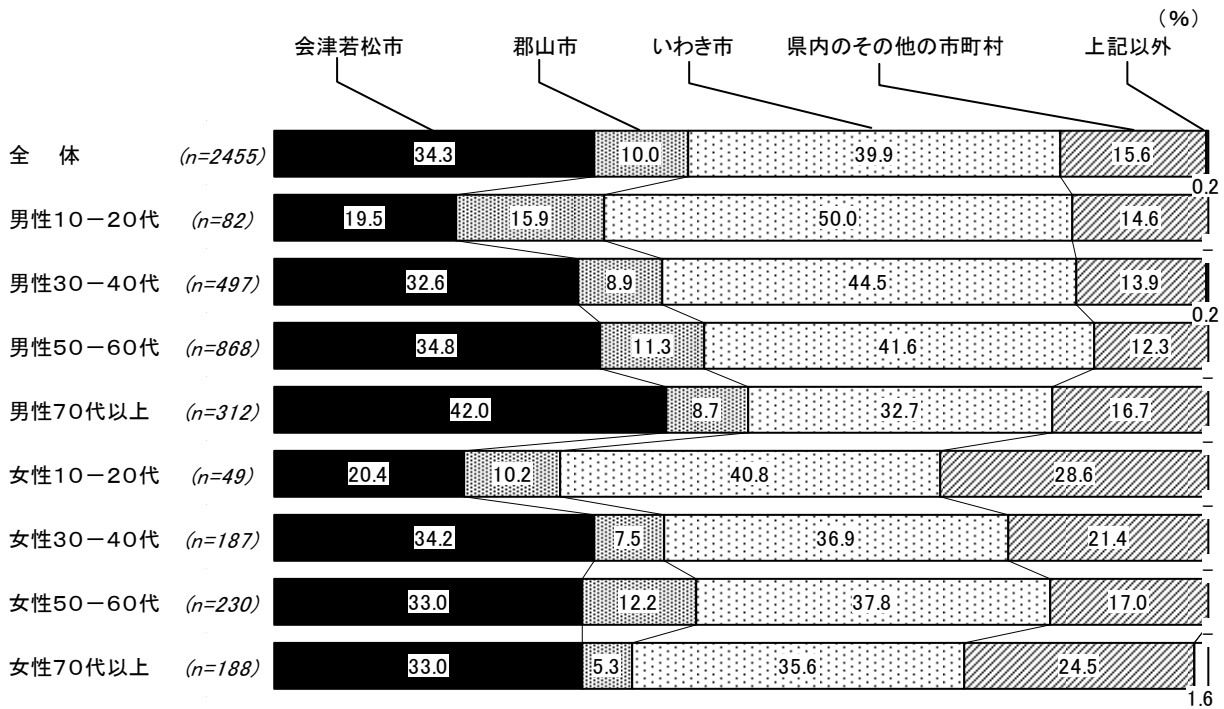
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-4-3)

図表 2-4-3 現在避難している先の自治体(福島県内)(男女別)



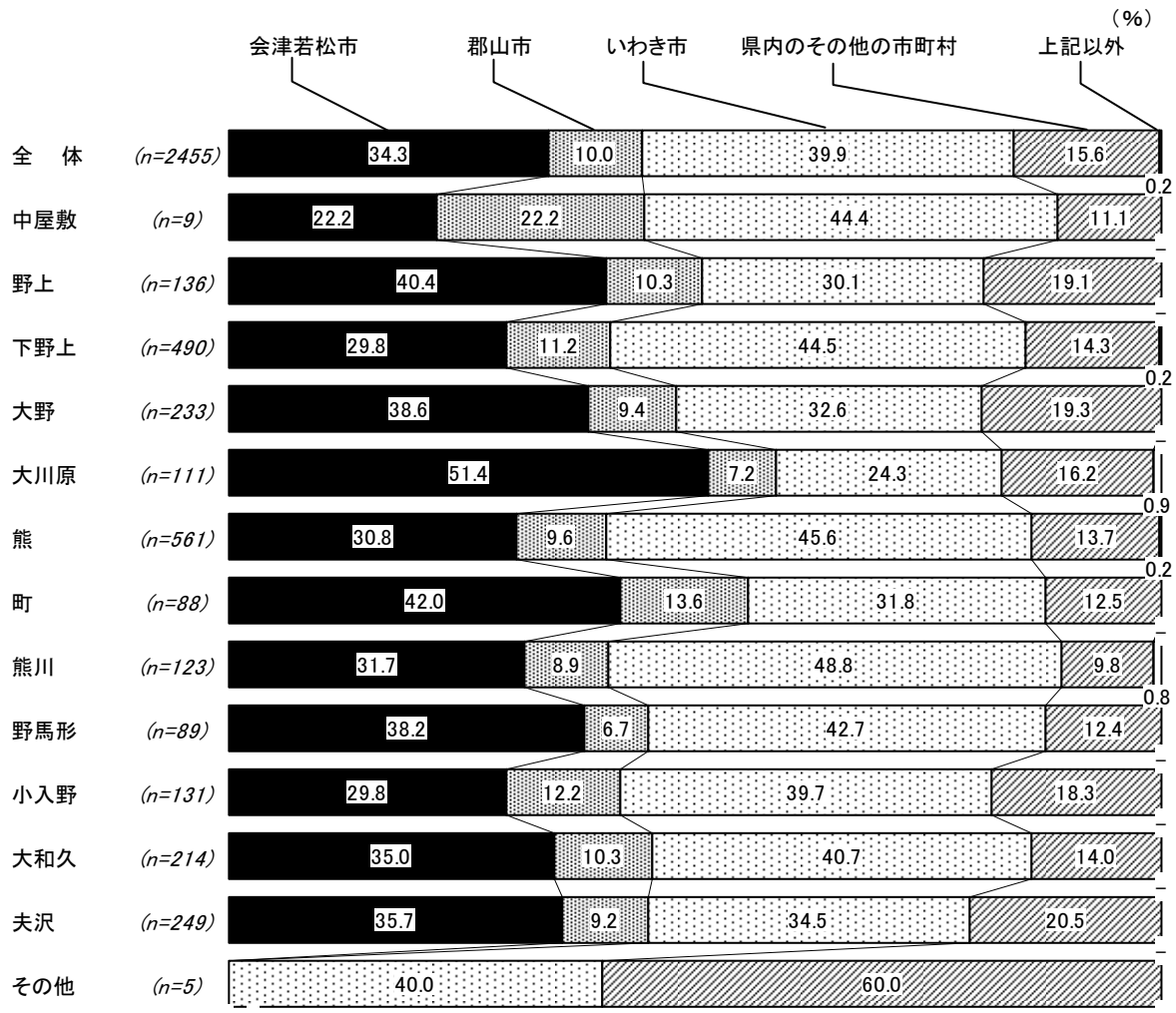
性・年代別に見ると、若い年代では「いわき市」に避難しており、10~20代の男性は50.0%である。一方、70代以上の男性では42.0%が「会津若松市」に避難していると回答している。(図表 2-4-4)

図表 2-4-4 現在避難している先の自治体(福島県内)(性・年代別)



震災発生当時の居住地区別に見ると、大川原地区、町地区、野上地区住民の世帯は 4～5 割が、現在「会津若松市」に居住している。下野上地区、熊地区、熊川地区、野馬形地区、小入野地区、大和久地区の住民では、現在「いわき市」居住世帯が 4 割前後と他の地区住民より多くなっている。(図表 2-4-5)

図表 2-4-5 現在避難している先の自治体(福島県内)(震災発生当時の居住地区別)



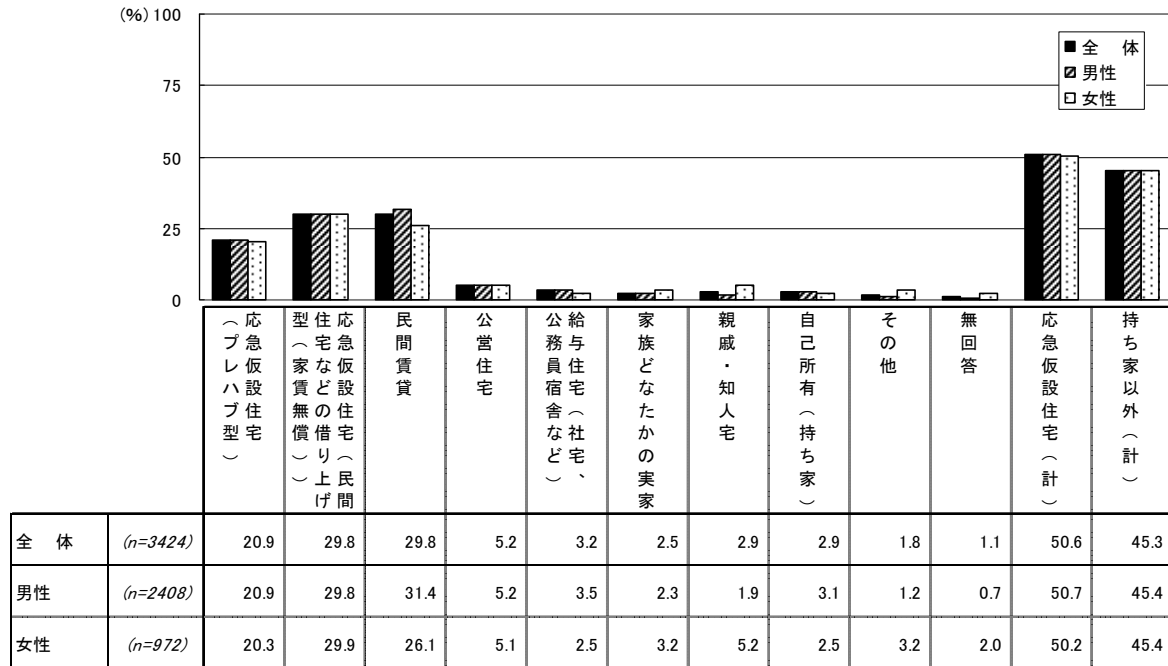
(5) 現在の住居種別

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態としては、「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」と、「民間賃貸」居住世帯が同率で29.8%と最も多く、次いで「応急仮設住宅(プレハブ型)」居住世帯が20.9%である。(図表2-5-1)

男女別に見ても、差はみられない。(図表2-5-1)

図表2-5-1 現在の住居種別(男女別)



性・年代別に見ると、男女とも高齢層ほど「応急仮設住宅(プレハブ型)」居住世帯が多く、70代以上では3割前後となっている。一方、男女とも若年層ほど「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」居住世帯が多く、男女とも10~20代では4割を超える。なお、女性では30~40代でも4割強となっている。(図表2-5-2)

図表2-5-2 現在の住居種別(性・年代別)

		応急仮設住宅(プレハブ型)	応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))	民間賃貸	公営住宅	給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	家族どなたかの実家	親戚・知人宅	自己所有(持ち家)	その他	無回答	応急仮設住宅(計)	持ち家以外(計)
全体	(n=3424)	20.9	29.8	29.8	5.2	3.2	2.5	2.9	2.9	1.8	1.1	50.6	45.3
男性10-20代	(n=131)	8.4	42.0	28.2	1.5	12.2	3.8	2.3	0.8	-	0.8	50.4	48.1
男性30代	(n=357)	11.5	37.5	35.0	4.2	3.1	4.2	1.4	1.4	1.1	0.6	49.0	49.0
男性40代	(n=371)	19.1	32.6	32.9	3.0	4.3	2.7	1.6	2.7	0.8	0.3	51.8	45.3
男性50代	(n=551)	18.5	31.2	31.9	4.9	4.9	2.4	1.1	3.6	0.4	1.1	49.7	45.6
男性60代	(n=598)	26.1	25.3	30.6	7.2	1.3	1.3	2.3	4.0	1.2	0.7	51.3	44.0
男性70代以上	(n=396)	30.6	20.7	28.5	6.8	1.5	1.0	3.0	3.8	3.0	1.0	51.3	43.9
女性10-20代	(n=96)	6.3	43.8	33.3	7.3	4.2	4.2	-	1.0	-	-	50.0	49.0
女性30代	(n=128)	16.4	42.2	25.0	4.7	3.1	4.7	3.1	0.8	-	-	58.6	40.6
女性40代	(n=131)	17.6	41.2	23.7	6.1	3.1	3.1	0.8	3.1	0.8	0.8	58.8	37.4
女性50代	(n=163)	17.2	35.6	30.7	4.9	1.8	2.5	2.5	1.8	1.2	1.8	52.8	43.6
女性60代	(n=150)	23.3	24.0	32.0	7.3	2.7	1.3	4.0	2.7	1.3	1.3	47.3	48.7
女性70代以上	(n=301)	27.6	15.3	20.3	3.3	1.7	3.7	12.0	3.7	8.6	4.0	42.9	49.5

現在の避難先別に見ると、会津若松市居住世帯の 41.9%は「応急仮設住宅(プレハブ型)」に居住している。一方、郡山市に避難している世帯では「応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))」(46.7%)、「民間賃貸」(48.8%)との回答が、他の市町村と比べて高い。(図表 2-5-3)

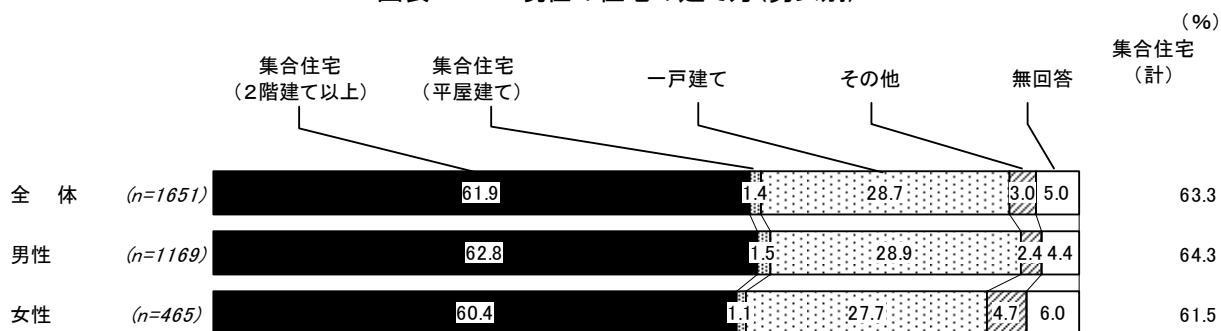
図表 2-5-3 現在の住居種別(現在の避難先別)

		応急仮設住宅(プレハブ型)	応急仮設住宅(民間住宅などの借り上げ型(家賃無償))	民間賃貸	公営住宅	給与住宅(社宅、公務員宿舎など)	家族どなたかの実家	親戚・知人家	自己所有(持ち家)	その他	無回答	応急仮設住宅(計)	持ち家以外(計)
全 体	(n=3424)	20.9	29.8	29.8	5.2	3.2	2.5	2.9	2.9	1.8	1.1	50.6	45.3
会津若松市	(n=842)	41.9	33.6	20.5	1.3	0.4	0.2	0.1	0.6	0.6	0.7	75.5	23.2
郡山市	(n=246)	0.4	46.7	48.8	0.4	-	0.4	-	2.0	0.8	0.4	47.2	50.4
いわき市	(n=980)	29.1	28.2	31.6	1.2	1.3	1.3	1.3	4.2	1.0	0.7	57.2	37.9
県内のその他の市町村	(n=383)	12.5	35.2	30.3	1.6	2.6	5.7	3.7	3.1	3.7	1.6	47.8	47.5
県外	(n=909)	0.3	21.9	32.2	15.8	9.0	5.2	7.3	3.9	3.2	1.2	22.2	72.7

現在、応急仮設住宅以外に居住している世帯(1,651 世帯)に、現在居住の住宅の建て方を聞いたところ、「集合住宅(2階建て以上)」が 61.9%と最も多く、次いで「一戸建て」居住世帯が 28.7%である。

男女別に見ても、差はみられない。(図表 2-5-4)

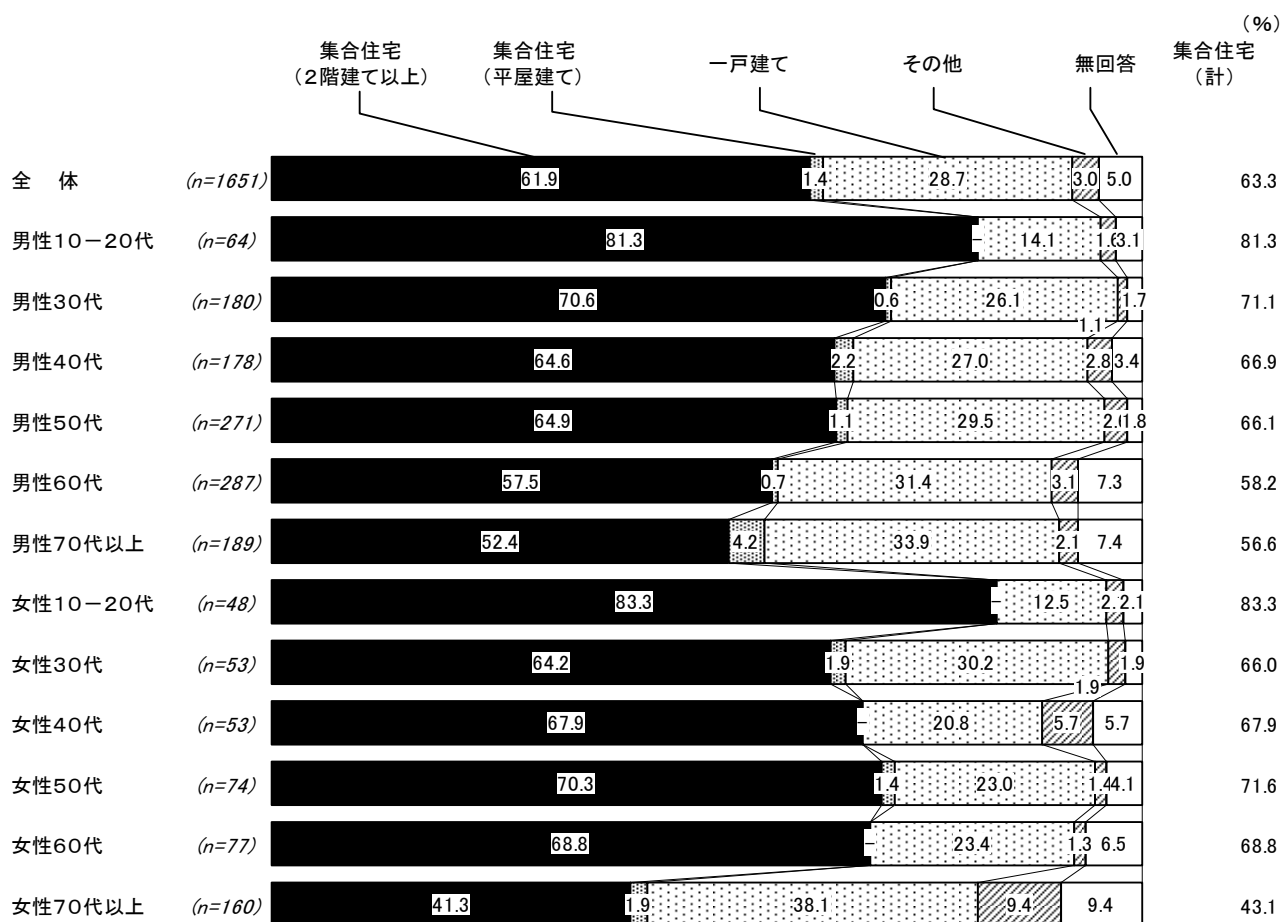
図表 2-5-4 現在の住宅の建て方(男女別)



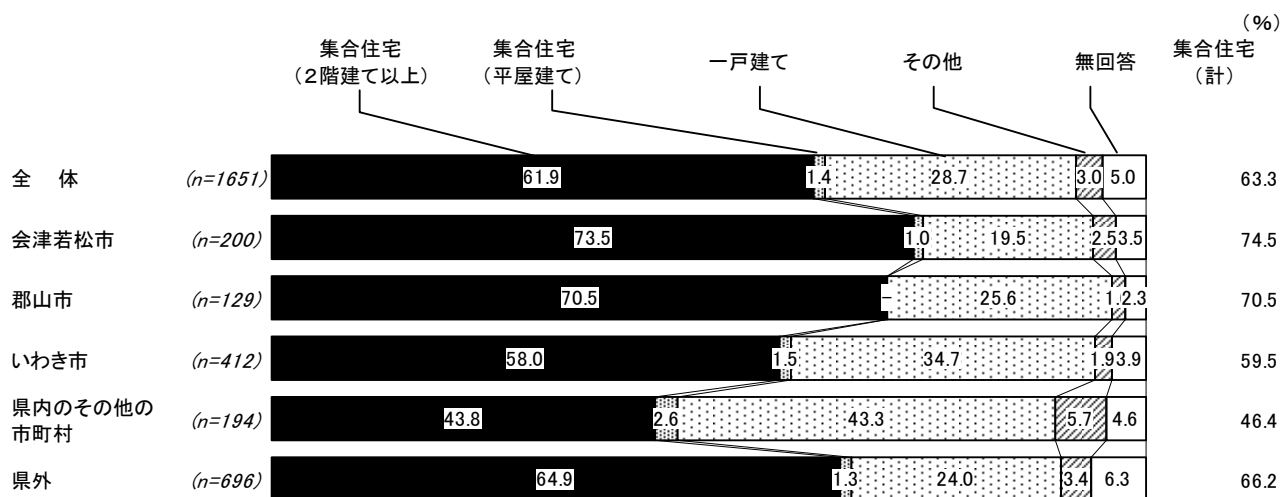
性・年代別に見ると、男女とも10～20代では「集合住宅(2階建て以上)」が高く8割を超える。(図表2-5-5)

現在の避難先別に見ると、会津若松市、郡山市に避難している世帯では「集合住宅(2階建て以上)」が、他の市町村へ避難している世帯よりも高く、会津若松市が73.5%、郡山市が70.5%、県外が64.9%である。一方、「一戸建て」は、県内のその他の市町村で43.3%、いわき市で34.7%と他の市町村に比べて高い。(図表2-5-6)

図表 2-5-5 現在の住宅の建て方(性・年代別)



図表 2-5-6 現在の住宅の建て方(現在の避難先別)



(6) 現在の職業

1) 現在の職業

問 11 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。(〇は1つ)

現在の職業を聞いたところ、「無職(退職していた場合も含む)」が 48.8%で最も多く、「学生」(0.6%)を合わせると約半数が職に就いていない。有職者は、「会社員(労務)」(24.5%)、「会社員(事務)」(8.4%)、「自営業」(4.7%)などの順となっている。(図表 2-6-1①)

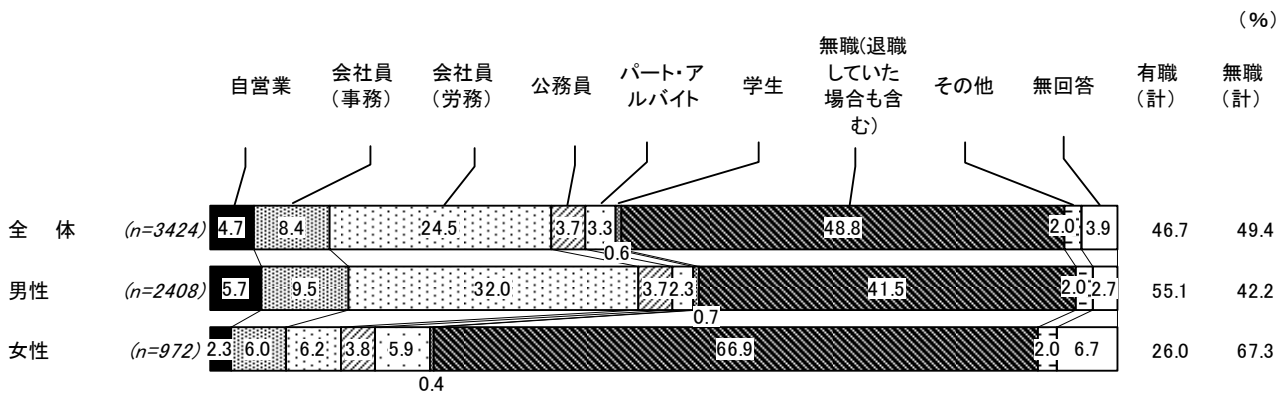
有職者(1,598 人)の業種としては、「建設業」(25.7%)が最も多く、続いて「卸・小売り・飲食、サービス業」と「電気・ガス」が同率で 18.8%、「製造業」(9.3%)などの順となっている。(図表 2-6-1②)

男女別に職業を見ると、「会社員(労務)」(男性 32.0%、女性 6.2%)は女性より男性に多く、男女差が大きくなっている。一方、「無職(退職していた場合も含む)」は、女性で 66.9%と、男性を約 25 ポイント上回っている。(図表 2-6-1①)

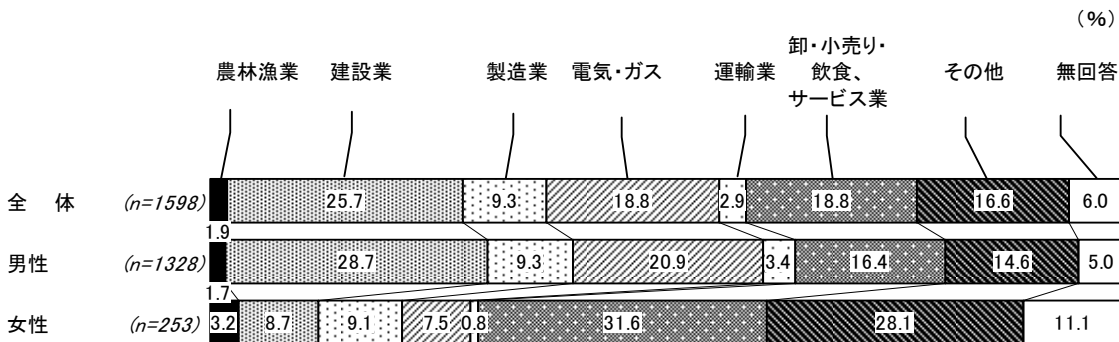
さらに業種を見ると、「建設業」従事者(男性 28.7%、女性 8.7%)は女性より男性に多く、「卸・小売り・飲食、サービス業」(同 16.4%、31.6%)は男性より女性に、それぞれ高くなっている。(図表 2-6-1②)

図表 2-6-1 現在の職業(男女別)

①職業



②業種



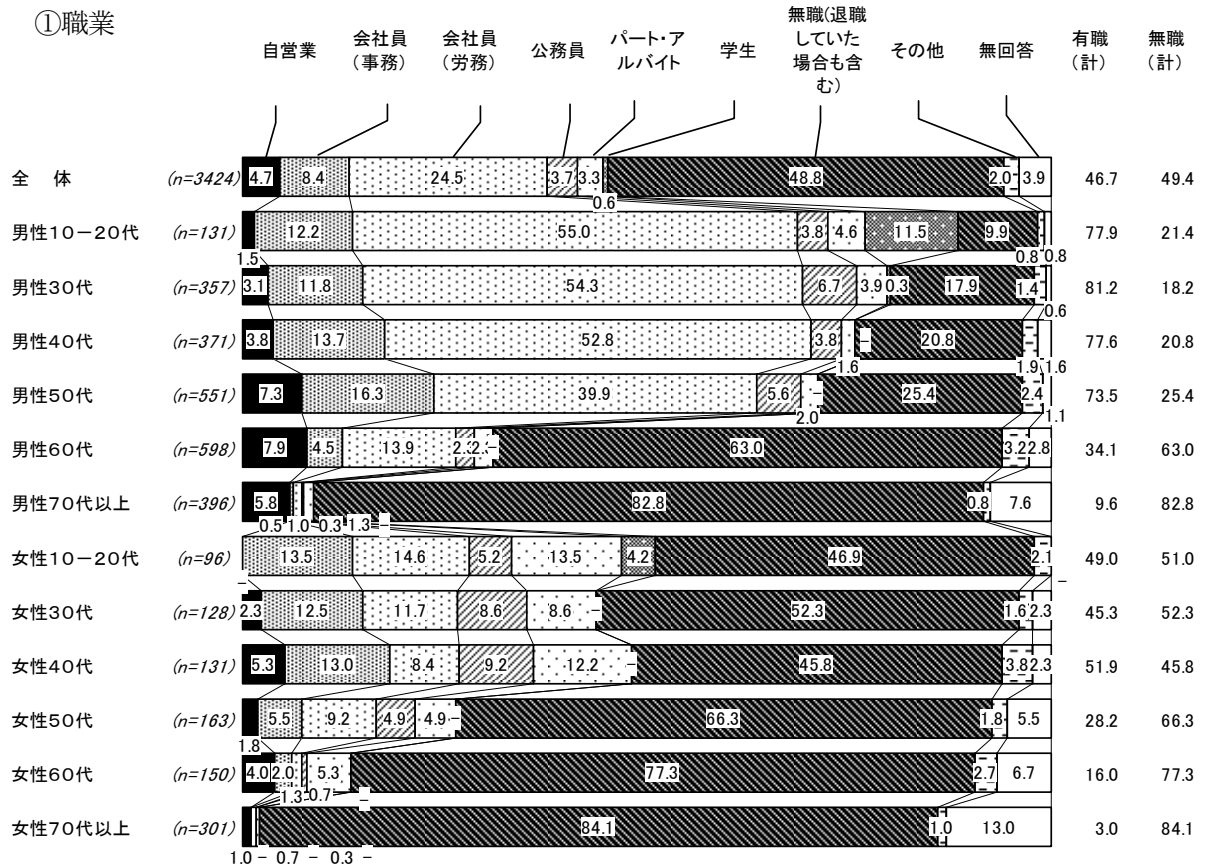


性・年代別に職業を見ると、男性の10～40代では「会社員(労務)」が5割以上を占めている。一方、女性の10～40代は半数前後が有職で、「パート・アルバイト」で働いている回答者が、他の性・年代よりやや多い。(図表2-6-2①)  
 「無職(退職していた場合も含む)」は、男女とも70代以上になると8割を超える。(図表2-6-2①)  
 性・年代別に業種を見ると、男性の30～60代で、「建設業」従事者が3割前後、男性10～50代では「電気・ガス」が2～3割程度を占める。(図表2-6-2②)

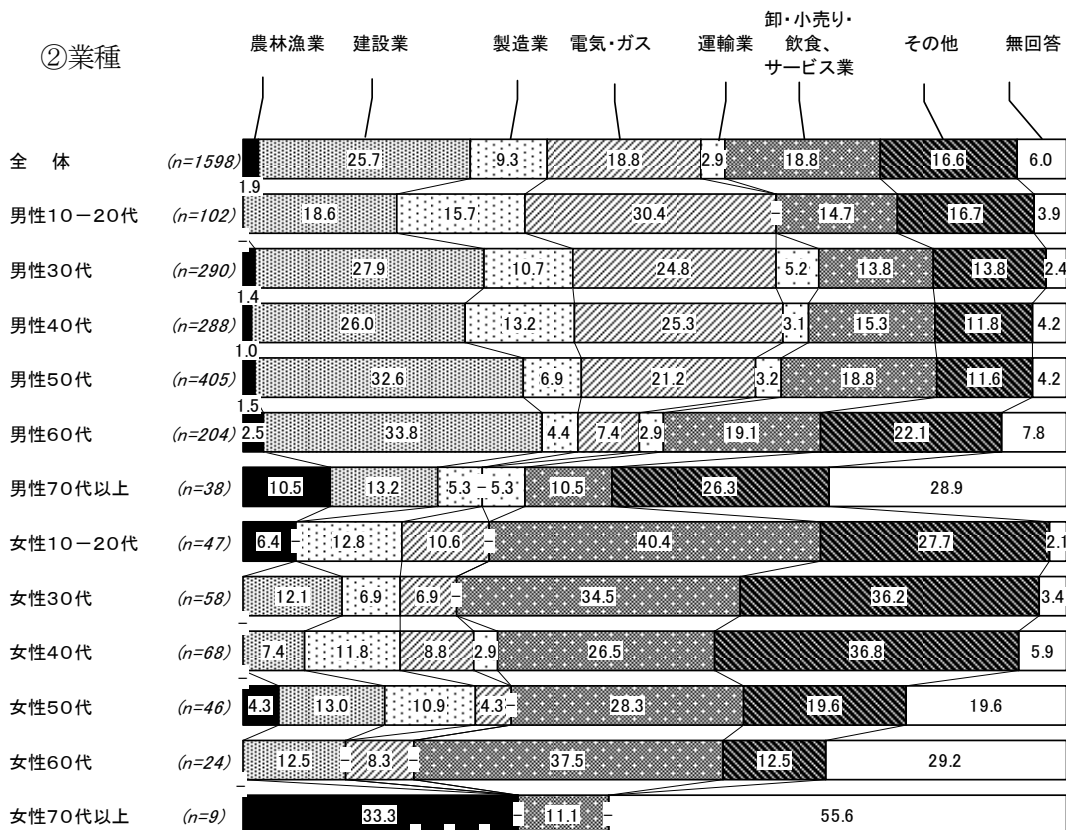
図表 2-6-2 現在の職業(性・年代別)

(%)

①職業



②業種



## 2) 震災発生当時の職業との違い

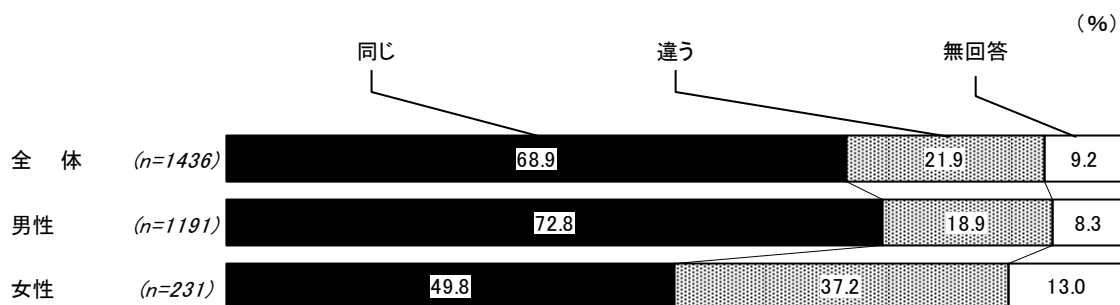
【自営業以外で仕事についている方にうかがいます。】

問 11-1 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

自営業以外の有職者(1,436 人)に、現在の職業が震災発生当時の職業と同じかどうかを聞いたところ、現在の職業が、震災発生当時と「同じ」である回答者は 68.9%を占める。(図表 2-6-3)

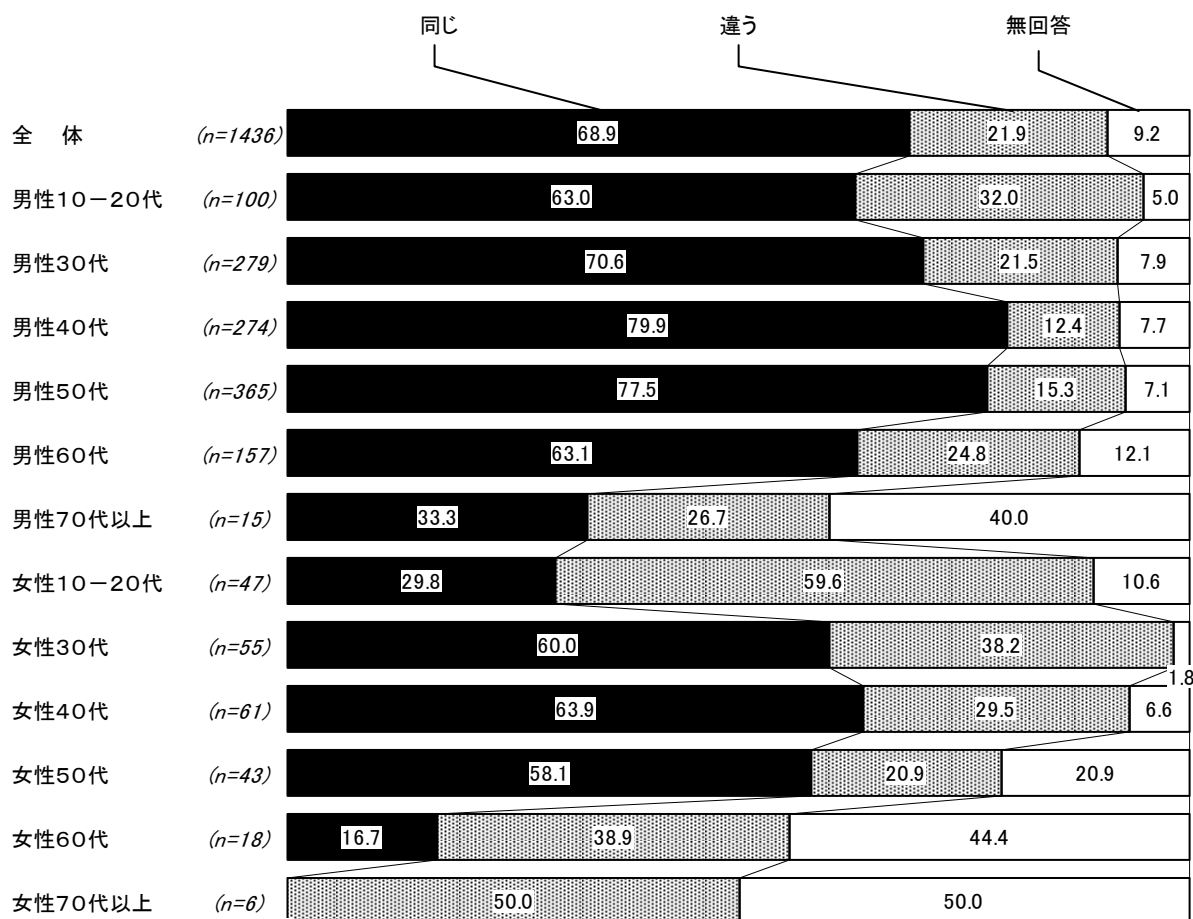
男女別に見ると、女性では「違う」が 37.2%を占め、「同じ」は約半数となっている。(図表 2-6-3)

図表 2-6-3 震災発生当時の職業との違い(男女別)



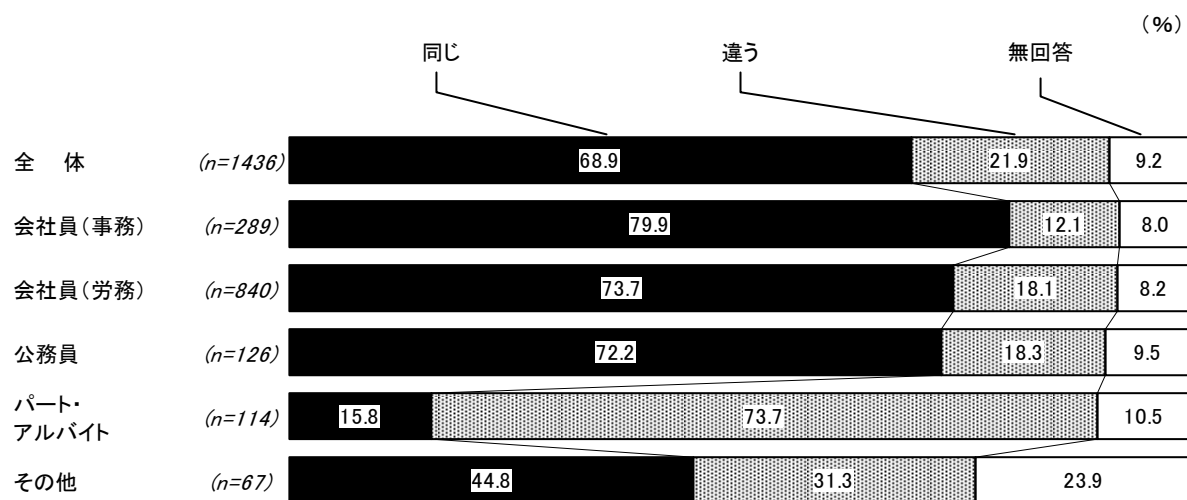
性・年代別に見ると、男性では 40～50 代で震災発生当時と「同じ」職業に就いている者が特に多く、8割に近くなっている。女性では 30～50 代で6割前後が「同じ」となっている。(図表 2-6-4)

図表 2-6-4 震災発生当時の職業との違い(性・年代別)



現在の職業別に見ると、現在パート・アルバイトの回答者では、震災発生当時とは職業が「違う」という回答者が73.7%にのぼる。(図表 2-6-5)

図表 2-6-5 震災発生当時の職業との違い(現在の職業別)



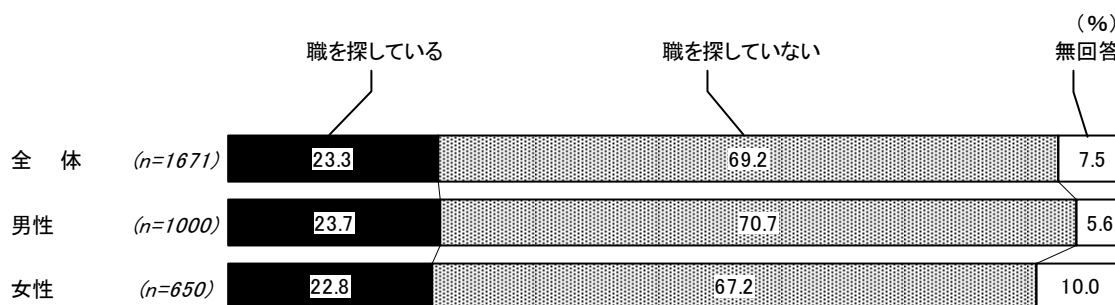
### 3) 求職状況

【問 11(1)職業で、「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 12 へお進みください。】  
問 11-2 あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ)

現在無職の回答者(1,671 人)に求職状況を聞いたところ、「職を探している」という回答は 23.3%にとどまり、多数は「職を探していない」(69.2%)と回答している。(図表 2-6-6)

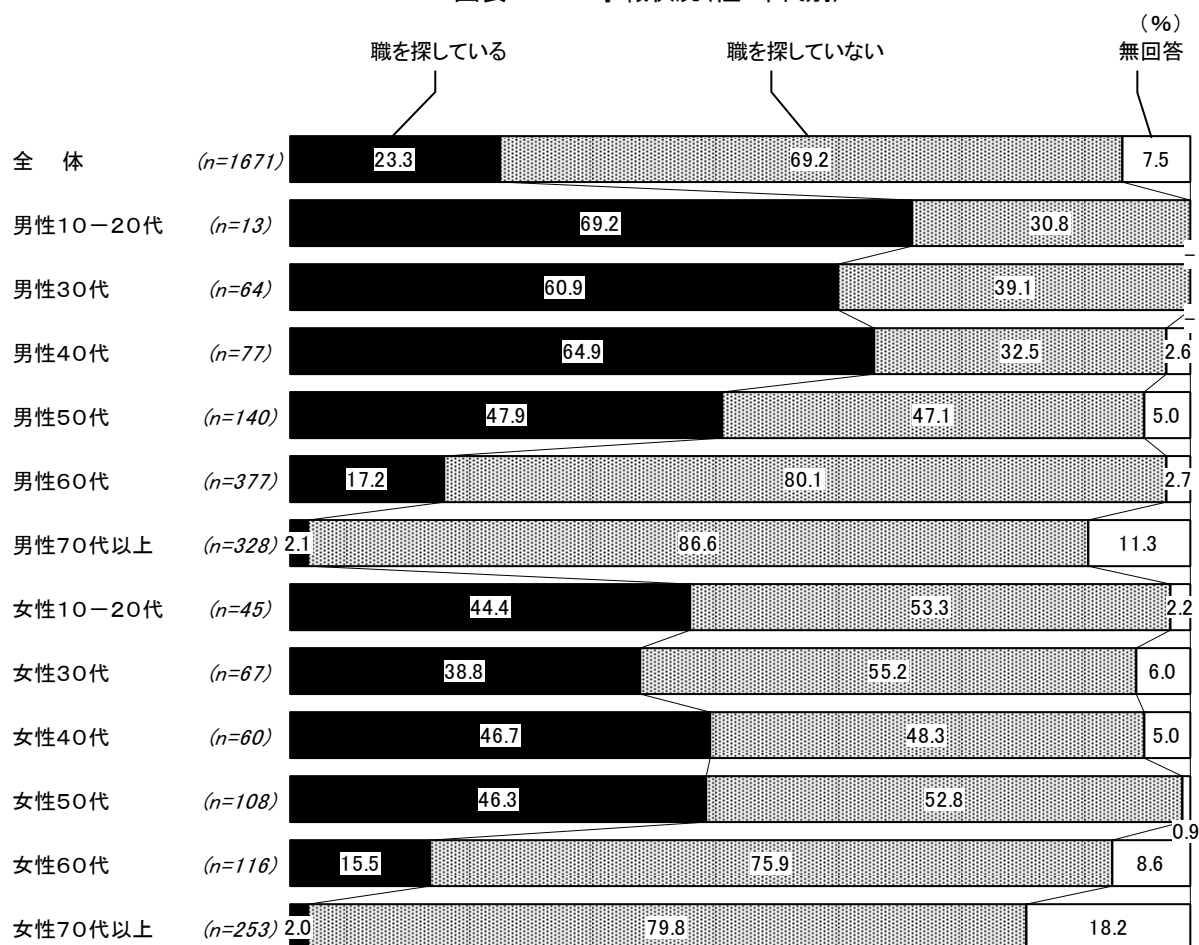
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-6-6)

図表 2-6-6 求職状況(男女別)



性・年代別に見ると、「職を探している」は、男性は40代以下では6割台で、女性10~50代では4割前後を占める。男女ともに60代以上では8割前後が「職を探していない」と回答している。(図表 2-6-7)

図表 2-6-7 求職状況(性・年代別)

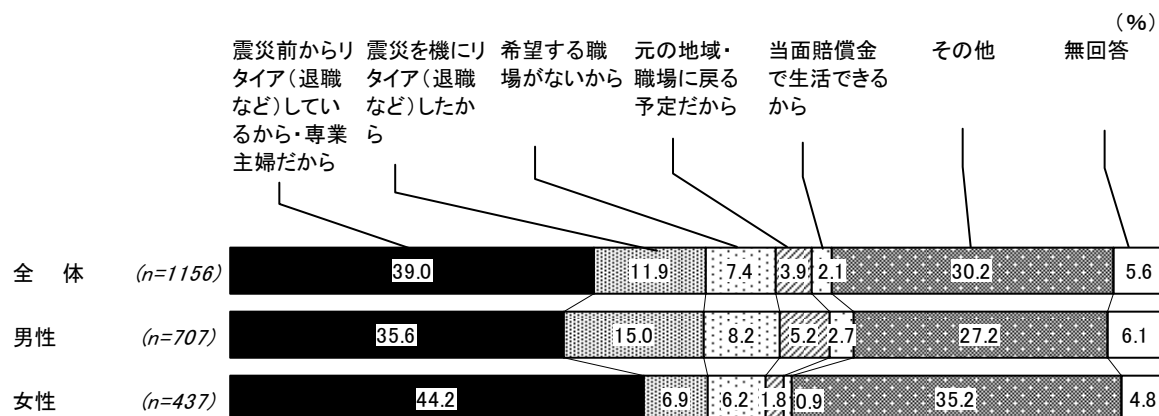


【問 10-2 で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。  
 問 11-3 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(〇は1つ)

職を探していない回答者(1,156 人)の理由としては、「震災前からリタイア(退職など)しているから・専業主婦だから」が 39.0%を占め、以下「震災を機にリタイア(退職など)したから」(11.9%)、「希望する職場がないから」(7.4%)、「元の地域・職場に戻る予定だから」(3.9%)、「当面賠償金で生活できるから」(2.1%)の順となっている。(図表 2-6-8)

男女別に見ると、「震災前からリタイア(退職など)しているから・専業主婦だから」は男性より女性のほうが高く、「震災を機にリタイア(退職など)したから」は女性より男性の方が高い。(図表 2-6-8)

図表 2-6-8 職を探していない理由(男女別)



性・年代別に見ると、男女ともに 60 代以上で「震災前からリタイア(退職など)しているから・専業主婦だから」が他の性・年代よりも高く、男性 70 代以上と女性 60 代以上では半数を超える。(図表 2-6-9)

図表 2-6-9 職を探していない理由(性・年代別)

性・年代	震災前からリタイア(退職など)しているから・専業主婦だから	震災を機にリタイア(退職など)したから	希望する職場がないから	元の地域・職場に戻る予定だから	当面賠償金で生活できるから	その他	無回答
全体 (n=1156)	39.0	11.9	7.4	3.9	2.1	30.2	5.6
男性 10-20代 (n=4)	-	-	25.0	25.0	-	50.0	-
男性 30代 (n=25)	4.0	-	-	20.0	12.0	60.0	4.0
男性 40代 (n=25)	4.0	-	20.0	20.0	-	52.0	4.0
男性 50代 (n=66)	6.1	16.7	27.3	6.1	7.6	31.8	4.5
男性 60代 (n=302)	33.1	23.5	9.3	3.6	2.6	23.8	4.0
男性 70代以上 (n=284)	51.4	8.5	2.1	3.9	1.1	23.9	9.2
女性 10-20代 (n=24)	50.0	4.2	4.2	-	-	41.7	-
女性 30代 (n=37)	18.9	2.7	13.5	5.4	-	54.1	5.4
女性 40代 (n=29)	20.7	10.3	20.7	3.4	3.4	37.9	3.4
女性 50代 (n=57)	22.8	8.8	14.0	1.8	1.8	49.1	1.8
女性 60代 (n=88)	51.1	17.0	6.8	3.4	-	20.5	1.1
女性 70代以上 (n=202)	54.5	2.5	0.5	0.5	1.0	33.2	7.9

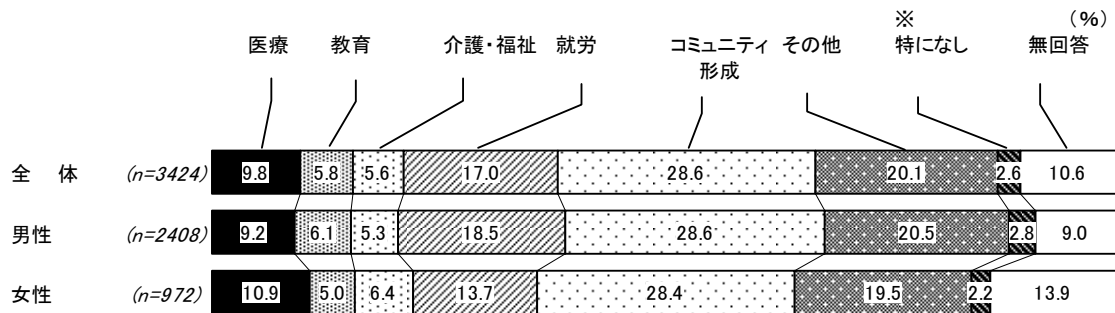
(7) 避難生活の中で困っていること

問 12 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。(〇は1つ)

現在の避難生活で困っていること、改善を求めていることとしては、「コミュニティ形成」という回答が 28.6%で最も多く、次いで「就労」(17.0%)、「医療」(9.8%)、「教育」(5.8%)の順となっている。(図表 2-7-1)

男女別に見ると、「就労」(男性 18.5%、女性 13.7%)は女性より男性に多くなっている。(図表 2-7-1)

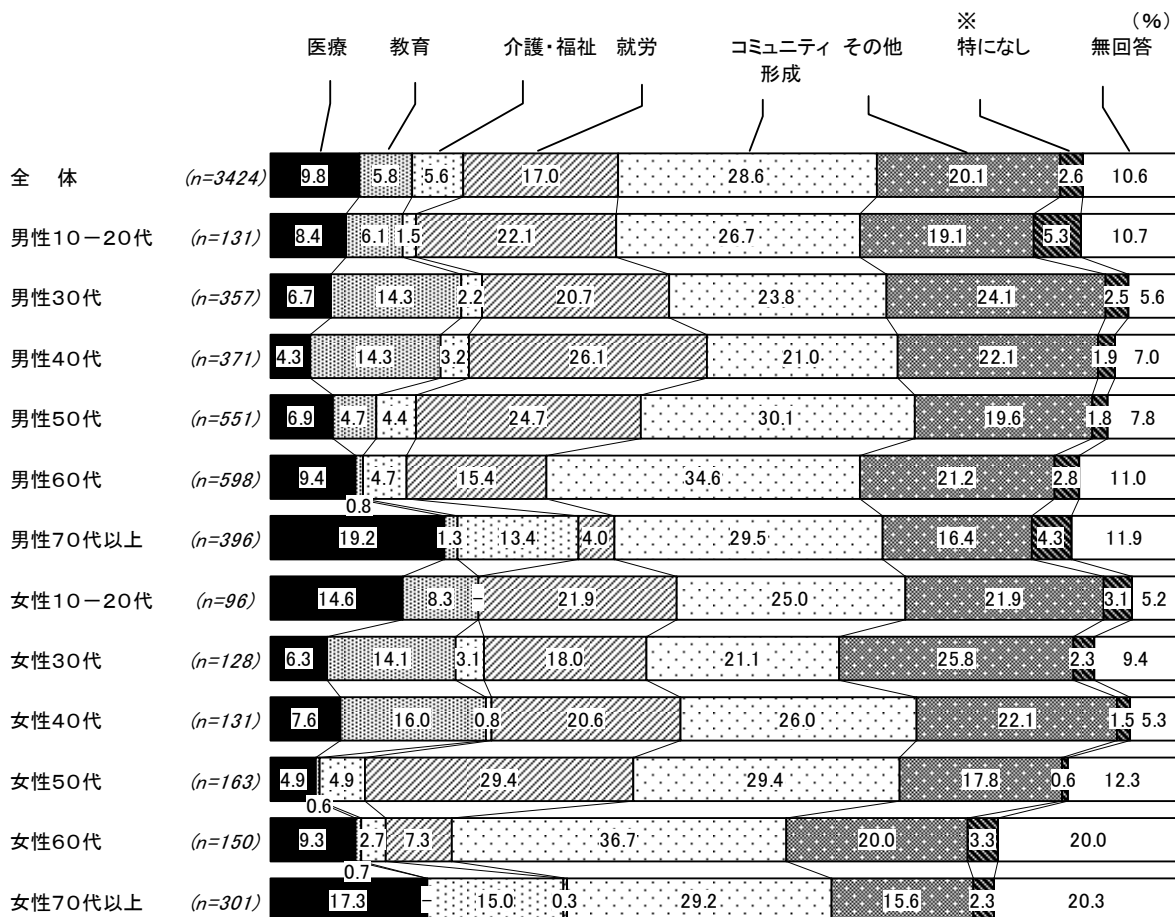
図表 2-7-1 避難生活の中で困っていること(男女別)



※特になしはその他自由回答から起こしたもの

性・年代別に見ると、「コミュニティ形成」は男女とも 60代で要望がやや強く、男女とも 70代以上になると「医療」、「介護・福祉」への要望が、他の性・年代に比べて強くなっている。また、男女ともに 30~40代では「教育」、男性 40~50代と女性 50代では「就労」が他の性・年代に比べて強い。(図表 2-7-2)

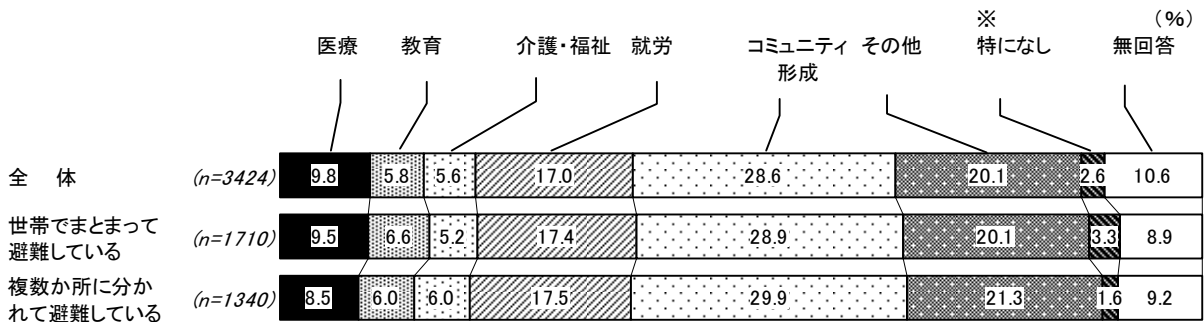
図表 2-7-2 避難生活の中で困っていること(性・年代別)



※特になしはその他自由回答から起こしたもの

世帯の避難状況別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-7-3)

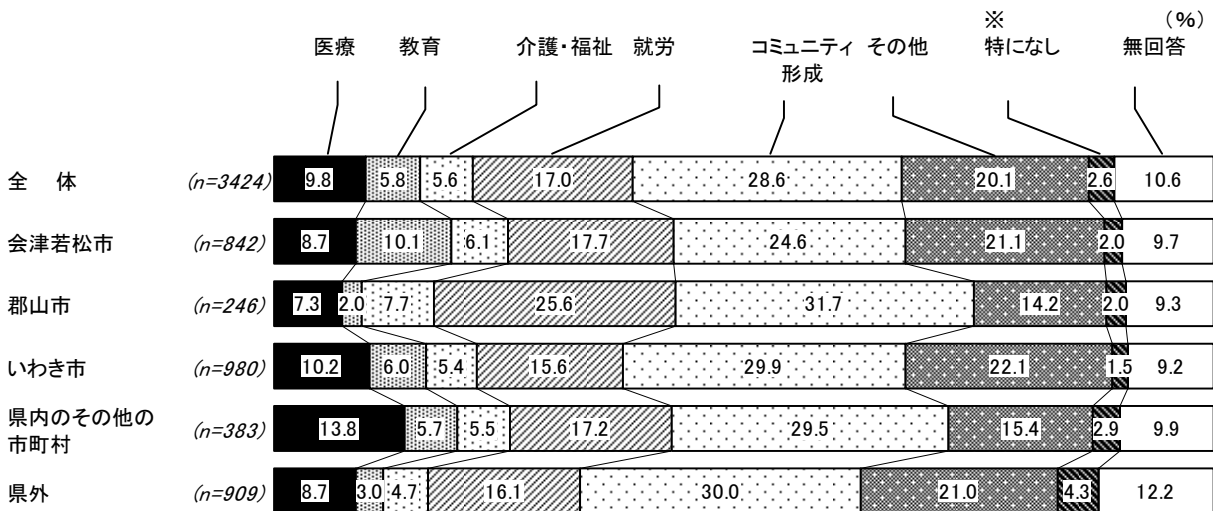
図表 2-7-3 避難生活の中で困っていること(世帯の避難状況別)



※特になしはその他自由回答から起こしたものの

現在の避難先別に見ると、「就労」は、郡山市の避難世帯で、ほぼ 4 人に 1 人が要望している。(図表 2-7-4)

図表 2-7-4 避難生活の中で困っていること(現在の避難先別)



※特になしはその他自由回答から起こしたものの

(8) 医療サービスについて困っていること

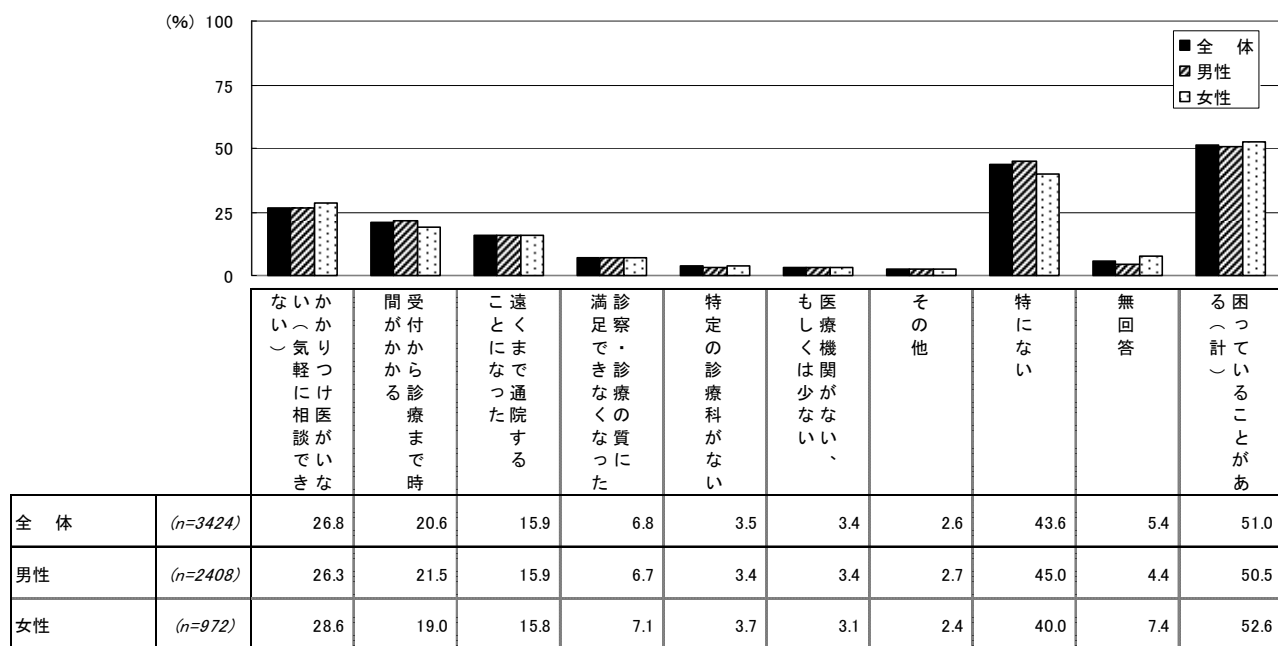
問 13 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

医療サービスについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」が 26.8%で最も多くあげられ、以下「受付から診療まで時間がかかる」(20.6%)、「遠くまで通院することになった」(15.9%)などの順にあげられている。(図表 2-8-1)

「特にない」という回答者も、43.6%を占めた。(図表 2-8-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-8-1)

図表 2-8-1 医療サービスについて困っていること(男女別)





性・年代別に見ると、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」が男性は若年層ほど高く、男性 10～20 代では 35.1%を占める。女性は 10～20 代では 27.1%であるが、30 代では 43.8%を占める。また、男女とも高齢層ほど「遠くまで通院することになった」が高く、男女とも 70 代以上では約 4 分の 1を占める。(図表 2-8-2)

図表 2-8-2 医療サービスについて困っていること(性・年代別)

		(%)									
		かかりつけ 医がない (気軽に相談 できない)	受付から診 療まで時間 がかかる	遠くまで通院 すること になった	診察・診療 の質に満足 できなくな った	特定の診療 科がない	医療機関が ない、もし は少ない	その他	特にない	無回答	困っている ことがある (計)
全 体	(n=3424)	26.8	20.6	15.9	6.8	3.5	3.4	2.6	43.6	5.4	51.0
男性10-20代	(n=131)	35.1	27.5	8.4	9.2	3.1	3.8	1.5	42.0	2.3	55.7
男性30代	(n=357)	34.2	24.4	11.5	8.1	5.0	4.2	3.6	42.0	2.0	56.0
男性40代	(n=371)	30.5	21.0	11.1	4.0	2.7	3.0	2.4	49.3	3.5	47.2
男性50代	(n=551)	28.5	19.8	15.2	6.9	3.6	2.7	2.2	46.1	4.0	49.9
男性60代	(n=598)	21.2	18.6	17.1	7.2	2.5	3.7	2.3	47.5	6.0	46.5
男性70代以上	(n=396)	17.2	24.0	26.0	6.1	3.8	3.3	3.8	39.9	6.6	53.5
女性10-20代	(n=96)	27.1	24.0	7.3	8.3	4.2	2.1	2.1	39.6	7.3	53.1
女性30代	(n=128)	43.8	19.5	10.9	7.0	5.5	4.7	3.1	39.8	1.6	58.6
女性40代	(n=131)	36.6	19.1	8.4	8.4	0.8	1.5	1.5	39.7	3.8	56.5
女性50代	(n=163)	33.1	15.3	12.3	4.3	2.5	1.2	3.7	43.6	6.1	50.3
女性60代	(n=150)	23.3	15.3	17.3	4.7	3.3	2.7	2.0	44.0	8.7	47.3
女性70代以上	(n=301)	19.6	21.3	25.2	9.0	5.0	4.7	2.0	35.9	11.6	52.5

現在の避難先別に見ると、いわき市居住者で「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)」(33.9%)、「受付から診療まで時間がかかる」(30.6%)という不満が、他の避難先より多くあげられている。(図表 2-8-3)

図表 2-8-3 医療サービスについて困っていること(現在の避難先別)

		(%)									
		かかりつけ 医がない (気軽に相談 できない)	受付から診 療まで時間 がかかる	遠くまで通院 すること になった	診察・診療 の質に満足 できなくな った	特定の診療 科がない	医療機関が ない、もし は少ない	その他	特にない	無回答	困っている ことがある (計)
全 体	(n=3424)	26.8	20.6	15.9	6.8	3.5	3.4	2.6	43.6	5.4	51.0
会津若松市	(n=842)	21.6	20.8	15.9	6.2	2.1	1.1	2.1	48.0	5.2	46.8
郡山市	(n=246)	22.4	17.9	12.2	4.9	1.2	1.6	2.8	51.2	6.1	42.7
いわき市	(n=980)	33.9	30.6	17.6	8.8	4.3	3.4	2.1	35.5	3.7	60.8
県内のその他の 市町村	(n=383)	24.5	17.2	20.4	5.5	6.3	9.1	1.3	40.5	6.3	53.3
県外	(n=909)	27.2	11.9	12.9	6.4	3.3	3.5	4.2	48.6	5.3	46.1

(9) 介護・福祉サービスについて困っていること

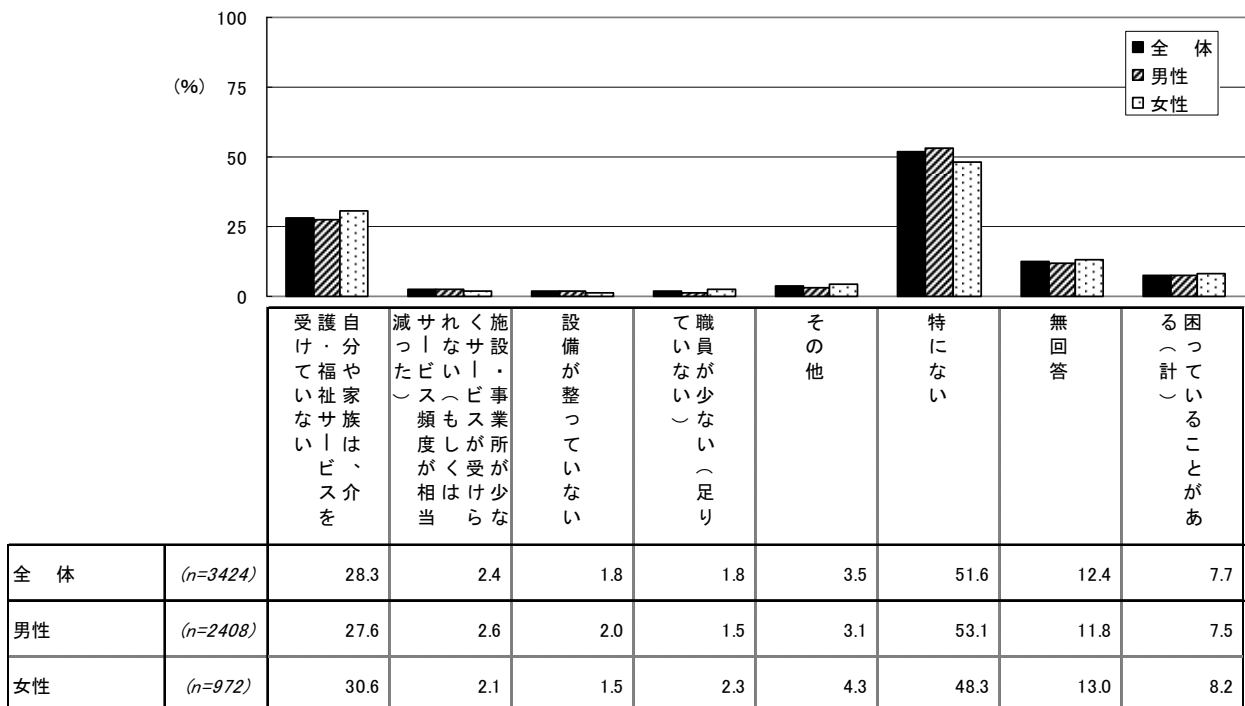
問 14 ご自身もしくはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

介護・福祉サービスで困っていることとしては、「施設が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 2.4%、「設備が整っていない」が 1.8%、「職員が少ない(足りていない)」が 1.8%の順にあげられている。

介護・福祉サービスで困っていることが「特にない」は 51.6%、「自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない」は 28.3%を占める。(図表 2-9-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-9-1)

図表 2-9-1 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



(10) 教育(学校)について困っていること

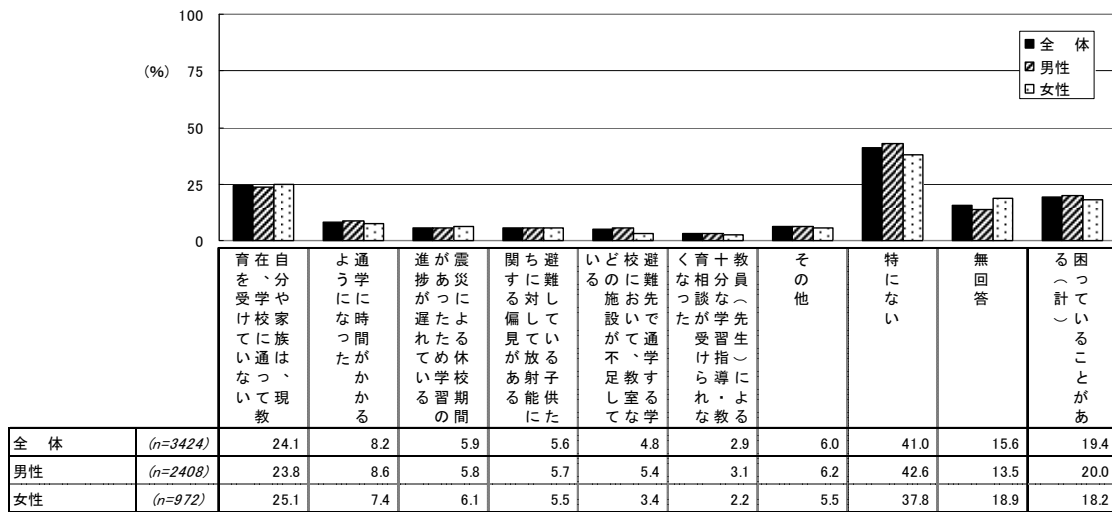
問 15 教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

教育(学校)について困っていることを聞いたところ、「通学に時間がかかるようになった」が 8.2%で最も多くあげられ、「震災による休校期間などがあったため学習の進捗が遅れている」(5.9%)、「避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある」(5.6%)などの順にあげられている。

教育(学校)について困っていることが「特にない」という回答者は、41.0%、「自分や家族は、現在、学校に通って教育を受けていない」は 24.1%である。(図表 2-10-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-10-1)

図表 2-10-1 教育(学校)について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男女ともに 30～40 代では『困っていることがある(計)』が高く、男性 40 代および女性 30～40 代では 4 割を超えている。(図表 2-10-2)

図表 2-10-2 教育(学校)について困っていること(性・年代別)

	自分や家族 は、現在、学 校に通って 教育を受け ていない	通学に時間 がかかるよ うになった	震災による 休校期間が あったため 学習の進捗 が遅れてい る	避難している 子供たちに 対して放射 能に関する 偏見がある	避難先で通 学する学校 において、教 室などの施 設が不足し ている	教員(先生) による十分 な学習指導 ・教育相談 が受けられ なかった	その他	特にな い	無回答	困ってい ることが ある(計)
全 体 (n=3424)	24.1	8.2	5.9	5.6	4.8	2.9	6.0	41.0	15.6	19.4
男性 10-20代 (n=131)	25.2	6.9	4.6	6.1	4.6	4.6	6.1	52.7	4.6	17.6
男性 30代 (n=357)	17.1	13.4	5.3	9.0	8.7	5.0	13.7	44.8	4.5	33.6
男性 40代 (n=371)	11.1	22.9	12.4	8.9	12.1	6.2	14.6	41.2	5.7	42.0
男性 50代 (n=551)	23.8	6.0	4.7	5.4	3.8	2.7	4.5	46.1	13.4	16.7
男性 60代 (n=598)	30.4	2.8	4.8	3.7	2.7	1.0	1.2	42.1	18.9	8.5
男性 70代以上 (n=396)	31.6	4.0	3.5	3.3	2.5	1.8	1.5	34.8	24.0	9.6
女性 10-20代 (n=96)	34.4	2.1	1.0	3.1	1.0	2.1	5.2	46.9	6.3	12.5
女性 30代 (n=128)	22.7	19.5	7.8	8.6	7.8	3.1	18.0	32.8	3.1	41.4
女性 40代 (n=131)	15.3	19.8	16.8	12.2	7.6	5.3	8.4	35.9	6.1	42.7
女性 50代 (n=163)	31.9	2.5	2.5	3.1	2.5	1.2	3.7	43.6	16.0	8.6
女性 60代 (n=150)	26.0	3.3	5.3	4.7	2.7	2.7	1.3	37.3	27.3	9.3
女性 70代以上 (n=301)	23.6	3.0	4.7	3.0	1.3	0.7	2.0	34.9	32.9	8.6

(11) 就労について困っていること

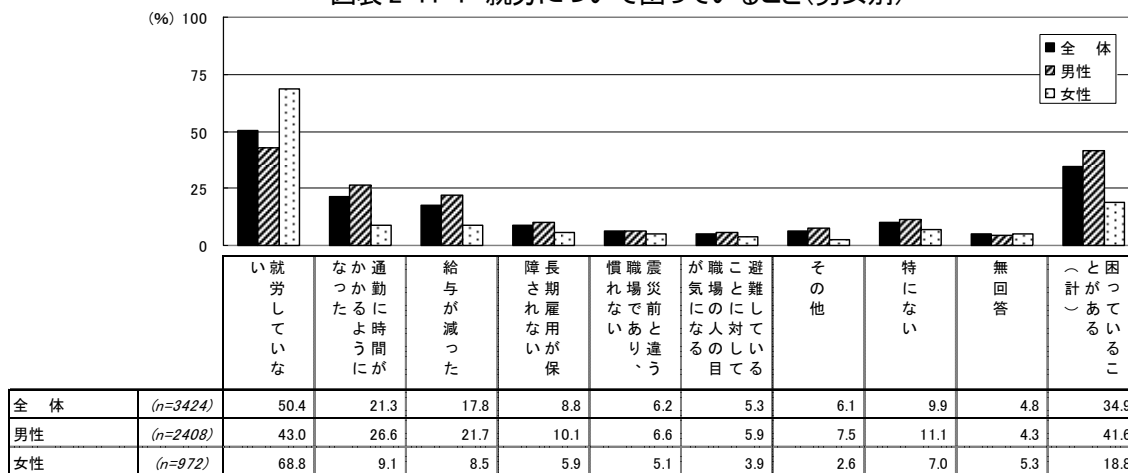
問 16 就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

就労について困っていることを聞いたところ、「通勤に時間がかかるようになった」が 21.3%で最も多くあげられ、以下「給与が減った」(17.8%)、「長期雇用が保障されない」(8.8%)、「震災前と違う職であり、慣れない」(6.2%)などの順となっている。(図表 2-11-1)

就労に関して困っていることが「特にない」という回答者は 9.9%、「就労していない」者は 50.4%である。(図表 2-11-1)

男女別に見ると、女性では、「就労していない」(68.8%)が高いため、男女で大きな差が見られるが、上位項目の順位は男性と変わらない。(図表 2-11-1)

図表 2-11-1 就労について困っていること(男女別)



性・年代別に見ると、男性の 10～50 代では「通勤に時間がかかるようになった」が 4 割前後、「給与が減った」が 3 割以上あげられている。また、男性 40 代では、『困っていることがある(計)』が 67.9%に達しており、他の性・年代より強い。(図表 2-11-2)

図表 2-11-2 就労について困っていること(性・年代別)

		就労して いない	通勤に時間 がかかるよ うになった	給与が減 った	長期雇用が 保障されな い	震災前と違 う職場であ り、慣れな い	避難してい ることに 対して職 場の人の 目が気 になる	その他	特にな い	無回 答	困って いるこ とがあ る(計)
全 体	(n=3424)	50.4	21.3	17.8	8.8	6.2	5.3	6.1	9.9	4.8	34.9
男性10-20代	(n=131)	21.4	40.5	34.4	15.3	11.5	13.7	7.6	19.1	1.5	58.0
男性30代	(n=357)	18.2	39.5	32.8	17.1	12.9	12.3	13.2	15.7	1.7	64.4
男性40代	(n=371)	20.8	46.4	37.2	15.4	8.4	9.2	16.7	8.6	2.7	67.9
男性50代	(n=551)	25.8	37.6	31.2	12.5	9.3	6.4	6.9	13.2	4.4	56.6
男性60代	(n=598)	64.4	10.7	7.5	5.2	2.7	1.5	3.5	10.5	5.2	19.9
男性70代以上	(n=396)	84.8	0.8	1.5	1.3	0.3	0.5	0.5	4.8	7.3	3.0
女性10-20代	(n=96)	51.0	14.6	14.6	12.5	12.5	10.4	2.1	14.6	2.1	32.3
女性30代	(n=128)	52.3	19.5	16.4	9.4	8.6	12.5	6.3	7.8	0.8	39.1
女性40代	(n=131)	46.6	16.8	14.5	10.7	9.9	3.1	9.2	14.5	1.5	37.4
女性50代	(n=163)	68.7	12.9	12.9	7.4	6.7	3.7	1.8	4.3	3.7	23.3
女性60代	(n=150)	78.7	3.3	4.7	2.7	2.0	1.3	-	5.3	8.7	7.3
女性70代以上	(n=301)	86.4	-	0.3	1.0	-	-	-	3.3	9.3	1.0

現在の職業別に見ると、会社員(事務)、会社員(労務)で「通勤に時間がかかるようになった」が半数を超え、「給与が減った」はいずれも 42.6%を占める。また、パート・アルバイトでは、「給与が減った」(44.7%)、「長期雇用が保障されない」(43.0%)、「震災前と違う職であり、慣れない」(31.6%)が他の職業よりも強くなっている。(図表 2-11-4)

図表 2-11-4 就労について困っていること(現在の職業別)

(%)

		就労していない	通勤に時間がかかるようになった	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職場であり、慣れない	避難していることに対して職場の人の目が気になる	その他	特になし	無回答	困っていることがある(計)
全 体	(n=3424)	50.4	21.3	17.8	8.8	6.2	5.3	6.1	9.9	4.8	34.9
自営業	(n=162)	-	27.2	24.1	11.7	3.7	4.3	12.3	24.7	21.6	53.7
会社員(事務)	(n=289)	-	50.5	42.6	13.8	10.7	10.4	12.8	22.8	3.8	73.4
会社員(労務)	(n=840)	-	54.9	42.6	19.3	13.0	12.0	13.5	15.2	4.3	80.5
公務員	(n=126)	-	35.7	11.9	9.5	13.5	10.3	12.7	32.5	6.3	61.1
パート・アルバイト	(n=114)	-	20.2	44.7	43.0	31.6	16.7	8.8	14.9	6.1	78.9
学生	(n=20)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無職(退職していた場合も含む)	(n=1671)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	(n=67)	-	13.4	23.9	17.9	11.9	9.0	11.9	29.9	16.4	53.7
有職(計)	(n=1598)	-	45.6	37.7	18.4	13.0	11.0	12.8	19.5	6.8	73.7
無職(計)	(n=1691)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(12) 地域のコミュニティについて困っていること

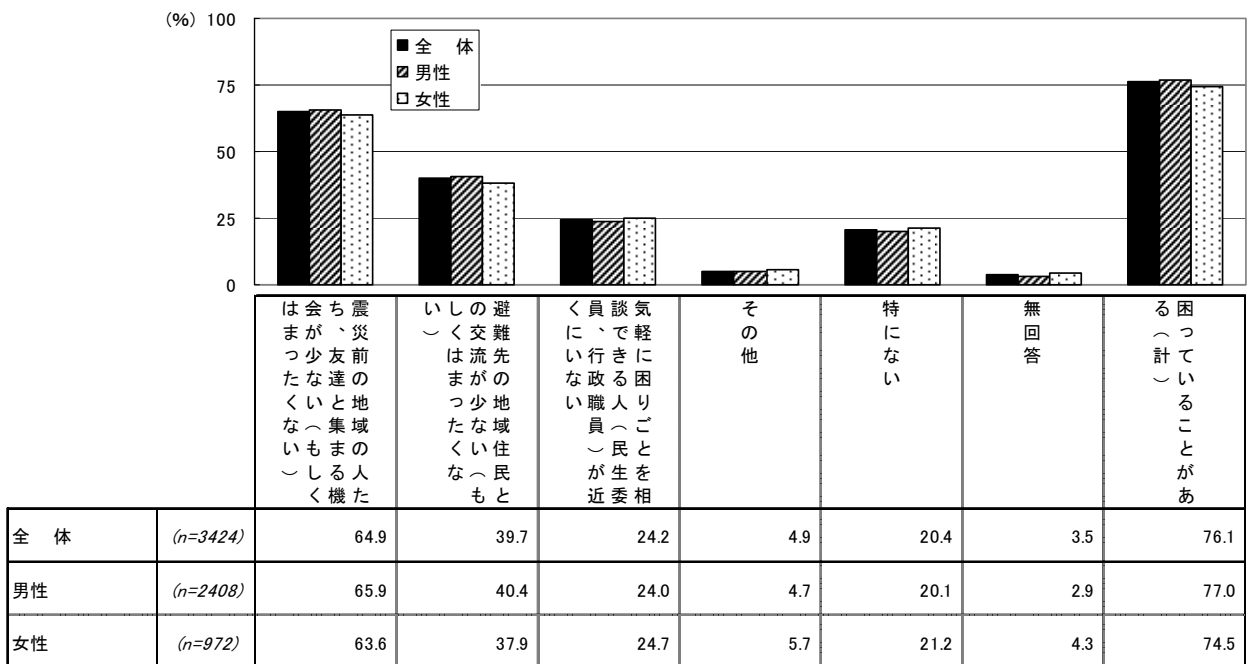
問 17 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

地域のコミュニティについて困っていることとしては、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 64.9%、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 39.7%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」(24.2%)の順にあげられている。

「特にない」という回答者は 20.4%である。(図表 2-12-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-12-1)

図表 2-12-1 地域のコミュニティについて困っていること(男女別)



性・年代別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-12-2)

図表 2-12-2 地域のコミュニティについて困っていること(性・年代別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集 まる機会が少ない (もしくはまったくない)	避難先の地域住 民との交流が少な い(もしくはまった くない)	気軽に困りごとを 相談できる人(民 生委員、行政職 員)が近くにいない	その他	特にない	無回答	困っていることが ある(計)
全 体	(n=3424)	64.9	39.7	24.2	4.9	20.4	3.5	76.1
男性10-20代	(n=131)	64.9	34.4	25.2	3.8	25.2	1.5	73.3
男性30代	(n=357)	68.9	37.0	26.1	5.6	19.0	1.4	79.6
男性40代	(n=371)	67.4	41.0	26.1	8.9	18.1	1.6	80.3
男性50代	(n=551)	67.2	42.8	24.3	3.8	20.5	2.9	76.6
男性60代	(n=598)	64.4	41.6	21.6	3.7	19.7	4.2	76.1
男性70代以上	(n=396)	62.4	40.4	23.2	3.0	21.2	4.3	74.5
女性10-20代	(n=96)	70.8	28.1	25.0	5.2	20.8	2.1	77.1
女性30代	(n=128)	65.6	36.7	27.3	7.8	23.4	1.6	75.0
女性40代	(n=131)	67.2	39.7	22.9	7.6	18.3	1.5	80.2
女性50代	(n=163)	62.0	43.6	22.7	6.1	23.9	3.7	72.4
女性60代	(n=150)	69.3	46.0	26.0	6.0	16.0	3.3	80.7
女性70代以上	(n=301)	57.1	33.9	24.9	3.3	22.3	8.3	69.4

現在の避難先別に見ると、郡山市居住者では「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」(46.3%)と、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」(33.7%)が他の避難先居住者よりも多くあげられている。また、いわき市居住者では、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が46.1%と郡山市居住者と近い水準となっている。(図表 2-12-4)

図表 2-12-4 地域のコミュニティについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集 まる機会が少ない (もしくはまったくない)	避難先の地域住 民との交流が少な い(もしくはまった くない)	気軽に困りごとを 相談できる人(民 生委員、行政職 員)が近くにいない	その他	特にな	無回答	困っていること がある(計)
全 体	(n=3424)	64.9	39.7	24.2	4.9	20.4	3.5	76.1
会津若松市	(n=842)	62.2	31.6	18.2	5.3	22.7	5.1	72.2
郡山市	(n=246)	58.9	46.3	33.7	6.5	21.5	2.0	76.4
いわき市	(n=980)	69.5	46.1	25.8	4.5	18.3	2.3	79.4
県内のその他の 市町村	(n=383)	67.9	39.2	28.2	4.7	18.3	3.1	78.6
県外	(n=909)	63.9	39.6	24.1	5.0	21.7	2.6	75.7



### 3. 将来についての想い

#### (1) 希望する避難生活のかたち

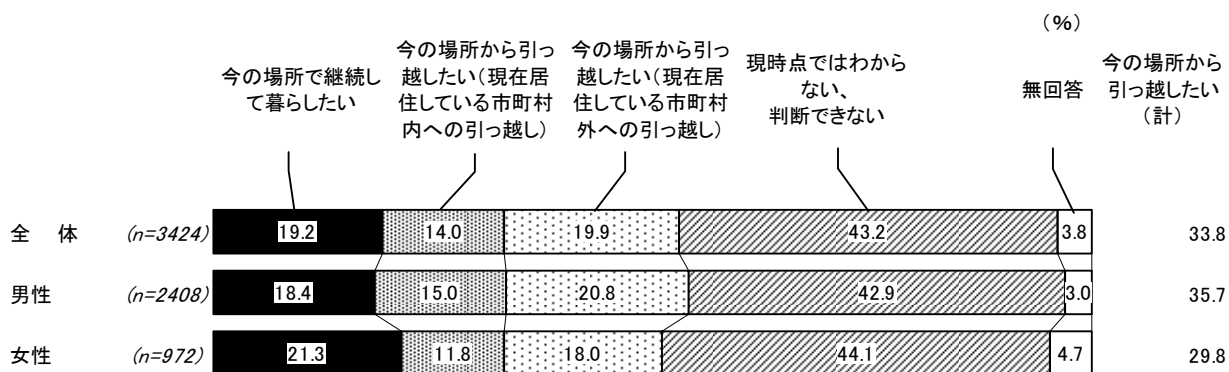
##### 1) 希望する避難居住地

問 18 震災発生当時にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられますが、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。(〇は1つ)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所を聞いたところ、「現時点ではわからない、判断できない」という回答者が 43.2%と最も多い。「今の場所で継続して暮らしたい」という回答者は 19.2%である。「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」が 19.9%、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」が 14.0%であり、合わせると『今の場所から引っ越したい(計)』が 33.8%である。(図表 3-1-1)

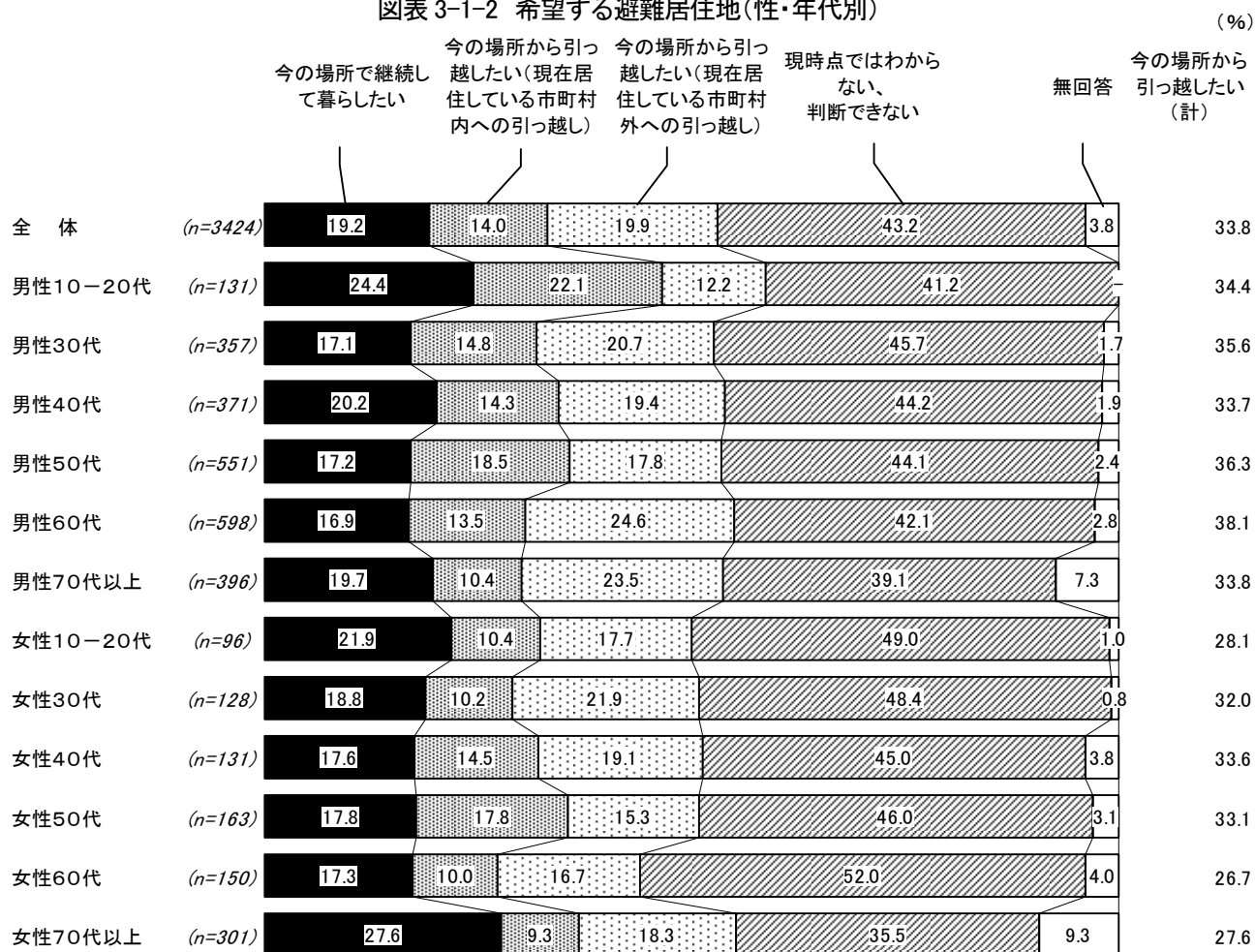
男女別に見ると、男女とも「現時点ではわからない、判断できない」(男性 42.9%、女性 44.1%)という回答者が最も多い。『今の場所から引っ越したい(計)』(男性 35.7%、女性 29.8%)という回答者は女性より男性に多くなっている。(図表 3-1-1)

図表 3-1-1 希望する避難居住地(男女別)



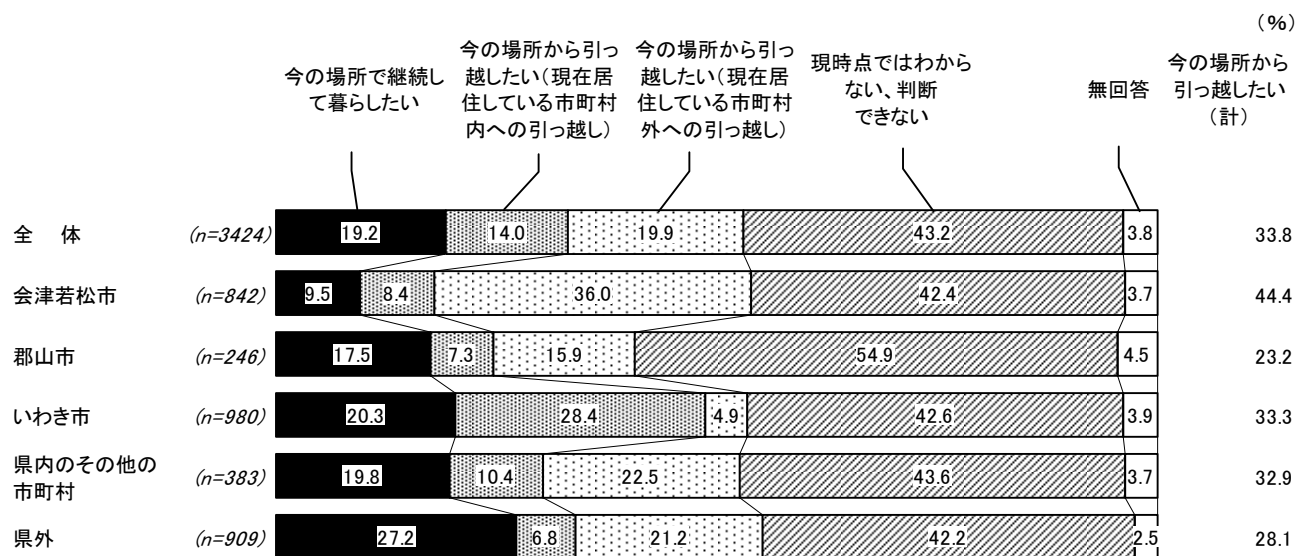
性・年代別に見ると、いずれの層でも「現時点ではわからない、判断できない」という回答が最も多いが、男性 10～20 代と女性 70 代以上で「今の場所で継続して暮らしたい」という回答が、男性 60 代で『今の場所から引っ越したい（計）』が、女性30代以下と60代で「現時点ではわからない、判断できない」が、他の年代と比べてやや多くなっている。（図表 3-1-2）

図表 3-1-2 希望する避難居住地(性・年代別)



現在の避難先別に見ると、会津若松市居住者では、『今の場所から引っ越したい(計)』(44.4%)と「現時点ではわからない、判断できない」(42.4%)がほぼ同率であり、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」(36.0%)が多くなっている。他の地域居住者では「現時点ではわからない、判断できない」が最も多いが、県外居住者では、「今の場所で継続して暮らしたい」(27.2%)という回答が、いわき市居住者では「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」(28.4%)が他の避難先より多くなっている。(図表 3-1-3)

図表 3-1-3 希望する避難住居形態(現在の避難先別)



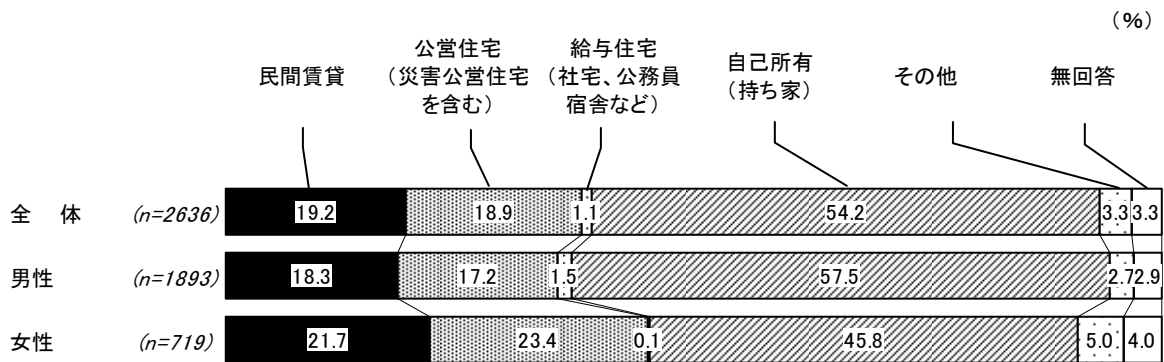
2)希望する避難住居形態

【問18で「2 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」「3 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」「4 現時点ではわからない、判断できない」と回答した方にうかがいます。】  
 問18-1 避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。  
 (1)所有形態(○は1つ)

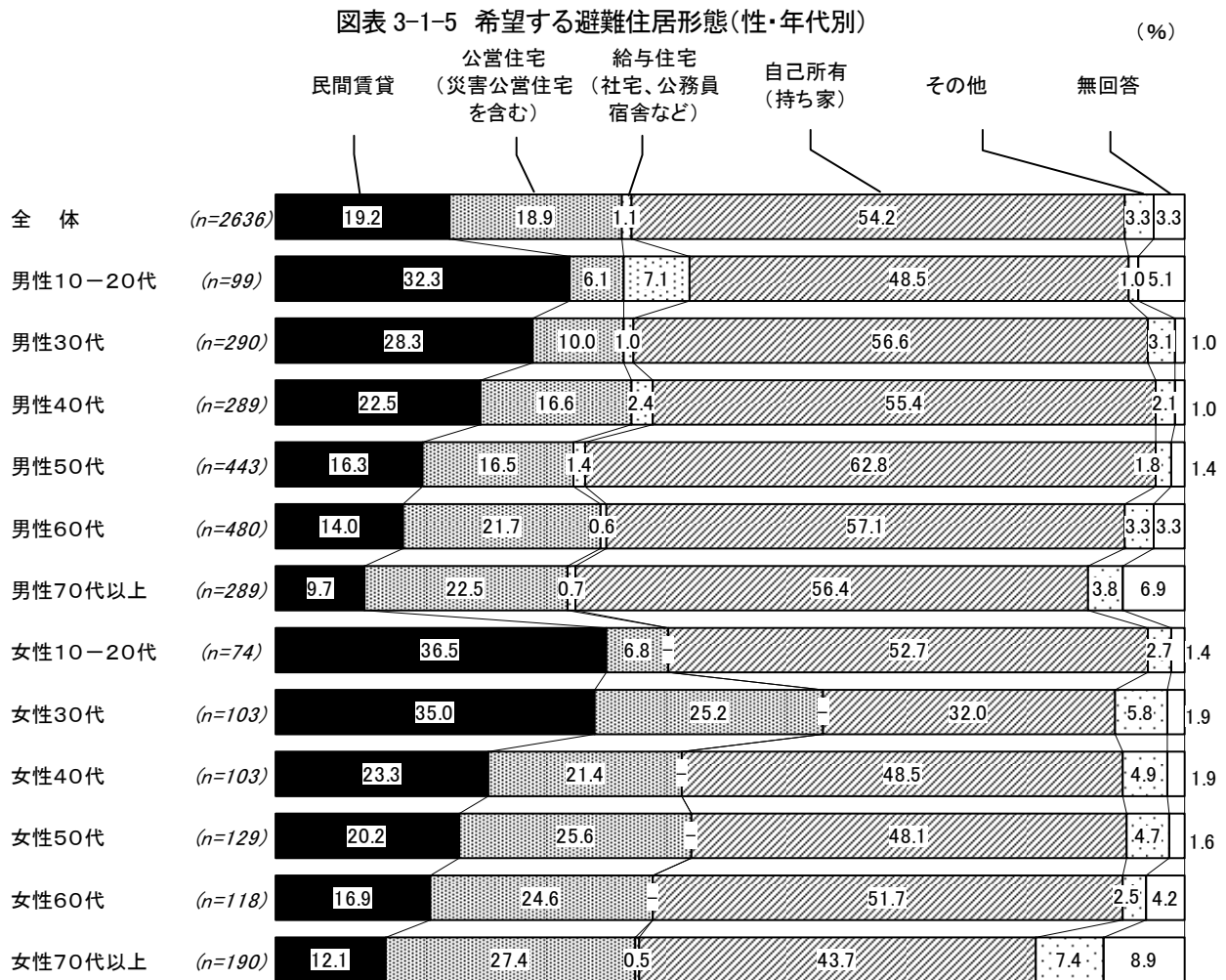
今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所として、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」、「現時点ではわからない、判断できない」と回答した人(2,636人)に、避難期間中の生活において居住を希望する住居の所有形態を聞いたところ、「自己所有(持ち家)」を希望する回答者が54.2%で最も多く、次いで「民間賃貸」(19.2%)、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(18.9%)となっている。「給与住宅(社宅、公務員宿舎など)」は1.1%にとどまる。(図表3-1-4)

男女別に見ると、男女とも「自己所有(持ち家)」(男性57.5%、女性45.8%)希望者が最も多いが、特に女性より男性に強くなっている。(図表3-1-4)

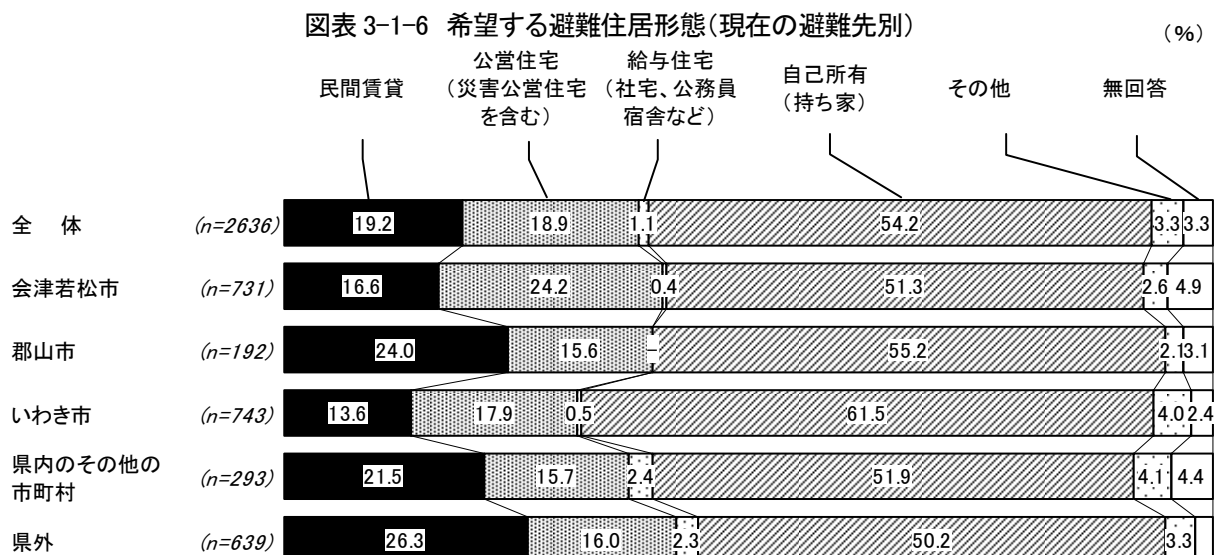
図表 3-1-4 希望する避難住居形態(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも「自己所有(持ち家)」の希望が強いが、女性30代では、「民間賃貸」が35.0%、「自己所有(持ち家)」が32.0%、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」が25.2%と、希望が分散している。男女とも「民間賃貸」への入居希望は若年齢層で高くなっており、また、特に男性では「公営住宅(災害公営住宅を含む)」への希望が高年齢層ほど高くなっている。(図表 3-1-5)



現在の避難先別に見ると、いずれの避難先でも「自己所有(持ち家)」の希望が強いが、特にいわき市居住者(61.5%)で希望が強い。また、他の地域と比べると、郡山市居住者(24.0%)、県外居住者(26.3%)で「民間賃貸」の希望が、会津若松市居住者(24.2%)で「公営住宅(災害公営住宅を含む)」の希望がやや強くなっている。(図表 3-1-6)



【問18で「2 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」「3 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」「4 現時点ではわからない、判断できない」と回答した方にうかがいます。】

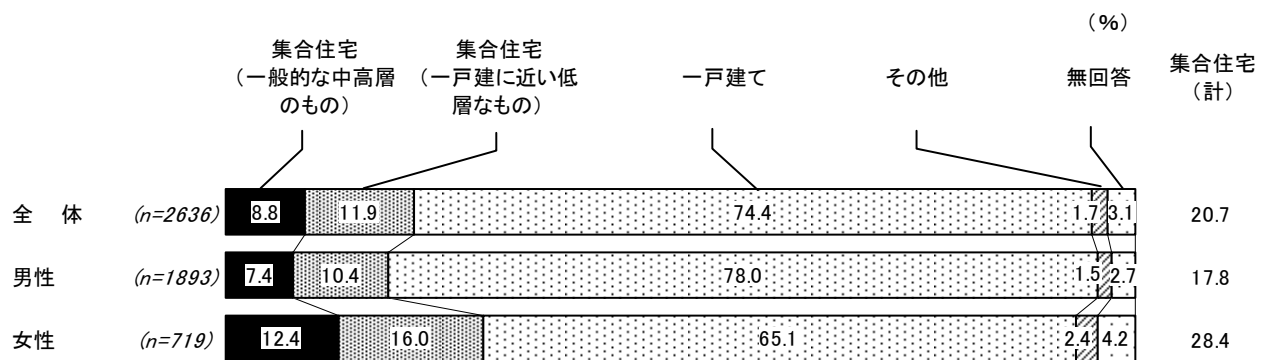
問18-1 避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(2)住宅の建て方(○は1つ)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所として、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」、「現時点ではわからない、判断できない」と回答した人(2,636人)に、避難期間中の生活において居住を希望する住宅の建て方を聞いたところ、「一戸建て」が74.4%で大多数を占めている。「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」(11.9%)と「集合住宅(一般的な中高層のもの)」(8.8%)を合わせた『集合住宅(計)』は20.7%にとどまる。(図表3-1-7)

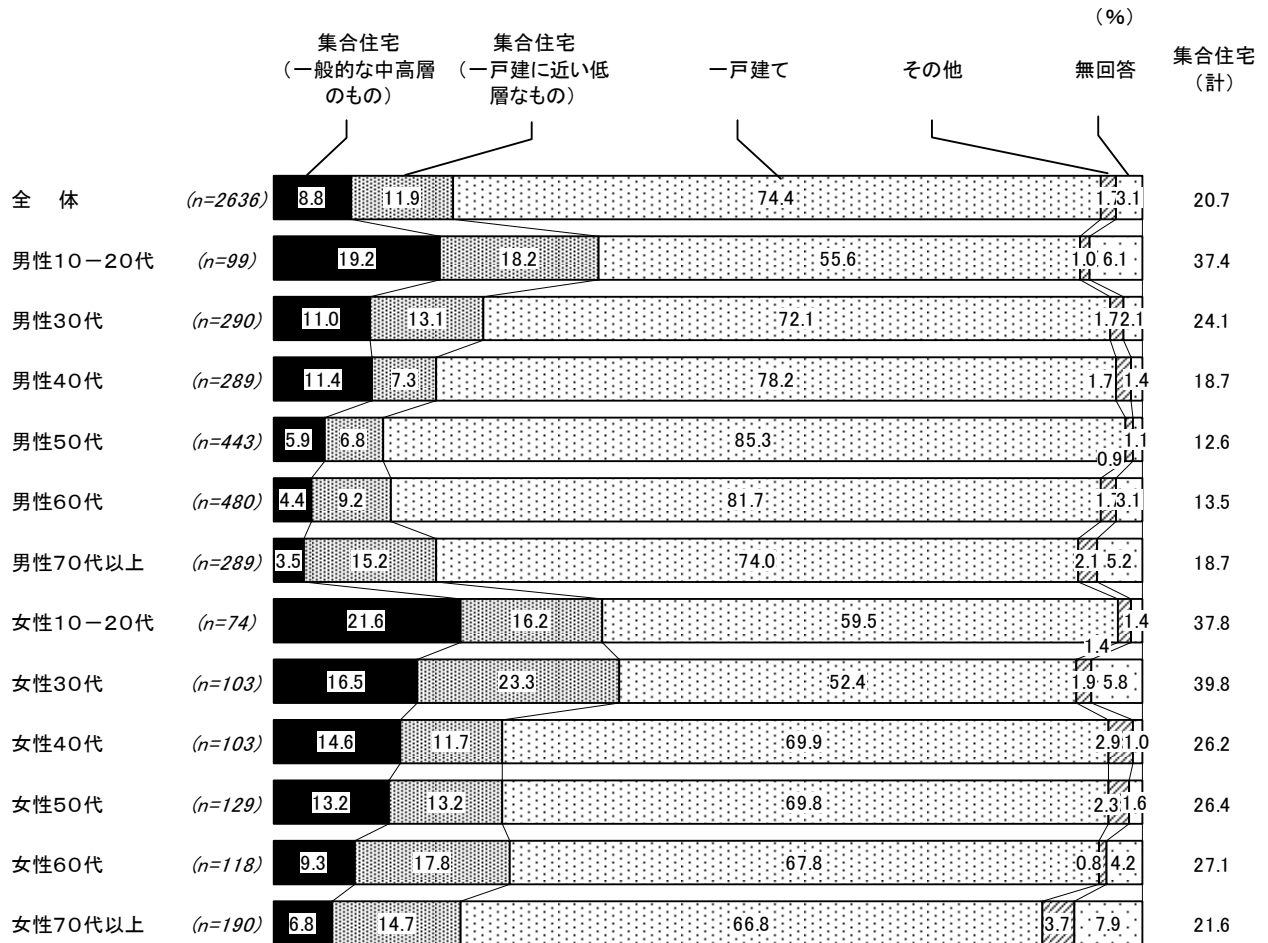
男女別に見ると、男女とも「一戸建て」(男性78.0%、女性65.1%)を希望する者が多数を占めるが、女性より男性で特に強くなっている。(図表3-1-7)

図表3-1-7 希望する住宅の建て方(男女別)



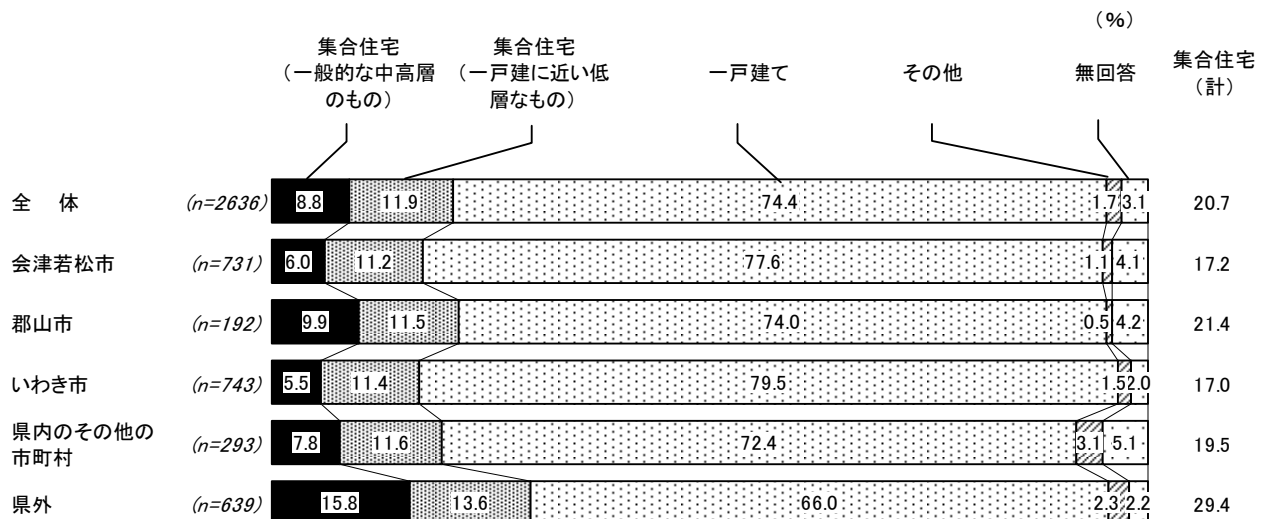
性・年代別に見ると、いずれの層でも「一戸建て」を希望する者が多数を占めるが、男性10～20代および女性の30代以下では『集合住宅(計)』を希望する者が他の年代よりも高くなっている。特に、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」を希望する者は、若年齢層ほど高くなっている。(図表3-1-8)

図表3-1-8 希望する住宅の建て方(性・年代別)



現在の避難先別に見ると、いずれの地域でも、「一戸建て」希望者が多数を占めるが、県外居住者で『集合住宅(計)』を希望する者が他の地域よりも多くなっている。(図表3-1-9)

図表3-1-9 希望する住宅の建て方(現在の避難先別)



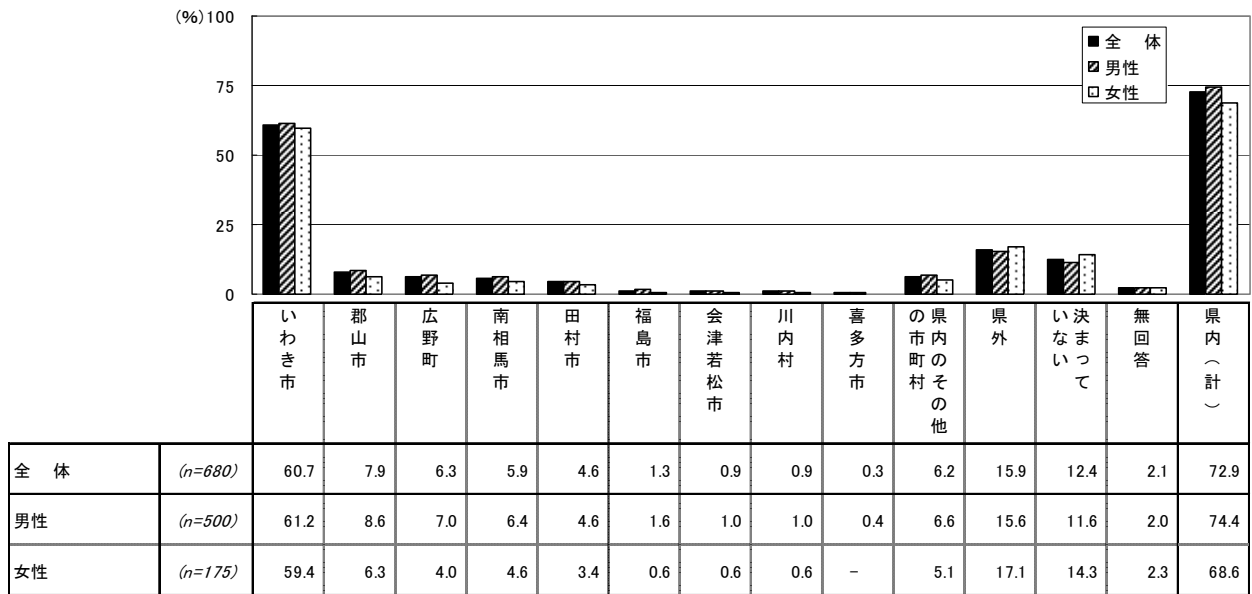
3) 避難期間中の転居予定先

【問 18 で「3 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にかがいます。  
問 18-2 どちらに移動することを望みますか。(○はいくつでも)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所として、「今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した人(680人)に、転居予定先を複数回答で聞いたところ、「いわき市」が60.7%で大多数を占める。他の県内の市町村と合わせると、72.9%が福島県内への転居を希望している。「県外」への転居希望者は15.9%、「決まっていない」が12.4%である。(図表 3-1-10)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-1-10)

図表 3-1-10 避難期間中の転居予定先(男女別)



年代別に見ると、『県内(計)』への転居希望者は高年齢層ほど多く、「県外」への転居希望者は10~30代の若年齢層で多くなっている。(図表 3-1-11)

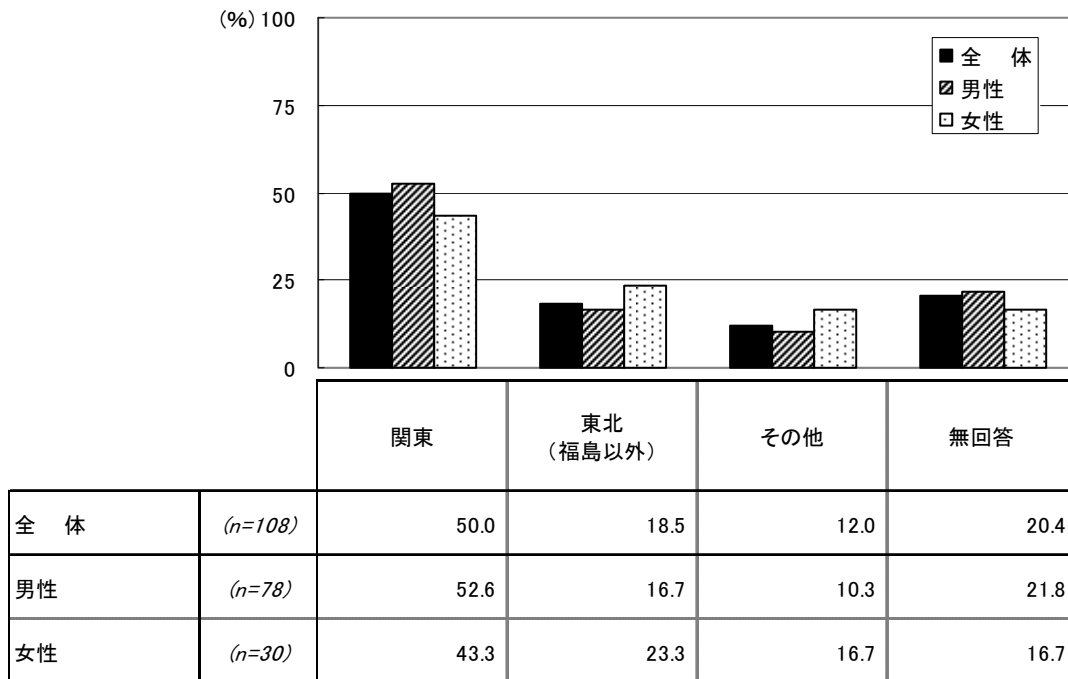
図表 3-1-11 避難期間中の転居予定先(年代別)

		いわき市	郡山市	広野町	南相馬市	田村市	福島市	会津若松市	川内村	喜多方市	県内の その他の 市町村	県外	決まっ てい ない	無回 答	県内(計)
全 体	(n=680)	60.7	7.9	6.3	5.9	4.6	1.3	0.9	0.9	0.3	6.2	15.9	12.4	2.1	72.9
10-30代	(n=136)	48.5	11.8	2.9	2.2	2.2	1.5	2.9	0.7	1.5	3.7	23.5	20.6	0.7	61.0
40-50代	(n=220)	58.6	9.1	4.1	8.6	5.0	1.8	0.5	1.8	-	6.8	15.5	13.6	3.2	70.9
60代以上	(n=320)	67.5	5.6	9.1	5.6	4.7	0.9	0.3	0.3	-	6.9	13.1	7.8	1.9	79.4



福島県外への転居を希望する人(108人)に具体的な転居先を聞いたところ、「関東」が50.0%で最も多く、次いで「東北(福島以外)」(18.5%)で、「その他」が12.0%となっている。(図表3-1-12)

図表3-1-12 避難期間中の福島県外転居予定先(男女別)



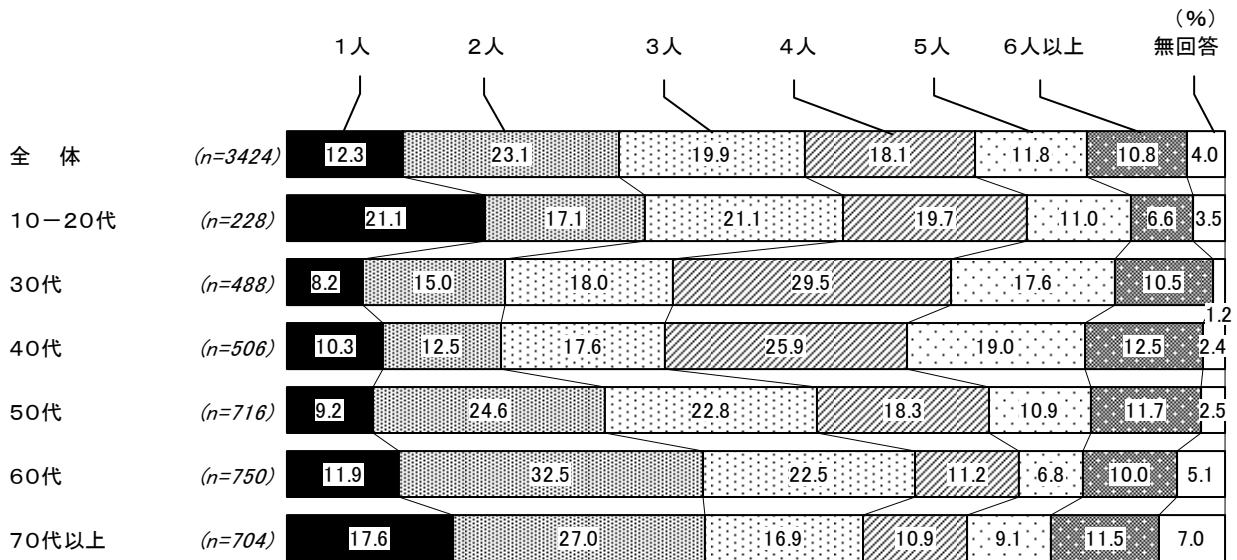
4) 今後一緒に住む予定の世帯家族人数

問 18-3 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に)(あなた自身を含める)

今後一緒に住む予定の世帯家族人数を聞いたところ、「1人」が12.3%、「2人」が23.1%、「3人」が19.9%、「4人」が18.1%、「5人」が11.8%、「6人以上」が10.8%である。(図表 3-1-13)

性・年代別に見ると、10～20代では「1人」が21.1%とやや多い。30～40代の子育て世代では4人以上が他の年代よりも多くなっている。一方、50代以上では、年齢が上がるほど、「1人」および「2人」の割合が増えている。(図表 3-1-13)

図表 3-1-13 今後一緒に住む予定の世帯家族人数(年代別)

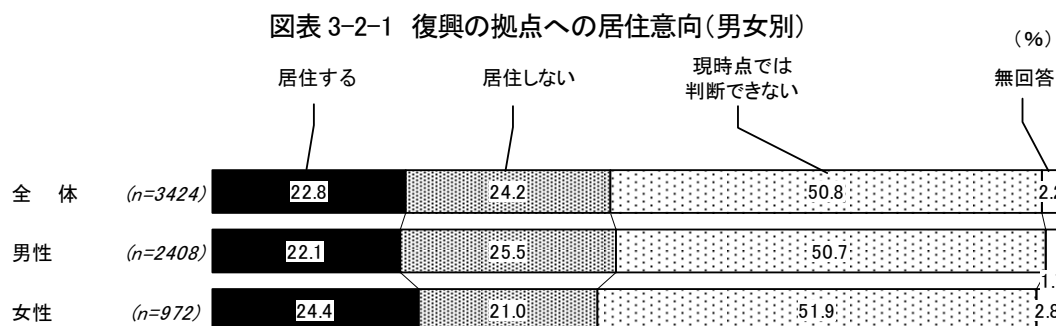


(2) 希望する復興の拠点(町外コミュニティ)のかたち

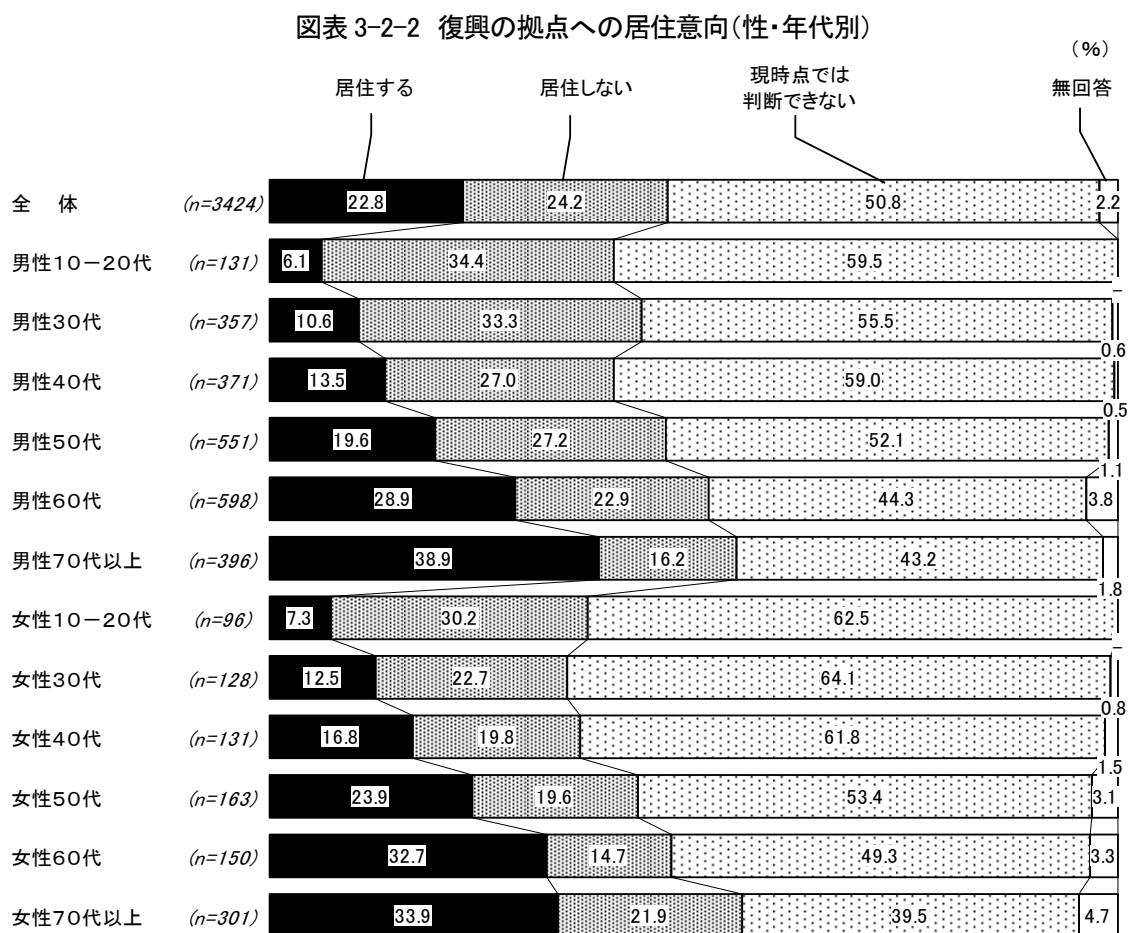
1)復興の拠点への居住意向

問 19 町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、あなたはそこに居住しますか。(〇は1つ)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、居住するかどうか意向を聞いたところ、「現時点では判断できない」という回答者が50.8%であり、約半数を占めている。「居住する」は22.8%、「居住しない」は24.2%である。(図表3-2-1)  
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表3-2-1)



性・年代別に見ると、いずれの層でも「現時点では判断できない」という回答が多いが、「居住する」という回答は、男女とも高年齢層で高くなっており、特に男性で顕著である。一方、「居住しない」という回答は男女とも若年齢層で高くなっている。(図表3-2-2)



2) 復興拠点へ移転するまでの猶予年数

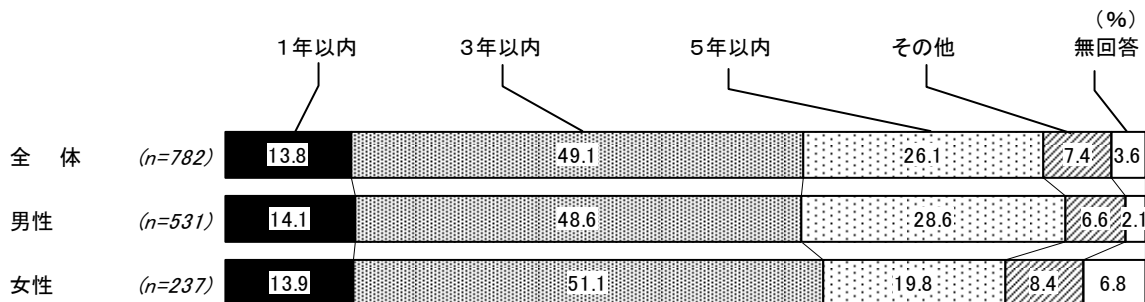
【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

問 19-1 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこに移転するまで、どのくらいの期間であれば待つことができますか。(〇は1つ)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(782 人)に、そこに移転するまで、どのくらいの期間であれば待つことができるかを聞いたところ、「3年以内」が49.1%で約半数を占めている。次いで、「5年以内」が26.1%、「1年以内」が13.8%である。(図表 3-2-3)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-2-3)

図表 3-2-3 復興拠点へ移転するまでの猶予年数(男女別)



3) 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること

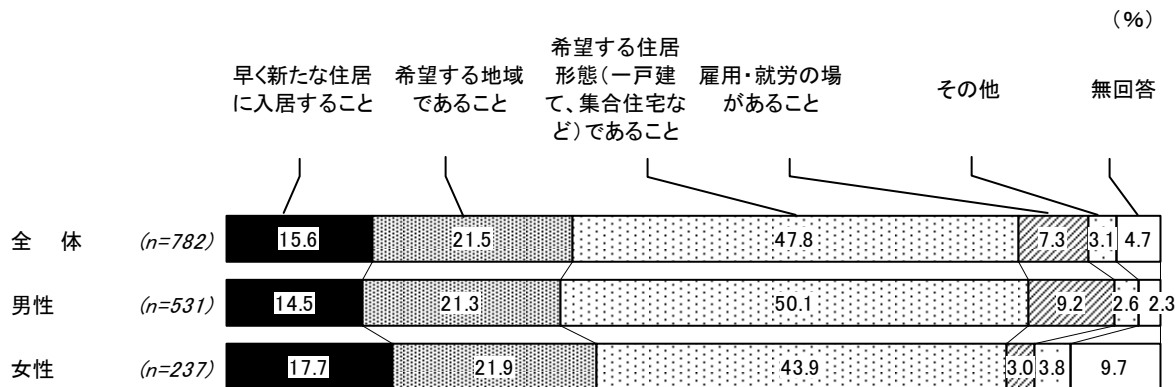
【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

問 19-2 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこへ移転するかどうかを決める上で、あなたがもっとも優先することは何ですか。(〇は1つ)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(782 人)に、そこへ移転するかどうかを決める上で、最も優先することを聞いたところ、「希望する住居形態(一戸建て、集合住宅など)であること」が47.8%で最も多くなっている。次いで、「希望する地域であること」が21.5%、「早く新たな住居に入居すること」が15.6%、「雇用・就労の場があること」が7.3%となっている。(図表 3-2-4)

男女別に見ると、男女とも「希望する住居形態であること」(男性 50.1%、女性 43.9%)を最も優先するという回答者が多いが、男性の方が高くなっている。(図表 3-2-4)

図表 3-2-4 移転するかどうかを決める上でもっとも優先すること(男女別)



4) 移転する場合の望ましいコミュニティの単位

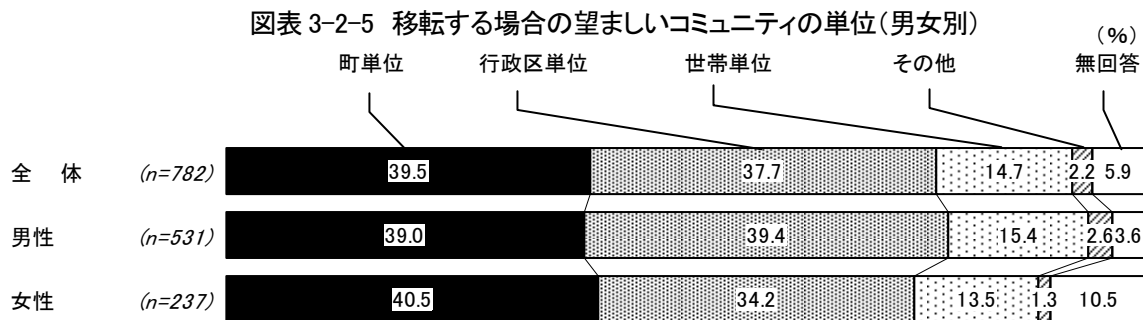
【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

町が復興の拠点となる場所を設ける場合、大熊町民がどの程度のコミュニティの単位で移転することが望ましいと考えますか。

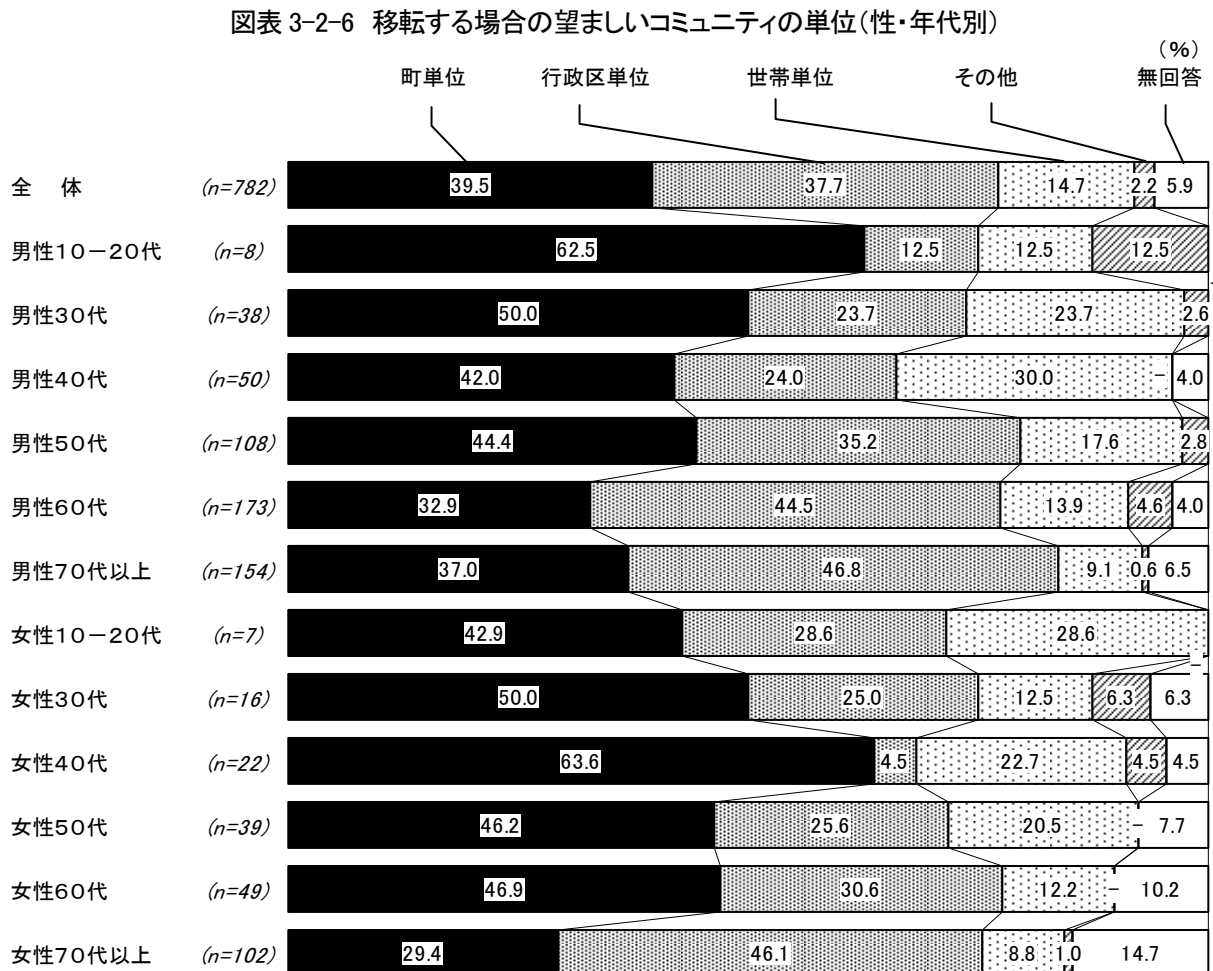
(○は1つ)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(782 人)に、大熊町民がどの程度のコミュニティの単位で移転することが望ましいと考えるかを聞いたところ、「町単位」が 39.5%、「行政区単位」が 37.7%、「世帯単位」が 14.7%となっている。(図表 3-2-5)

男女別に見ると、男性では「町単位」(39.0%)と「行政区単位」(39.4%)の希望者がほぼ同率で拮抗しているが、女性では「町単位」(40.5%)の希望者が「行政区単位」(34.2%)よりやや多くなっている。(図表 3-2-5)



性・年代別に見ると、居住意向者の多い男性40代以上では、40~50代で「町単位」を希望する回答者が、60代以上で「行政区単位」を希望する回答者が多くなっている。(図表 3-2-6)



5) 他の町村の住民とともに移転することについて

【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

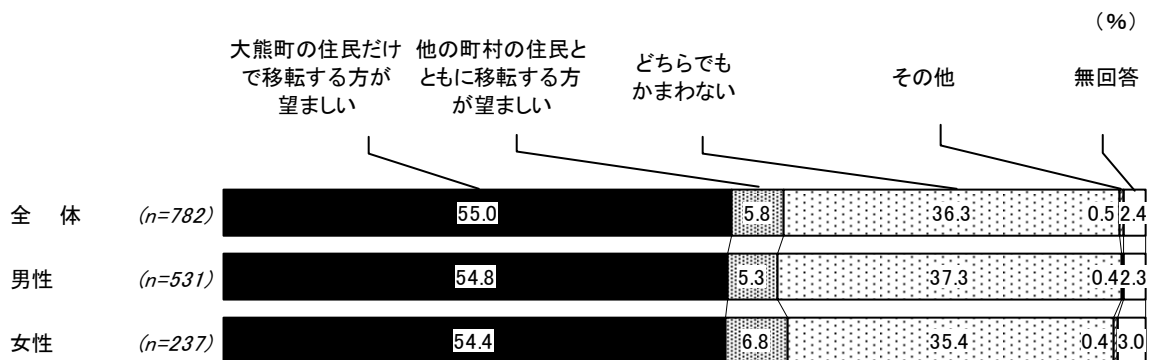
問19-4 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、他の町村の住民とともに移転するとしたら、あなたはどのように考えますか。

(○は1つ)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(782 人)に、他の町村の住民とともに移転するとしたら、どのように考えるかを聞いたところ、「大熊町の住民だけで移転する方が望ましい」という回答者が 55.0%で半数を超えている。「他の町村の住民とともに移転する方が望ましい」という回答は 5.8%にとどまる。「どちらでもかまわない」は 36.3%となっている。(図表 3-2-7)

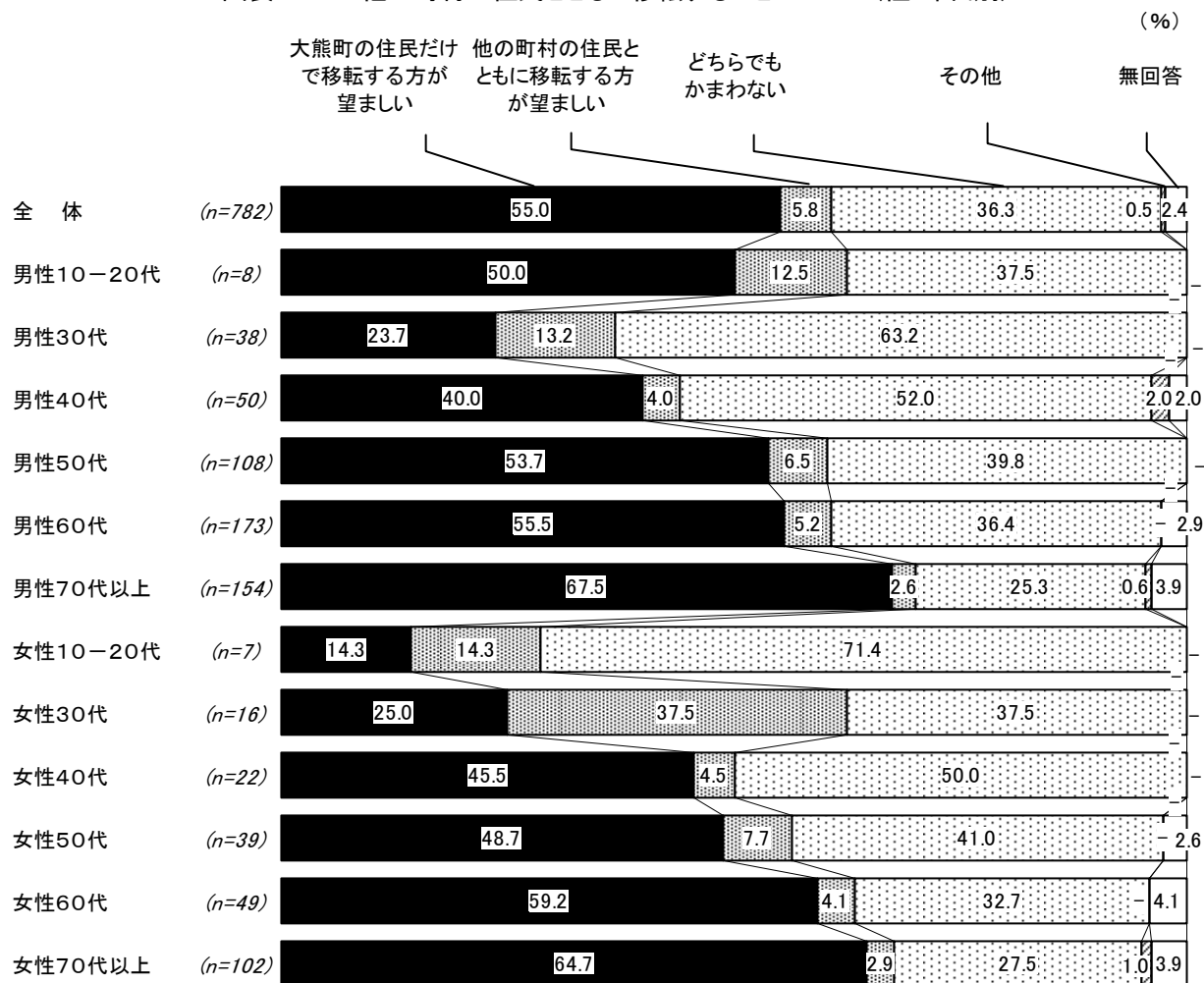
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-2-7)

図表 3-2-7 他の町村の住民とともに移転することについて(男女別)



性・年代別に見ると、居住意向者の多い男性 40 代以上では、年齢が上がるほど「大熊町の住民だけで移転する方が望ましい」という回答者の割合が高くなっている。(図表 3-2-8)

図表 3-2-8 他の町村の住民とともに移転することについて(性・年代別)



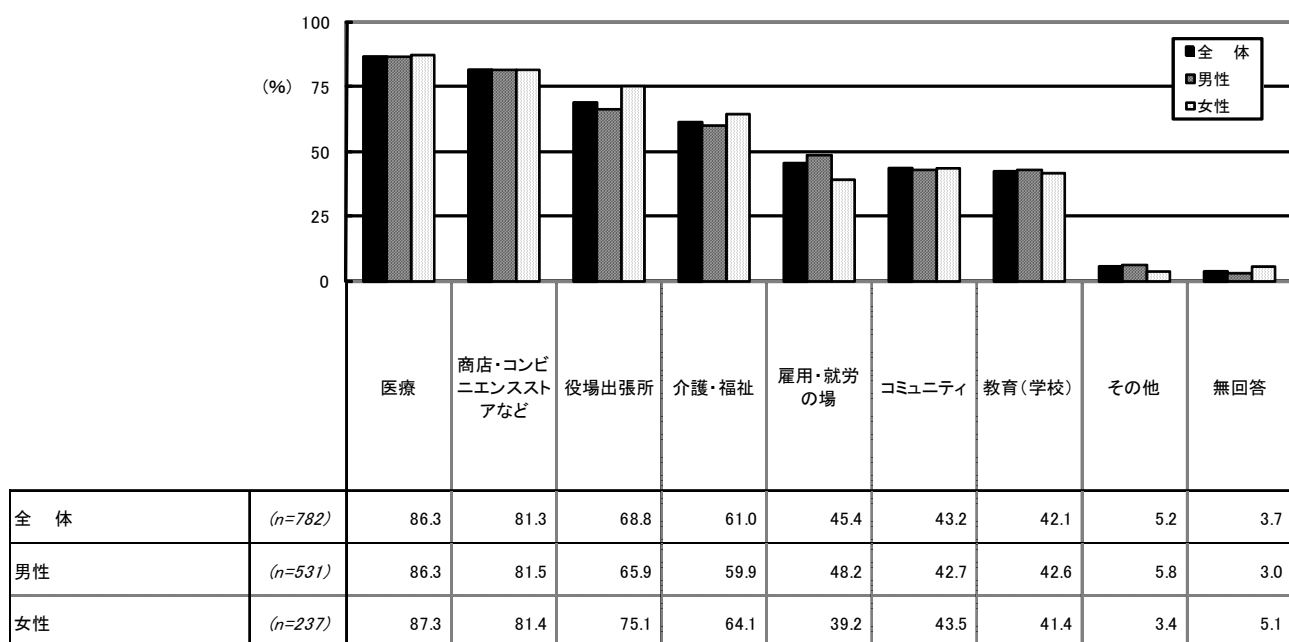
6) 復興拠点に求めるもの

【問19で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】  
 問19-5 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこに求めるもの(住宅を除く)は何ですか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、「居住する」と回答した人(782人)に、そこに求めるもの(住宅を除く)を聞いたところ、「医療」が86.3%、「商店・コンビニストアなど」が81.3%で最も多く、以下、「役場出張所」(68.8%)、「介護・福祉」(61.0%)、「雇用・就労の場」(45.4%)、「コミュニティ」(43.2%)、「教育(学校)」(42.1%)の順である。(図表3-2-9)

男女別に見ると、男性より女性で「役場出張所」(男性65.9%、女性75.1%)がやや高く、「雇用・就労の場」(男性48.2%、女性39.2%)は女性より男性でやや高い。(図表3-2-9)

図表 3-2-9 復興拠点に求めるもの(男女別)





性・年代別に見ると、居住意向者の多い男性 40 代以上でも、求めるものの上位 2 項目は「医療」および「商店・コンビニエンスストアなど」であり、「役場出張所」および「介護・福祉」は特に 70 代以上で、「雇用・就労の場」、「コミュニティ」、「教育」は 40 代で希望が高くなっている。

図表 3-2-10 復興拠点に求めるもの(性・年代別)

		医療	商店・コンビニエンスストアなど	役場出張所	介護・福祉	雇用・就労の場	コミュニティ	教育(学校)	その他	無回答
全 体	(n=782)	86.3	81.3	68.8	61.0	45.4	43.2	42.1	5.2	3.7
男性10-20代	(n=8)	75.0	75.0	62.5	37.5	100.0	12.5	75.0	-	-
男性30代	(n=38)	76.3	73.7	57.9	34.2	76.3	39.5	71.1	13.2	-
男性40代	(n=50)	80.0	80.0	66.0	60.0	66.0	56.0	58.0	10.0	4.0
男性50代	(n=108)	88.9	77.8	63.0	55.6	60.2	44.4	42.6	2.8	0.9
男性60代	(n=173)	89.0	85.5	65.3	60.7	44.5	45.7	40.5	5.8	2.9
男性70代以上	(n=154)	86.4	82.5	70.8	69.5	28.6	36.4	31.2	5.2	5.2
女性10-20代	(n=7)	100.0	85.7	85.7	57.1	42.9	28.6	71.4	-	-
女性30代	(n=16)	81.3	56.3	62.5	31.3	43.8	25.0	68.8	18.8	6.3
女性40代	(n=22)	90.9	81.8	72.7	40.9	50.0	36.4	45.5	-	-
女性50代	(n=39)	89.7	84.6	76.9	61.5	66.7	53.8	46.2	2.6	2.6
女性60代	(n=49)	89.8	93.9	75.5	63.3	44.9	53.1	42.9	4.1	6.1
女性70代以上	(n=102)	85.3	77.5	75.5	76.5	21.6	40.2	31.4	2.0	6.9

(3) 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの

問 20 避難指示が解除された際に、大熊町の復旧・復興のために、「もっとも必要と思うもの」、「2番目に必要と思うもの」、「3番目に必要と思うもの」を、下のア)～サ)の中からそれぞれ1つずつ選び、空欄に○をつけてください。(それぞれに○は1つずつ)

避難指示が解除された際に、大熊町の復旧・復興のために、1番目に必要と思うもの、2番目に必要と思うもの、3番目に必要と思うものを聞いた。

1番目に必要なものとしては「放射線量が低下すること」(42.6%)が、2番目に必要なものとしては「原子力発電所の安全性が確保されること」(19.9%)が、3番目に必要なものとしては「水道水等の生活用水が安全であることが確認されること」(18.5%)が、それぞれ最も多くあげられている。1番目～3番目の計で見ても、この3項目が重視されている。(図表 3-3-1)

図表 3-3-1 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ケ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	ク)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	サ)その他	無回答
1番目	(n=3424)	42.6	23.0	6.5	4.4	4.5	3.0	2.8	1.6	2.1	1.4	1.7	6.3
2番目	(n=3424)	15.1	19.9	14.6	7.2	7.2	5.4	4.8	3.4	4.0	2.6	0.9	14.9
3番目	(n=3424)	1.8	3.2	18.5	11.2	9.8	11.4	5.5	7.4	3.7	2.6	1.4	23.5
1番目～3番目(計)	(n=3424)	59.5	46.2	39.6	22.8	21.5	19.9	13.1	12.5	9.7	6.6	4.0	6.3

男女別に1番目に必要なものを見ても、大きな差はみられない。(図表 3-3-2)

図表 3-3-2 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(1番目に必要なもの)(男女別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ケ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	ク)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	サ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	42.6	23.0	6.5	4.4	4.5	3.0	2.8	1.6	2.1	1.4	1.7	6.3
男性	(n=2408)	43.4	23.7	6.3	4.2	4.7	3.1	2.8	2.1	1.7	1.4	1.9	4.7
女性	(n=972)	41.8	21.8	6.8	4.6	4.1	2.7	2.9	0.5	3.0	1.6	1.3	8.8

性・年代別に1番目に必要なものを見ると、いずれの層でも「放射線量が低下すること」が最も多く、次いで「原子力発電所の安全性が確保されること」などの順である。(図表 3-3-3)

図表 3-3-3 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(1番目に必要なもの)(性・年代別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ク)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	カ)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	カ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	42.6	23.0	6.5	4.4	4.5	3.0	2.8	1.6	2.1	1.4	1.7	6.3
男性10-20代	(n=131)	51.9	19.8	6.1	4.6	4.6	3.1	3.1	0.8	-	0.8	3.1	2.3
男性30代	(n=357)	50.1	24.1	4.5	2.5	4.8	2.5	2.0	1.7	0.8	1.1	3.9	2.0
男性40代	(n=371)	46.6	25.6	6.2	2.2	3.0	3.0	3.5	1.6	1.9	2.2	2.2	2.2
男性50代	(n=551)	39.7	28.9	5.4	4.2	4.2	1.8	4.9	2.4	1.6	1.1	1.5	4.4
男性60代	(n=598)	40.5	22.2	7.9	4.2	4.7	4.5	1.8	2.5	2.5	1.8	1.5	5.9
男性70代以上	(n=396)	41.2	17.9	6.8	7.3	7.1	3.5	1.3	2.5	2.0	0.8	0.5	9.1
女性10-20代	(n=96)	46.9	26.0	8.3	3.1	4.2	-	3.1	-	2.1	2.1	1.0	3.1
女性30代	(n=128)	41.4	22.7	3.9	5.5	2.3	1.6	7.0	0.8	5.5	-	2.3	7.0
女性40代	(n=131)	43.5	26.0	7.6	4.6	1.5	3.1	2.3	2.3	2.3	0.8	0.8	5.3
女性50代	(n=163)	39.9	25.8	4.3	3.7	6.1	2.5	3.1	-	4.3	2.5	1.2	6.7
女性60代	(n=150)	40.0	24.7	7.3	2.0	4.0	3.3	0.7	0.7	3.3	1.3	0.7	12.0
女性70代以上	(n=301)	41.9	14.6	8.3	6.6	5.0	3.7	2.0	-	1.7	2.3	1.7	12.3

男女別に2番目に必要なものを見ても、大きな差はみられない。(図表 3-3-4)

図表 3-3-4 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(2番目に必要なもの)(男女別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ク)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	カ)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	カ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	15.1	19.9	14.6	7.2	7.2	5.4	4.8	3.4	4.0	2.6	0.9	14.9
男性	(n=2408)	15.7	19.9	15.4	7.4	8.1	5.6	4.9	2.9	4.0	2.6	0.8	12.6
女性	(n=972)	13.9	20.6	12.9	6.9	5.0	4.9	4.4	4.8	3.4	2.7	0.9	19.5

性・年代別に2番目に必要なものを見ても、大きな差はみられない。(図表 3-3-5)

図表 3-3-5 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(2番目に必要なもの)(性・年代別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ケ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	ク)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	サ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	15.1	19.9	14.6	7.2	7.2	5.4	4.8	3.4	4.0	2.6	0.9	14.9
男性10-20代	(n=131)	16.0	26.0	22.1	1.5	6.1	4.6	4.6	3.1	4.6	1.5	0.8	9.2
男性30代	(n=357)	21.0	21.6	15.4	5.3	7.3	5.3	5.9	2.8	4.8	1.7	0.3	8.7
男性40代	(n=371)	18.9	24.5	14.3	6.2	5.7	5.4	6.2	3.0	3.8	2.7	1.1	8.4
男性50代	(n=551)	18.1	19.2	13.2	7.8	10.2	5.1	5.3	3.4	3.3	3.6	0.7	10.0
男性60代	(n=598)	12.9	18.1	14.7	8.4	7.9	5.5	5.0	3.2	5.2	2.2	0.8	16.2
男性70代以上	(n=396)	8.8	15.9	18.7	10.1	9.3	7.3	2.0	1.8	2.8	2.8	1.3	19.2
女性10-20代	(n=96)	17.7	25.0	10.4	4.2	6.3	4.2	6.3	10.4	2.1	2.1	1.0	10.4
女性30代	(n=128)	25.8	23.4	8.6	6.3	3.1	6.3	3.9	2.3	1.6	2.3	0.8	15.6
女性40代	(n=131)	22.1	24.4	9.2	2.3	5.3	5.3	5.3	6.9	2.3	2.3	0.8	13.7
女性50代	(n=163)	13.5	19.6	14.7	4.9	4.3	3.7	4.9	7.4	5.5	3.7	0.6	17.2
女性60代	(n=150)	9.3	18.0	12.7	10.7	5.3	5.3	5.3	4.0	3.3	1.3	2.0	22.7
女性70代以上	(n=301)	6.6	18.3	15.9	9.3	5.6	5.0	3.0	2.3	4.0	3.3	0.7	25.9

男女別に3番目に必要なものを見ても、大きな差はみられない。(図表 3-3-6)

図表 3-3-6 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(3番目に必要なもの)(男女別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	ケ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	コ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	ク)他の住民がある程度戻ること	ク)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	サ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	1.8	3.2	18.5	11.2	9.8	11.4	5.5	7.4	3.7	2.6	1.4	23.5
男性	(n=2408)	2.2	3.2	18.1	12.0	10.1	12.2	5.8	7.8	3.7	2.9	1.7	20.3
女性	(n=972)	0.8	3.2	20.1	9.6	9.1	9.7	4.8	6.6	3.7	2.1	0.6	29.8

性・年代別に3番目に必要なものを見ても、大きな差はみられない。(図表 3-3-7)

図表 3-3-7 避難指示が解除された際の大熊町の復旧・復興に必要なもの(3番目に必要な条件)(性・年代別)

		ア)放射線量が低下すること	イ)原子力発電所の安全性が確保されること	ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること	エ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること	カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること	キ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること	ク)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること	コ)他の住民がある程度戻ること	ク)災害公営住宅が整備されること	ケ)町内の学校が再開されること	カ)その他	無回答
全 体	(n=3424)	1.8	3.2	18.5	11.2	9.8	11.4	5.5	7.4	3.7	2.6	1.4	23.5
男性10-20代	(n=131)	1.5	6.9	21.4	8.4	6.1	11.5	9.2	13.7	3.1	1.5	3.1	13.7
男性30代	(n=357)	1.7	6.2	21.3	13.4	10.9	10.6	4.5	8.4	1.1	6.2	2.8	12.9
男性40代	(n=371)	1.3	3.8	25.6	8.6	8.1	10.0	7.5	8.6	4.6	4.0	2.2	15.6
男性50代	(n=551)	2.7	1.6	19.6	11.1	10.5	12.7	9.1	8.2	3.1	1.8	0.7	18.9
男性60代	(n=598)	3.0	2.3	13.9	11.2	12.2	12.9	4.2	6.9	4.7	2.2	1.3	25.3
男性70代以上	(n=396)	1.5	2.5	11.6	17.9	8.6	14.4	2.3	5.3	4.5	2.0	1.5	27.8
女性10-20代	(n=96)	2.1	5.2	31.3	5.2	8.3	5.2	7.3	7.3	4.2	5.2	1.0	17.7
女性30代	(n=128)	0.8	6.3	34.4	5.5	4.7	4.7	3.1	8.6	1.6	4.7	-	25.8
女性40代	(n=131)	-	3.1	28.2	9.2	12.2	4.6	9.2	7.6	1.5	1.5	0.8	22.1
女性50代	(n=163)	-	1.2	16.0	11.0	11.7	11.0	6.1	7.4	4.3	1.8	1.2	28.2
女性60代	(n=150)	1.3	2.7	12.0	6.0	12.7	14.7	2.7	6.7	6.0	2.0	-	33.3
女性70代以上	(n=301)	1.0	2.7	13.3	14.0	6.3	12.3	3.3	4.7	4.0	0.3	0.7	37.5

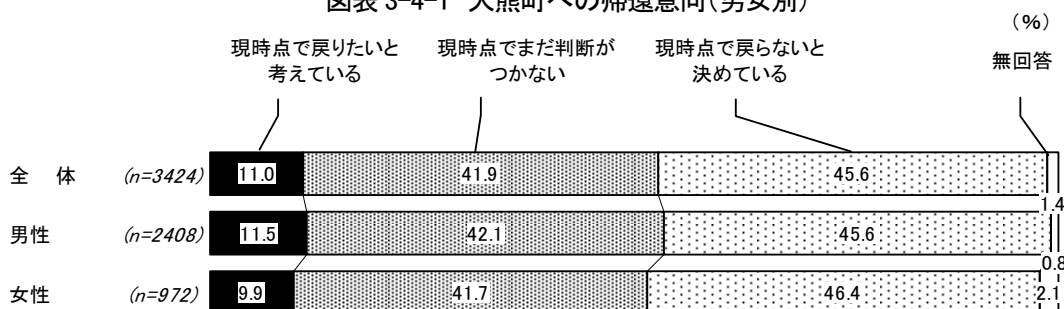
(4) 避難指示が解除された際の大熊町への帰還意向

問 21 将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ)

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について考えを聞いたところ、「現時点で戻りたいと考えている」という回答者は 11.0%で、「現時点でまだ判断がつかない」は 41.9%、「現時点で戻らないと決めている」は 45.6%である。(図表 3-4-1)

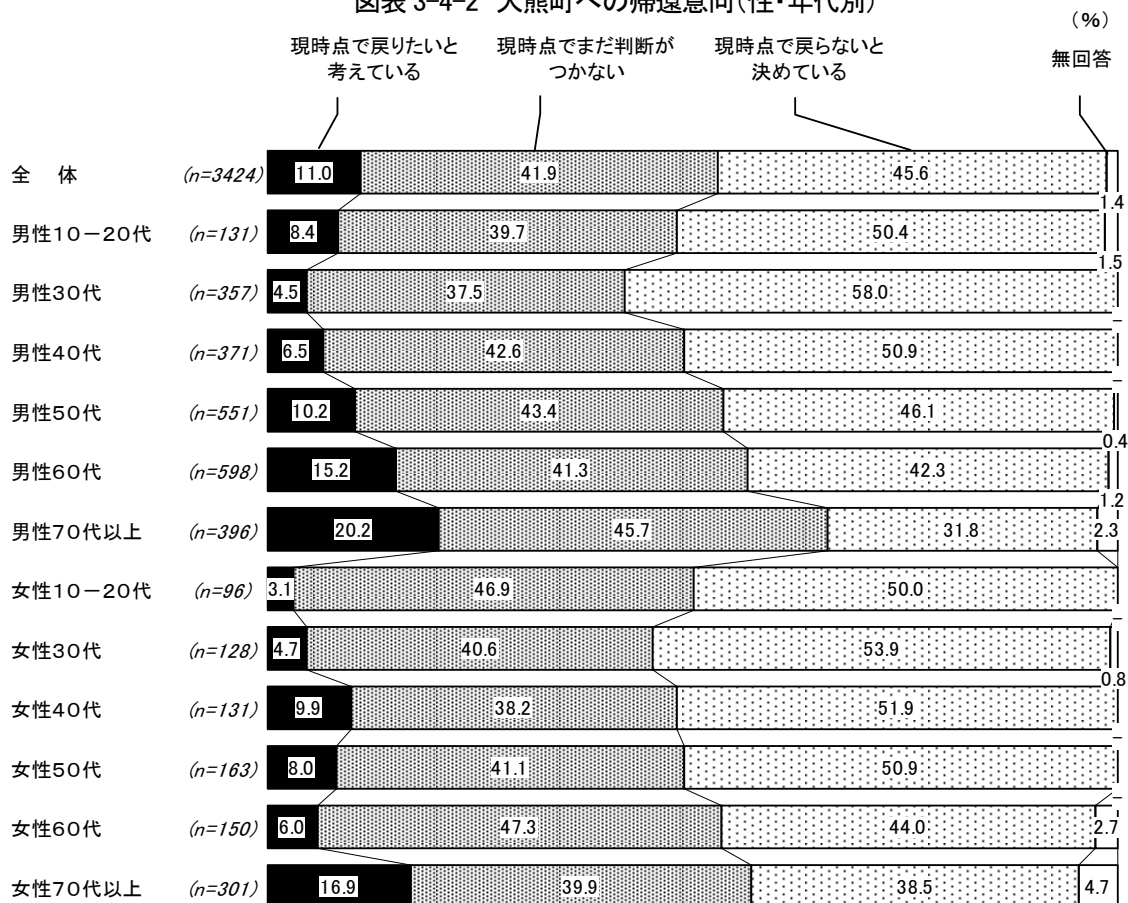
男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-4-1)

図表 3-4-1 大熊町への帰還意向(男女別)



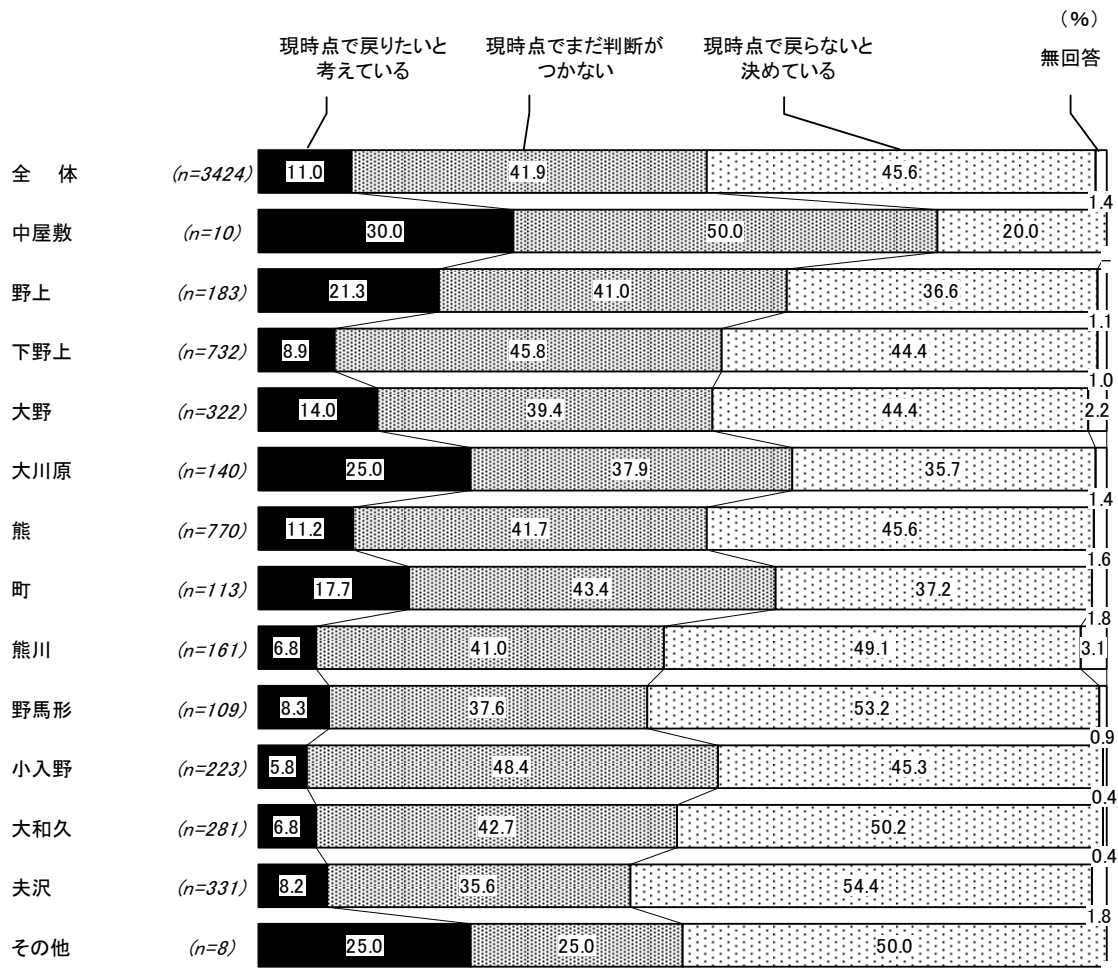
性・年代別に見ると、いずれの層でも「現時点でまだ判断がつかない」もしくは「現時点で戻らないと決めている」という回答者が多いが、特に男性30代で「現時点で戻らないと決めている」(58.0%)という回答者が多くなっている。また、特に男性で、年齢が高いほど「現時点で戻りたいと考えている」という回答者が多くなっており、女性でも、70代以上で「現時点で戻りたいと考えている」(16.9%)という回答者が多くなっている。(図表 3-4-2)

図表 3-4-2 大熊町への帰還意向(性・年代別)



さらに、震災発生当時の居住地区別に見ると、野馬形および夫沢の住民で「現時点で戻らないと決めている」という回答者が他の地域よりもやや多くなっている(野馬形 53.2%、夫沢 54.4%)。(図表 3-4-3)

図表 3-4-3 大熊町への帰還意向(震災発生当時の居住地区別)



(5)帰還を判断するのに必要な情報

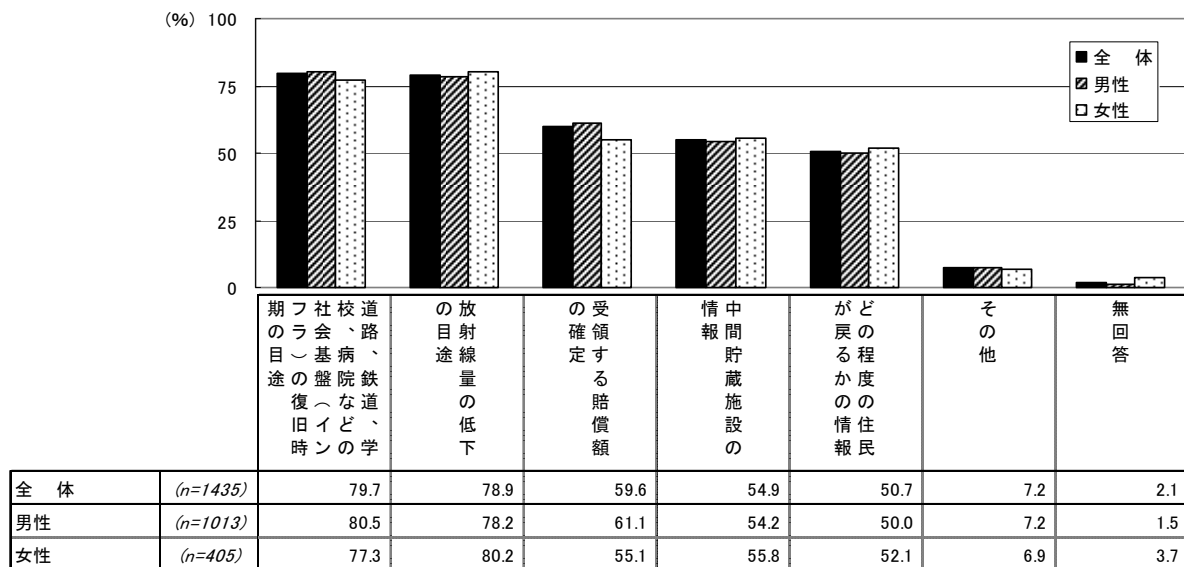
【問 21 で「2 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 22 大熊町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、「現時点でまだ判断がつかない」と回答した人(1,435 人)に大熊町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について聞いた。「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(79.7%)が、「放射線量の低下の目途」(78.9%)と僅差で並び、以下、「受領する賠償額の確定」(59.6%)、「中間貯蔵施設の情報」(54.9%)、「どの程度の住民が戻るかの情報」(50.7%)の順である。(図表 3-5-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 3-5-1)

図表 3-5-1 帰還を判断するのに必要な情報(男女別)





性・年代別に見ても、上位2項目はいずれの層でも「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤の復旧時期の目途」と「放射線量の低下の目途」である。(図表 3-5-2)

図表 3-5-2 帰還を判断するのに必要な情報(性・年代別)

(%)

		道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途	放射線量の低下の目途	受領する賠償額の確定	中間貯蔵施設の情報	どの程度の住民が戻るかの情報	その他	無回答
全 体	(n=1435)	79.7	78.9	59.6	54.9	50.7	7.2	2.1
男性10-20代	(n=52)	76.9	82.7	53.8	65.4	51.9	5.8	5.8
男性30代	(n=134)	79.9	85.8	51.5	57.5	53.7	11.9	1.5
男性40代	(n=158)	84.8	86.1	60.1	60.8	48.1	10.8	0.6
男性50代	(n=239)	83.3	78.2	66.1	52.3	55.2	5.9	-
男性60代	(n=247)	78.5	71.7	61.5	52.6	46.6	4.5	1.2
男性70代以上	(n=181)	77.9	73.5	63.5	47.5	46.4	6.6	3.3
女性10-20代	(n=45)	80.0	82.2	46.7	53.3	48.9	4.4	-
女性30代	(n=52)	78.8	84.6	50.0	69.2	46.2	17.3	-
女性40代	(n=50)	82.0	92.0	44.0	70.0	54.0	8.0	2.0
女性50代	(n=67)	79.1	79.1	56.7	61.2	59.7	4.5	4.5
女性60代	(n=71)	73.2	70.4	49.3	45.1	46.5	4.2	4.2
女性70代以上	(n=120)	75.0	79.2	67.5	48.3	54.2	5.8	6.7

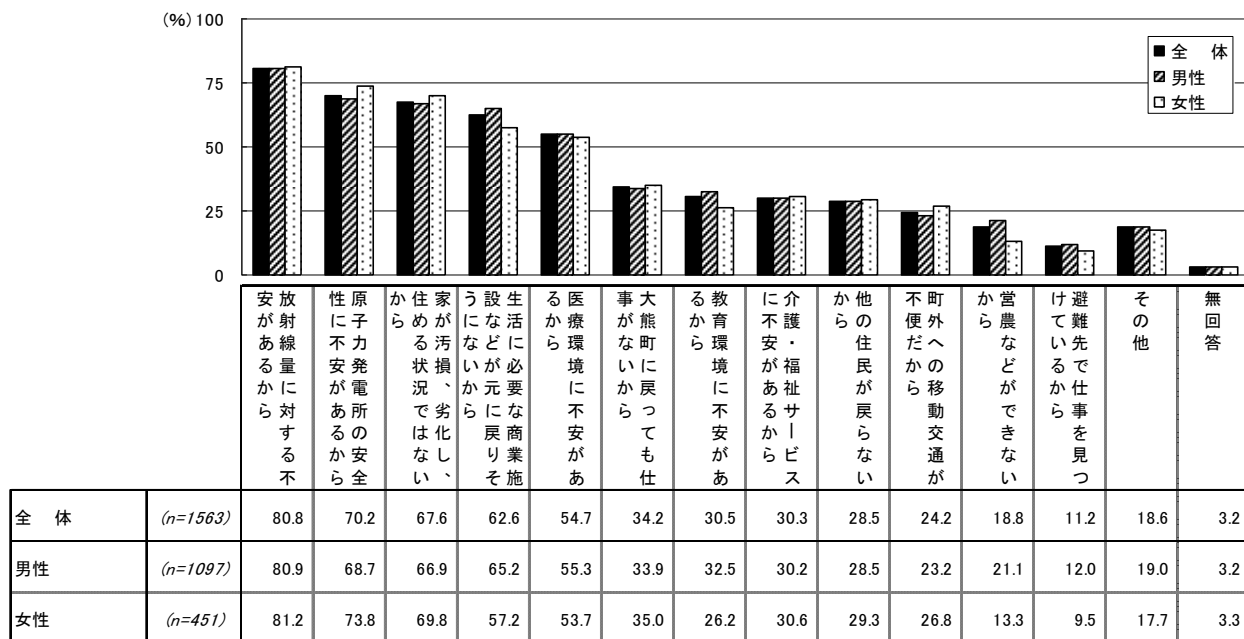
(6) 大熊町へ帰還しない理由

【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】  
 問 23 「現時点で戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(1,563 人)に理由を聞いたところ、「放射線量に対する不安があるから」が 80.8%で最も多くあげられ、以下「原子力発電所の安全性に不安があるから」(70.2%)、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(67.6%)、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(62.6%)などの順である。(図表 3-6-1)

男女別に見ると、男女とも上位 4 項目は同じである。(図表 3-6-1)

図表 3-6-1 大熊町へ帰還しない理由(男女別)



性・年代別に見ると、いずれの層でも上位にあげられている項目に大きな差はないが、男性 70 代以上、女性 40 代、60 代と 70 代以上で、「医療環境に不安があるから」という回答が 4 番目にあげられている。(図表 3-6-2)

図表 3-6-2 大熊町へ帰還しない理由(性・年代別)

		放射線量に対する不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにならないから	医療環境に不安があるから	大熊町に戻っても仕事がないから	教育環境に不安があるから	介護・福祉サービスに不安があるから	他の住民が戻らないから	町外への移動交通が不便だから	営農などできないから	避難先で仕事を見つけているから	その他	無回答
全 体	(n=1563)	80.8	70.2	67.6	62.6	54.7	34.2	30.5	30.3	28.5	24.2	18.8	11.2	18.6	3.2
男性10-20代	(n=66)	78.8	63.6	60.6	65.2	50.0	43.9	37.9	18.2	22.7	37.9	7.6	28.8	9.1	9.1
男性30代	(n=207)	86.0	69.6	59.9	64.3	46.4	39.1	49.3	17.4	35.3	22.7	10.1	19.3	26.1	1.9
男性40代	(n=189)	81.5	75.1	69.3	67.7	58.2	43.9	51.3	28.0	26.5	29.6	16.9	17.5	22.2	3.2
男性50代	(n=254)	79.1	70.1	73.6	65.0	55.5	40.2	28.0	32.3	29.1	20.1	21.3	12.6	15.0	3.9
男性60代	(n=253)	80.2	68.4	65.6	68.8	60.9	22.5	18.6	36.4	28.1	19.4	32.4	2.4	17.4	2.0
男性70代以上	(n=126)	77.8	58.7	66.7	56.3	57.1	15.1	11.9	44.4	23.0	20.6	30.2	1.6	19.0	3.2
女性10-20代	(n=48)	81.3	66.7	58.3	37.5	33.3	52.1	37.5	6.3	27.1	18.8	4.2	20.8	2.1	12.5
女性30代	(n=69)	89.9	82.6	68.1	68.1	59.4	44.9	53.6	21.7	39.1	31.9	10.1	18.8	24.6	1.4
女性40代	(n=68)	83.8	76.5	76.5	55.9	55.9	51.5	41.2	32.4	30.9	29.4	13.2	19.1	20.6	1.5
女性50代	(n=83)	84.3	75.9	69.9	60.2	48.2	48.2	15.7	26.5	22.9	22.9	18.1	7.2	15.7	1.2
女性60代	(n=66)	81.8	77.3	75.8	66.7	66.7	25.8	22.7	36.4	30.3	33.3	13.6	1.5	18.2	3.0
女性70代以上	(n=116)	71.6	66.4	68.1	51.7	53.4	7.8	5.2	44.0	27.6	24.1	14.7	-	19.8	3.4

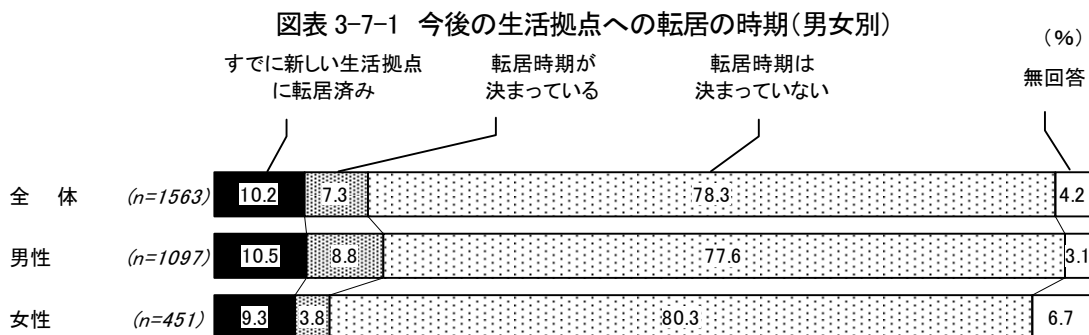
(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング

【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

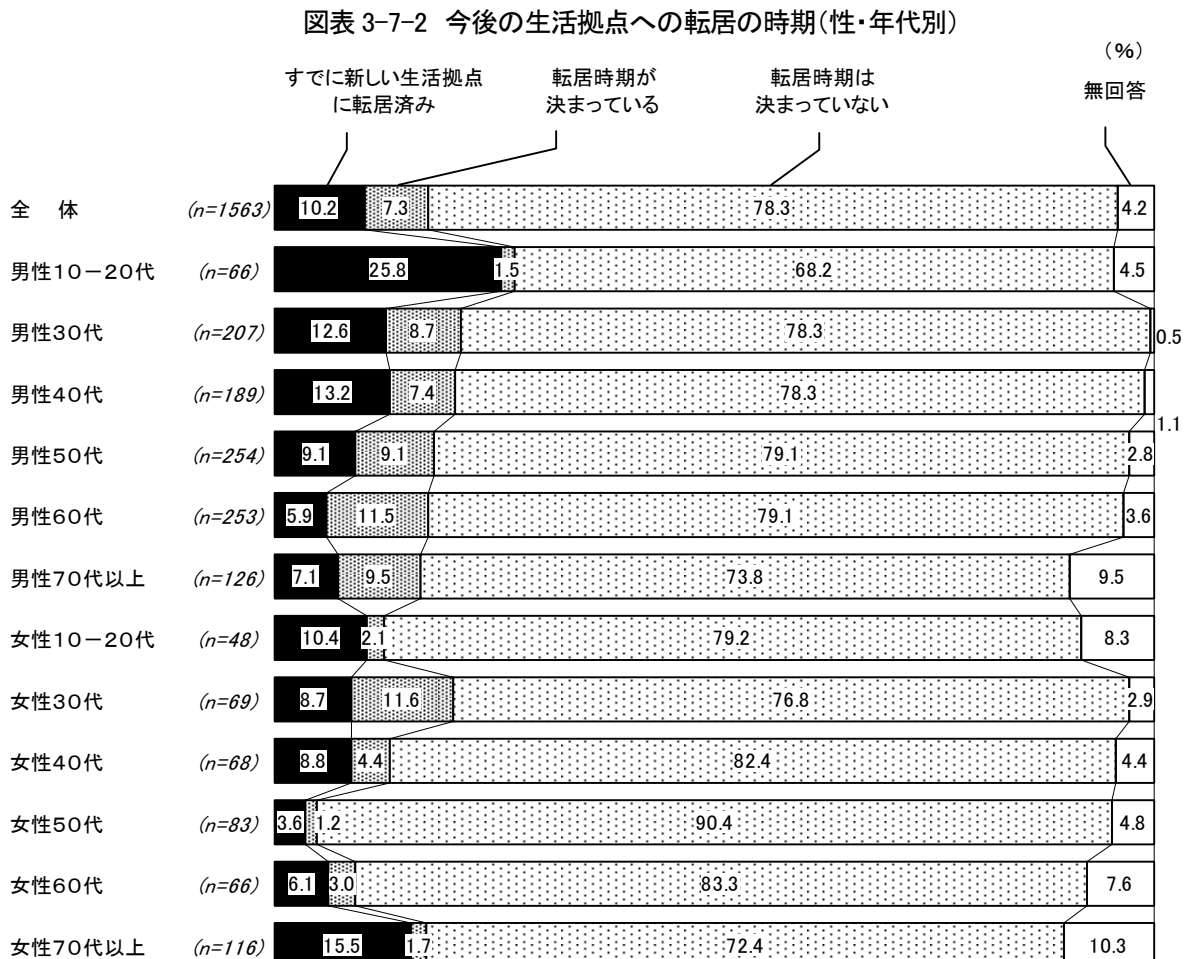
問 24 戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(○は1つ)

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(1,563 人)に、今後の生活拠点への転居の時期を聞いたところ、「転居時期は決まっていない」(78.3%)が多数を占め、「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答者は 10.2%、「転居時期が決まっている」は 7.3%に留まる。(図表 3-7-1)

男女別に見ると、「転居時期が決まっている」(男性 8.8%、女性 3.8%)という回答者は、男性にやや多くなっている。(図表 3-7-1)

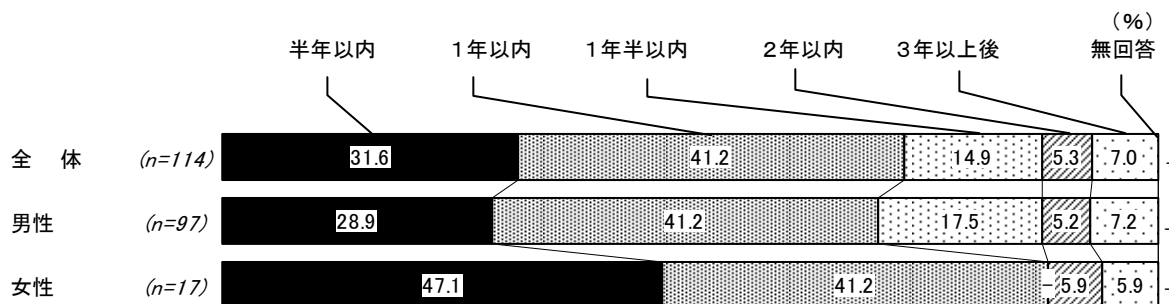


性・年代別に見ると、男性10～20代で、「すでに新しい生活拠点に転居済み」(25.8%)という回答者が多くなっている。(図表 3-7-2)



大熊町への帰還意向はないが、今後の生活拠点への転居時期が決まっている人(114人)に転居時期を聞いたところ、「半年以内」が31.6%、「1年以内」が41.2%、「1年半以内」が14.9%、「2年以内」が5.3%、「3年以上後」が7.0%となっている。7割以上は今後1年間に転居予定がある。(図表3-7-3)

図表3-7-3 今後の生活拠点への転居時期(男女別)



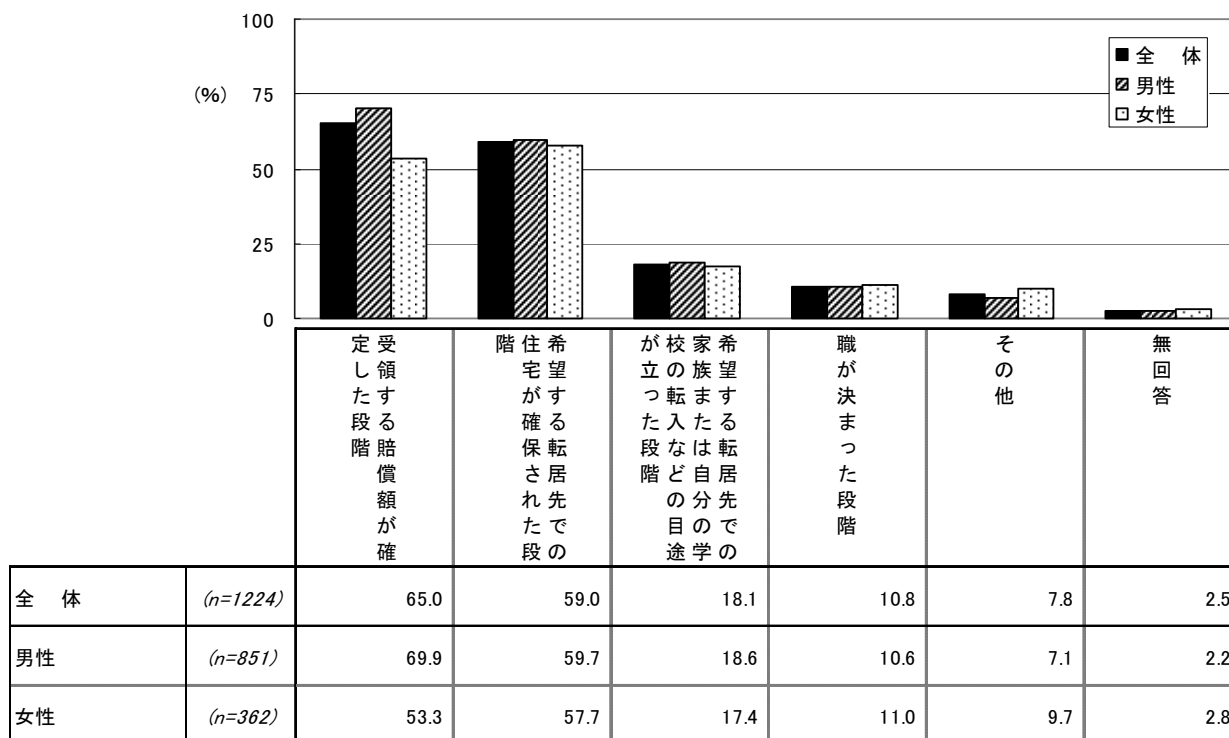
【問24で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがっています。】

問24-1 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(〇はいくつでも)

大熊町への帰還意向はないが、今後の生活拠点への転居時期が決まっていない人(1,224人)に転居時期をどの段階で判断したいか複数回答で聞いたところ、「受領する賠償額が確定した段階」が65.0%で最も多く、次いで、「希望する転居先での住宅が確保された段階」が59.0%である。「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」は18.1%、「職が決まった段階」は10.8%である。(図表3-7-4)

男女別に見ると、女性では「希望する転居先での住宅が確保された段階」(57.7%)の方が「受領する賠償額が確定した段階」(53.3%)よりも多くあげられている。(図表3-7-4)

図表3-7-4 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(男女別)



性・年代別に見ると、男女とも 40 代以下では「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」という回答が 50 代以上よりも多くあげられている。(図表 3-7-5)

図表 3-7-5 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(性・年代別)

		受領する賠償額 が確定した段階	希望する転居先 での住宅が確保 された段階	希望する転居先 での家族または 自分の学校の転 入などの目途が 立った段階	職が決まった段 階	その他	無回答
全 体	(n=1224)	65.0	59.0	18.1	10.8	7.8	2.5
男性10-20代	(n=45)	57.8	55.6	26.7	13.3	6.7	2.2
男性30代	(n=162)	65.4	56.8	30.9	17.9	6.8	2.5
男性40代	(n=148)	60.8	56.8	33.1	16.2	10.1	1.4
男性50代	(n=201)	75.1	59.2	11.9	9.0	6.0	2.5
男性60代	(n=200)	77.0	65.5	9.0	5.5	5.5	1.5
男性70代以上	(n=93)	72.0	61.3	5.4	2.2	7.5	4.3
女性10-20代	(n=38)	31.6	50.0	21.1	18.4	7.9	2.6
女性30代	(n=53)	39.6	60.4	35.8	11.3	17.0	-
女性40代	(n=56)	44.6	53.6	39.3	17.9	8.9	1.8
女性50代	(n=75)	60.0	61.3	8.0	14.7	4.0	2.7
女性60代	(n=55)	60.0	58.2	9.1	3.6	5.5	9.1
女性70代以上	(n=84)	66.7	58.3	3.6	3.6	14.3	1.2

(8) 今後の生活において行政に望む支援

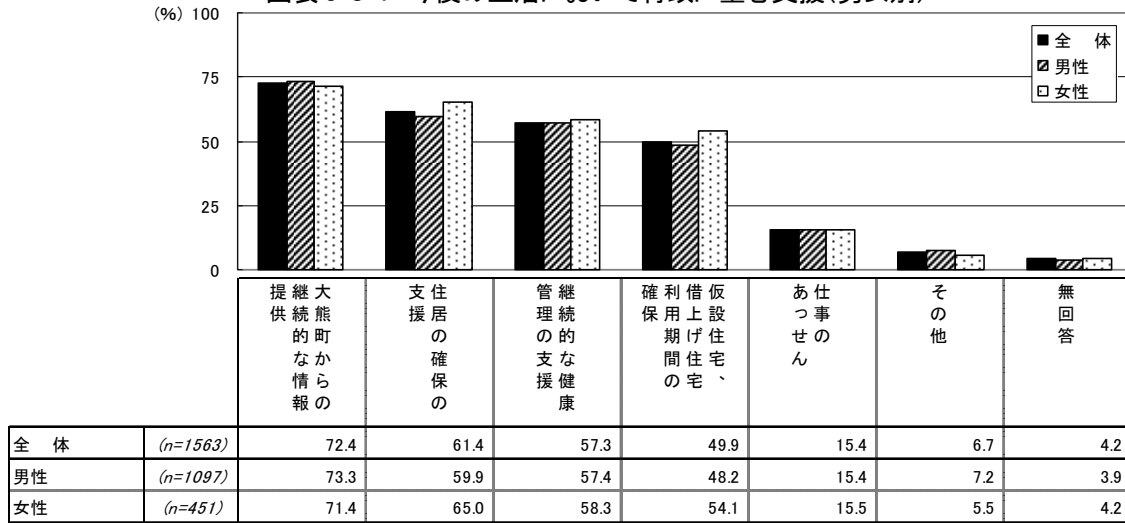
【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 25 大熊町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、「現時点で戻らないと決めている」と回答した人(1,563 人)に、今後の生活においてどのような支援を求めるか聞いたところ、「大熊町からの継続的な情報提供」が 72.4%で最も多くあげられ、以下、「住居の確保の支援」(61.4%)、「継続的な健康管理の支援」(57.3%)、「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」(49.9%)の順である。「仕事のあっせん」は 15.4%である。(図表 3-8-1)

男女別に見ると、「住居の確保の支援」(男性 59.9%、女性 65.0%)および「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」(男性 48.2%、女性 54.1%)は女性の方が男性よりも多くあげている。(図表 3-8-1)

図表 3-8-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



性・年代別に見ると、「仕事のあっせん」は男女とも高齢層よりも若年齢層で多くあげられている。(図表 3-8-2)

図表 3-8-2 今後の生活において行政に望む支援(性・年代別)

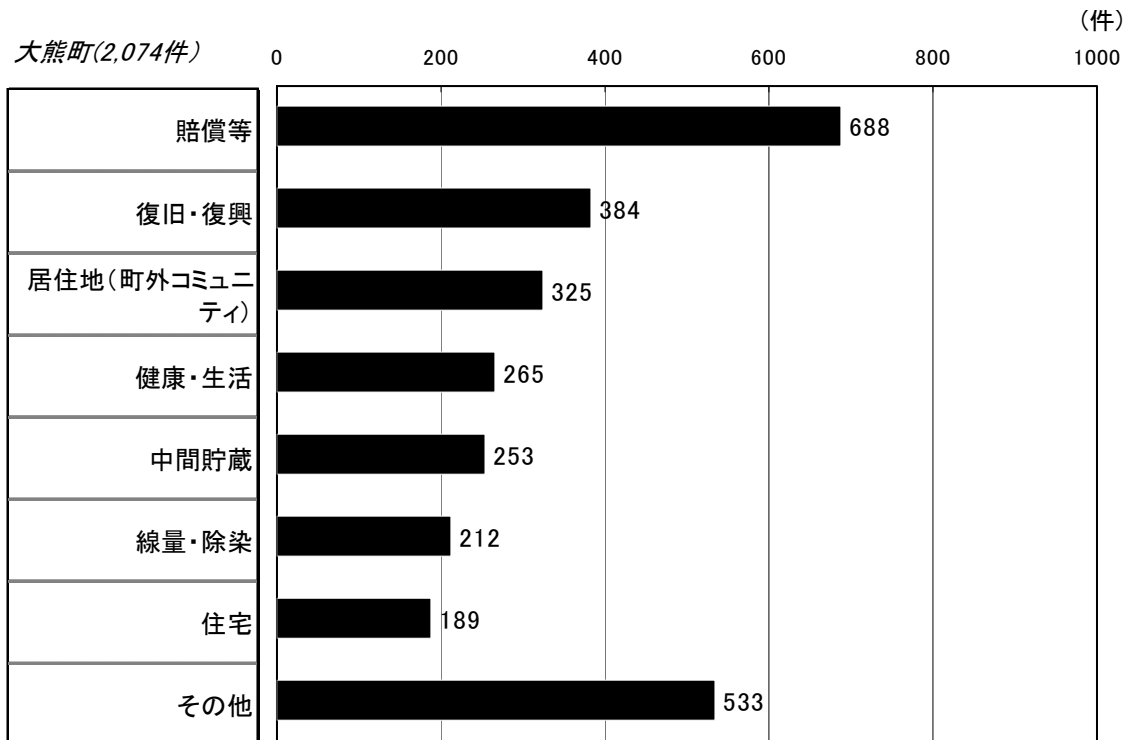
		大熊町からの継続的な情報提供	住居の確保の支援	継続的な健康管理の支援	仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保	仕事のあっせん	その他	無回答
全体	(n=1563)	72.4	61.4	57.3	49.9	15.4	6.7	4.2
男性10-20代	(n=66)	65.2	50.0	57.6	54.5	25.8	1.5	4.5
男性30代	(n=207)	76.3	53.6	66.2	54.6	23.2	7.7	2.4
男性40代	(n=189)	66.7	64.0	54.0	51.9	19.6	10.6	2.6
男性50代	(n=254)	71.3	58.7	52.4	48.8	15.4	7.1	3.5
男性60代	(n=253)	81.8	62.5	55.7	39.5	8.3	7.1	5.5
男性70代以上	(n=126)	69.8	66.7	61.9	44.4	5.6	4.8	5.6
女性10-20代	(n=48)	54.2	50.0	56.3	58.3	29.2	2.1	4.2
女性30代	(n=69)	72.5	69.6	65.2	59.4	21.7	4.3	4.3
女性40代	(n=68)	69.1	63.2	58.8	61.8	19.1	5.9	4.4
女性50代	(n=83)	81.9	68.7	54.2	56.6	18.1	9.6	2.4
女性60代	(n=66)	71.2	81.8	60.6	60.6	6.1	4.5	1.5
女性70代以上	(n=116)	71.6	56.9	56.0	38.8	7.8	5.2	6.9

#### 4. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて

問26 【すべての方にうかがいます。】  
 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、2,074 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「賠償等」(688 件)で、以下「復旧・復興」(384 件)、「居住地(町外コミュニティ)」(325 件)、「健康・生活」(265 件)、「中間貯蔵」(253 件)、「線量・除染」(212 件)、「住宅」(189 件)の順となっている。(図表 4-1)

図表 4-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)



図表 4-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●賠償等

性別	年齢	記載内容
男性	10歳代	賠償の指針について、人選、内容、プロセスについて、被害者が検証する必要がある。あまりにも国、東電の思惑が見えすぎた出来栄になっている。賠償指針の検証と町独自の賠償指針の策定をして、国、東電に押しつけるべきだ。
男性	20歳代	賠償のスピードが遅すぎる。賠償金が手元に早く入らないと、新居を建てられない。お金を元々持っている人はいいが、震災等でお金がない人は大勢いる。前に進み、新しい生活を始めたくても、どうしても出来ない。大量に住宅ローンが残っている人もいる。いずれもらえると言われても不安はつものばかりです。
男性	30歳代	財物賠償の考え方は、納得できない。持ち家の人はローンが残り、賃貸に住んでいた人は、そんな心配がない事や、人数が多ければ金額が大きいことは、その物を正確に評価してないので、不公平感がある。おかしい。
男性	40歳代	就労不能損害や財物賠償など、あまりにも低すぎる補償に、皆怒っている。「国の指針」自体が、交通事故などの例を参考にしてているが、放射能の被害は永遠なものなのであり、別物である。国や東電には大きな予算があり、被災者に補償を回さないだけなのである。
男性	50歳代	新しい賠償基準が提示されましたが、この基準額では家のローン等の支払いで終わってしまい、とても今後の生活再建ができるように配慮した枠組みとは思えません。
男性	60歳代	地域の復興と被害者の生活再建に、確実につながるような適切な賠償をお願いしたい。
女性	20歳代	家屋の賠償で、家を建てた分の金額がもらえないと困るので、要望が通るように東電に話をしてほしい。
女性	40歳代	財物賠償、特に土地・建物に対しての賠償金額が低すぎて、土地さえ求める事が出来ないのもっと賠償額を引き上げてほしい。私の場合、新築して5年ぐらしかたっておらず、ローンもほとんど残っている。今の賠償ではローンすら払えない。
女性	50歳代	賠償の基準が東京電力の価値観で決められる事には、納得が行かない。
女性	60歳代	家屋家財の賠償額が、何ヶ月も前から金額は出ておりますが、これがいつになったら支払われるのか。報道では、いかにも明日にも出そうに感じます。家土地を購入したいのですが、今だに賠償金がわからず、前に進むことが出来ず、足踏み状態です。
女性	80歳以上	避難前は家族が全員一緒であった。現在6ヶ所と別々の暮らしをしている状態。1日も早く賠償をしていただき、全員と一緒に住むことを望みます。また土地の購入、住宅の新築と、お金の心配もあり、前に進むことができません。それなりの補償をお願いしたいと思います。

●復旧・復興

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	町が主体となって復興に取り組むこと。国・県はそれをサポートすること。復興には、一人一人が自分に何が出来るのかを考え、行動することが大切。
男性	30歳代	大熊町という形にこだわらずに、双葉郡全体で復興して欲しい。教育や介護に力を入れて進めるなら、合併して、無駄な税金を使わないでください。
男性	40歳代	復興計画、予定をもっと明確に決めて町民に提示すべきと思う。(細かな年、月、数字など)
男性	50歳代	道路(高速道、国道、基幹道路)の復旧を早く進めてほしい。
男性	80歳以上	テレビ・新聞で、いつの間にか「復興」と言う文字がなくなったと言われているが、大熊は絶対にそのようなことのないようお願いします。
女性	20歳代	国や国民が積極的に支援したくなるような復興プランを立て、大熊町民が本当に帰りたいと思える様な町にしてほしい。
女性	30歳代	復興するのであれば、生活基盤・病院等生活出来るようにして欲しい。そして、大熊町の住民が納得してもらえるように、多くの説明会等で話して欲しい。
女性	40歳代	復興に対する行動が遅すぎると思う。みんな疲れてると思う。
女性	50歳代	大熊の復興は、まだまだ見えませんが、とにかく各自治体が協力しあい、気持ち1つになり、相双の復興を進めてほしいと思います。
女性	80歳以上	あまりにも情報がない。居住者抜きの復興をめざしているようだ。住民はおきざり。

●居住地(町外コミュニティ)

性別	年齢	記載内容
男性	30歳代	帰りたい気持ちはありますが子どもの事を思うと、帰る事はむずかしいと思われます。
男性	40歳代	仮の町の検討が長引くと、構想で終わってしまう。今後、本格賠償によって資金を得た人達は、住宅の購入に入っていく人も多いでしょう。早く道すじを提示しないと、場所は決まったが、人が集まらないという事態にも、なりかねません。
男性	50歳代	自治体の中に自治体をつくることについて。早く法制化する必要がある。
男性	60歳代	仮の町構想は、国が主導しないと進まない。いつまで待てば、先が見えるのか。
男性	70歳代	1日も早く新天地を求め、家族揃って落ち着き、安定した楽しい生活を送りたいと思います。
女性	20歳代	町の移転先が具体的にはっきりしないと、判断出来ない。早く町の移転先を決めて欲しい。又、どんな事が話し合われ、計画が進んでいるのか、情報が欲しい。
女性	30歳代	小・中学生がいる家庭では進学に合わせて居住する場所を早目に決めていく必要があるし、一度入学してしまえば、高校などは転校は困難です。仮の町を早目に決定して欲しい。
女性	50歳代	大熊町には、もう戻れないと考えていますので、一日も早く新しい町で落ち着いた生活がしたいです。
女性	60歳代	居住地が決まらないので、毎日が不安。
女性	70歳代	仮の町を作る事は大変良い事と思うが、出来れば大熊町がすべて一諸に住める町にしたいものです。

●健康・生活

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	避難先での子どものストレスが大きい。
男性	30歳代	肉体もそうだが、精神面での疲労がひどく、家族も周りの人間も、うつ状態です。
男性	40歳代	長引く避難生活、先の見えない生活と、だいぶ疲れもたまっています。
男性	60歳代	解雇されて仕事がない。仕事場がなければ帰ってもどうする事もできない。
男性	80歳以上	避難が長くなれば、精神的に苦しむばかりです。
女性	20歳代	必要最低限の生活は保障して欲しい。
女性	30歳代	このまま、避難生活を続けていたら、家族がバラバラで、孤独な気持ちがこみ上げてきて、憂うつな状態に毎日なっています。居住できる場所に早く、落ち着きたいです。
女性	40歳代	健康調査は、長期にわたって保障して下さい。実験台にしないで下さい。将来、子どもや大人が白血病などの病気が出た時の保障をして下さい。
女性	50歳代	健康診断を、なぜ避難先で受けることができないのでしょうか。わざわざ遠くまで、知らない場所をさがして行かなければなりません。
女性	60歳代	親戚の家を点々としていて落ちつかない。自分の身内でも、長くいると生活面で負担をかけてしまうのでいづらい。ささいなことと言い争いになり、ストレスがたまり、眠れないことが多々あります。
女性	80歳以上	高齢なので、生きていうちに帰れると思えない。一人暮らしで、近くにいた子どもや孫になかなか会えないことで、不安がある。今は元気なのでいいが、体調が悪い時など、連絡しても遠くから来るので不安である。一人暮らしの高齢者に、もっと配慮のある生活が送れる場を作ってほしい。

●中間貯蔵

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	中間貯蔵施設を置くならば、帰還をする、除染する意味が分からない。置くならばきちんと賠償し、町も戻るべきではないと思う。帰るつもりならば、絶対に中間貯蔵は置かないで欲しい。中間貯蔵を置きながら町に帰る人など、いるのか。
男性	30歳代	大熊町に中間貯蔵施設を作るべき。でない、復興は進まない。昔に戻るより、これからの事を考えるべき。
男性	50歳代	現実的に考えると、中間貯蔵施設の受け入れは、全国的にどこもあり得ないと思う。大熊町が早急に受け入れて賠償を進めるべき。
男性	60歳代	中間貯蔵施設がどこに建設されるのか。国主導で設置場所が決定されることなく、大熊町の復興、再生計画と密接に関係するので、将来大熊町をもう一度取り戻すために、町主導で中間貯蔵施設の場所を決めて欲しい。
男性	70歳代	中間貯蔵施設の設置はやむを得ないと思うが、大熊町だけに9ヶ所とは突出して多すぎる。所在地町で、均等に設置すべきと考える。又、これから設置するにあたっては、地域住民に対して説明をしなければならぬが、現在示されている財物賠償が、今少し改善されなければ、協力する者はあまりいないと思うので再考を。
女性	30歳代	中間貯蔵施設が出来る事によって、それが安全であるという保障がされていない。最終処分場も決まらずに、中間貯蔵施設の場所を決めるのはおかしい。また、中間貯蔵施設が出来た大熊町での生活は、考えられない。
女性	40歳代	中間貯蔵施設にしろ最終にしろ、一番汚染のひどい大熊・双葉に置くしかないのはわかっている。わかっているが納得できない人は多い。だから国が主導権をにぎって早く進めなくては、福島復興はありえない。「福島県のために、日本の復興のために協力してほしい」と頭を下げることも必要なのではないか。大熊町は仮の町でなく新たな町を作るべきだ。
女性	50歳代	瓦礫等の処分施設(中間貯蔵)が町内に計画され、自宅の近くに放射性物質が置かれれば、今以上に生きた心地がしないとを感じる。帰れるわけがない。当然、若い人や子どもたちを住まわせるわけにもいかない。
女性	60歳代	中間貯蔵施設候補地が町の約1/2を占めている。あまりにも大熊町だけが、負を背負っている思いです。
女性	70歳代	大熊町で、早く仮置場を受け入れて補償してもらい、早く新しい生活がしたい。いつまでも決まらなければ、これからどうしていいかわからないし、年ばかりとり、むだな毎日を過ぎなければならぬ。 大熊から出した物は、大熊に戻るのが当然である。自分達はきれいなところに受け入れてもらい、汚染物は受け入れないなんてまちがっている。どうせ何年も帰れないのだから、早くすべきだ。200年も生きられないのだから、待てない。

●線量・除染

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	県外から福島県に戻る際、子ども達の人体に本当に影響がないのか、自分達よりも、みんな子どもの事がきつと一番心配なはず、測料計などでわかるようにされても、その数字がどれだけの安心感をあたえてくれるか、わかりません。考え出したらきりが無い。けれど、私達は、生きてる。前に進むしかない。でも辛いです。
男性	30歳代	被曝についての統計(サンプル数)が確立されていないのに、安易な発言は控えてほしい。人体への影響が、どうなるのかが分からないのだから。
男性	40歳代	除染をすることにお金をかけるのは、無駄だと思う。1F事態を除染しないと無理。全ての土地を除染しないと線量は、下がらない。風が吹いたら、線量は、戻ると。セシウムをあまくみすぎていると思う。車の除染ですら、手強いのに。
男性	50歳代	大熊町は放射能汚染がひどいので、除染を行っても居住環境には戻らないと思っています。除染の効果が期待出来なければ、ある期限で区切って、非居住区域にすることも視野に入れて、賠償の方に回して欲しいです。数10年後は戻れる環境になるかも分かりませんが、現時点では想像が付きません。
男性	60歳代	原発に比較的近い場所に避難しているうえ、周辺で仕事を再開しているので、とても線量が気になる。大熊町は、町民に線量計を常時貸与するとか、積極的に内部被曝検査を受けさせるとかしないのですか。
男性	80歳以上	帰還困難区域の除染を早めて、帰還への希望を持たせてほしい。
女性	20歳代	放射性物質について。安全な物を公表するだけではなく、危険な物(場所)やそれに対する対策などを、もっと具体的に発信してほしいです。放射性物質が大量に放出されたのは事実なのに、すべてが安全かのような見解では、信じる事ができません。特に、食品に関しては、お米の安全宣言を県知事が行ってから検出されるといった事があったので、信用できません。 「風評被害」という言葉が流行りましたが、流通している物の中に汚染された物が含まれていたのは、事実です。その度に自主回収し、「ただちに健康への影響はありません」では困るのです。 子どもを守りたい一心で、福島県産やホットスポットで採れた物は避けています。もっと安全、危険をはっきり示していただければ、もう少し判断材料があればと思います。安全を叫ぶだけでは、進展しないとします。
女性	30歳代	国には、責任を持って放射線量を震災前のレベルになるまで下げてほしい。県は、中通りには子どもが屋内で遊べる施設などを整備しているが、浜通りには何もしていないように感じる。
女性	40歳代	・年間の被曝線量が20mSv/年の所に住めるという基準が、おかしい。一般公衆の場合1mSv/年。 ・林業を生業にしてきた者にとっては、森林の汚染が一番深刻だ。山や畑・田の賠償基準を早く示してほしい。 ・私たちの精神的苦痛は交通事故で、かすり傷程度なのか。けがなら治るが、心の傷は一生治らない。ふるさとを今まで通りの元に戻してくれたら帰る。でも、私たちが死んでからじゃ、無意味。何10年もかかる除染に何10億も、お金をかけるなら、賠償にまわしてほしい。
女性	50歳代	帰りたい人がいるかぎり、染料の低い除染を行うということですが、無意味だと思います。永久的に染料が下がるわけではないので、違う面にお金をつかってほしいです。
女性	70歳代	除染しても、その後安心して住めるでしょうか。故郷に戻れるかどうか、迷っています。戻れないとなれば、移転先をどこに住んだらよいか考えさせられます。 いまのところ自分の気持ちもどのようにしたら良いのか、迷っています。放射能が目に見えないから怖い。除染しても安心出来ません。又、気がかりなのは、収入がないので、東京電力の賠償金が減少しないか心配です。

●住宅

性別	年齢	記載内容
男性	10歳代	早く広い家に住みたい。外で遊びたい。家族がバラバラになっているので、一緒に住みたい。友だちもバラバラ、少なくなつてさびしい。 どこでもいいから、早く普通の家に住みたい。早く普通の学校へ行きたい。大人は無責任だ。若者のことを考えてくれない。子どものことを考えてくれない。学校もただあるだけ。仮設住宅は、駐車場が広いのに、子どもは自転車禁止。こんな所にいたくない。以前と同じ所に住みたい。
男性	20歳代	現在、結婚を経て、家族が増えて、住居が狭く、新しい住居を探しているが見つからない。町で住居情報などを、もっと公開してほしい。
男性	30歳代	早急に拠点となる地域を定め、復興公営住宅等を建築すべきである。新たな仮設住宅を建築している場合ではない。
男性	40歳代	高齢者・仮設住宅は、コミュニティーが持てるが、民間借り上げ住宅の方は、孤立してしまい、ADL低下から認知症になるケースが多くなることが考えられます。高齢者だけでも、震災前と同じ隣家の人など顔見知りの人と一緒に生活することがいいと思います。相馬市のような長屋を作り、同町民でまとめた方がいいと思います。
男性	50歳代	応急仮設住宅に住んで、隣の近さに悩まされ、体調をくずして、通院の続く毎日を送っている状態です。事態は本当に深刻なんです。
男性	60歳代	1日も早く、復興住宅を建設して欲しい。
女性	20歳代	いつまで賃貸に住んでいられるのかとても不安。ペットを運良く保護できたが、ペット可のアパートは少なく、家賃相場も極端に高いか低い。今住んでいる所もかなり苦勞して見つけたが、高い。今後どのようにして、ペットと一緒にいられるか、とても不安に思う。
女性	30歳代	前回のアンケートで、一戸建て希望が9割ぐらいあったと思いますが、この希望にどのように答えてもらえるのか。一戸建てでも、仮設の延長のような建物では、プライバシーがないので困る。隣の声が聞える、誰かが見ている、などストレスで毎日が楽しくない。 町では、一戸建てを希望するか、と聞いたのだから、その希望には応えるべきだと思う。無理なら、希望など取らない方がいい。期待をもたせるだけだ。
女性	40歳代	生活に一番大切なのは、私にとって住む所(住宅)ではないかと思っているので、少しでも早く、高齢の母も安心して住めるような住宅を提供して下さい。今は一部屋の借上げ住宅に住んでいるのですが、ペットもおけないし、上の階の人には気をつかうし、ちょっと大変です。 2部屋の所をさがして移ろうと思ったのですが、私達が借りようとする所は、どうしても段差があつて転ぶととてもあぶないし、寝たきりになると大変なので、高齢の母には無理でした。だから、高齢の母が少しでも安心して住めるようなバリアフリーの所をよろしく願います。
女性	60歳代	借り上げにしているために、コミュニティーがとれず、他の町村の方に会つと、うらやましくなる。早く町に近い所、又、中通りに公営住宅を作してほしい。公営住宅も買物、病院の近くがいいです。早く、町民と一緒に生活がしたいです。
女性	70歳代	大熊町が居住する場所を早く知りたい。公営住宅のような所に入居した場合、ペットは大丈夫ですか。

●その他

性別	年齢	記載内容
男性	20歳代	震災時、高校卒業時期だったが、同級生はバラバラになり、会うこともできない。町主体(支援)で、年に何回か会う機会を作ってもらいたい。
男性	30歳代	なぜ被災地は高齢者ばかりで、子どもは後回しなのか。年寄りにはパークゴルフとか集いとかあるくせに、子どもの遊び場やイベントらしいものがない。復興って言っても、今の段階で何もできないなら、もっと違う方にお金かけたり考え方をえたりして、先より今を見つめ直してほしい。こんなんじゃ、高齢者の町にしかならないし、若い人達は戻るところか離れていく。
男性	40歳代	戻れないと、国は早く言ってほしい。
男性	50歳代	日本全体の問題。原子力はなくすべきです。
男性	60歳代	介護施設を早急に。
男性	80歳以上	いわき市長は復興公営住宅は分散型と言っているが、今でも町民は日本中にバラバラで生活しているのに、分散型にはしてほしい。仮設と同じだ。できるなら仮の町をいわき市に集約してほしい。双葉郡が一つならいい。
女性	10歳代	自分の将来が不安である。
女性	20歳代	福島県出身というだけで、同情や差別的な視線を送られる事が恐くなり、出身地をかくして生活する事が多々ありました。放射線も、分からない人々にとっては、人体に影響がなくても、大きさに恐がる人が多いので、放射線の事について分かりやすく、知らせてほしい事と、震災があったけれども、差別的な扱いをされないようにしてほしいです。
女性	30歳代	子どもは一日、一日成長し、ご老人は、一日、一日老いていく。震災から1年半がたつというのに、何ひとつ復興へと、一歩も進んでいない。大熊町へ帰りたいと思っているが、何も進んでいないし、先が見えなく、不安ばかりが募る。何を協力していけばよいか逆に教えてほしい。「早く我が家へ帰りたい」「家族一緒に毎日を過ごしたい」それだけです。
女性	40歳代	町の方針を早く確定させ、国からはこれから先のある程度生活の保障が必要。この事故により、戻れる保証などないのですから、早く次の場所で落ち着けるよう取り組んでほしいです。無駄に期待ばかりもたせるのは止めてほしい。
女性	50歳代	大飯原発が稼働しなくても何とかあった。日本に原発がなくなってほしい。別な形で発電してほしい。
女性	70歳代	お墓の件ですが、いわき市に墓所を確保していただければ、お参りにも行けるし、今後の自分も入りたい。

### Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)





# 大熊町 住民意向調査

記入上の注意

## ● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯主の方**にお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

## ● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、( )内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※調査票はすべて無記名でお願いしております。

## ● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**9月24日(月)まで**に、同封の返信封筒に入れ、最寄りの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

復興庁 福島県 大熊町

**東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。**

**【すべての方にうかがいます。】**

問1 震災発生当時の世帯構成は、あなたを含めて何人でしたか。(具体的に)

(n=3,424)

震災発生当時の世帯合計人数 (あなたを含めて)	(16.2)1人 (22.0)2人 (18.8)3人 (18.1)4人 (11.4)5人 (11.6)6人以上 (1.9)無回答			
そのうち、	当時小学生	当時中学生	当時高校生	当時65歳以上
→	(11.4)1人 (4.4)2人 (0.5)3人 (83.7)無回答	(7.7)1人 (1.2)2人 (0.0)3人 (91.0)無回答	(7.7)1人 (1.1)2人 (0.1)3人 (91.1)無回答	(25.6)1人 (17.5)2人 (1.3)3人 (0.3)4人 (0.1)5人 (0.0)6人以上 (55.2)無回答
	(16.3)	(21.4)	(26.3)	(44.8)

**【すべての方にうかがいます。】**

問2 震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。(○は1つ)

(n=3,424)

(0.3)中屋敷	(5.3)大野1	(5.7)熊3	(3.4)夫沢1
(1.7)野上1	(4.1)大野2	(3.3)町	(2.4)夫沢2
(3.6)野上2	(2.3)大川原1	(4.7)熊川	(3.9)夫沢3
(8.3)下野上1	(1.8)大川原2	(3.2)野馬形	(0.2)その他
(6.6)下野上2	(10.5)熊1	(6.5)小入野	(わからない場合住所を記載してください)
(6.5)下野上3	(6.3)熊2	(8.2)大和久	( )
			(1.2)無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問3 その地区に、震災発生当時まで、あなたはどのくらい前からお住まいでしたか。

(n=3,424)

(○は1つ)

(18.5)生まれてからずっと	(23.0)5年以上20年未満
(3.5)1年未満	(30.4)20年以上50年未満
(9.6)1年以上5年未満	(14.3)50年以上
	(0.7)無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方でしたか。

(1) 所有形態(○は1つ)

(n=3,424)

(78.9)自己所有(持ち家)	(3.2)給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
(10.6)民間賃貸	(1.3)間借り
(4.4)公営住宅	(0.9)その他(具体的に )
	(0.7)無回答

(2) 住宅の建て方(○は1つ)

(n=3,424)

(84.3)一戸建て	(1.7)集合住宅(平屋建て)
(11.8)集合住宅(2階建て以上)	(0.8)その他(具体的に )
	(1.4)無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問5 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。

当時、仕事に就いていた方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業 (就業形態) (○は1つ)

(n=3,424)

(14.7) 自営業	( 4.4) 公務員	(23.5) 無職(退職していた場合も含む) →問6へ
(10.6) 会社員 (事務)	( 6.8) パート・アルバイト	( 2.1) その他 (具体的に )
(35.1) 会社員 (労務)	( 0.9) 学生 →問6へ	( 1.9) 無回答

**【仕事に就いていた方にうかがいます。】**

(2) 業種 (○は1つ)

(n=2,526)

( 8.0) 農林漁業	(13.8) 電気・ガス	(16.1) その他 (具体的 )
(22.6) 建設業	( 3.0) 運輸業	
( 9.0) 製造業	(23.2) 卸・小売り・飲食、サービス業	( 4.3) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問6 震災発生時に、あなたを含めて、ご家族に介護や福祉サービスを受けていた方は いましたか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=3,424)

( 5.7) 通所系サービスを受けていた (デイサービス等)	
( 2.1) 訪問系サービスを受けていた (ホームヘルプサービス等)	
( 3.7) 施設・居住系サービスを受けていた (介護施設への入所など)	
( 0.7) その他 (具体的に )	
(77.8) サービスを受けていなかった	(11.4) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問7 震災前の大熊町では、あなたやご家族は、コミュニティ活動や町内イベントに参加していましたか。(○は1つ)

(n=3,424)

(30.8) 積極的に参加していた	
(50.6) たまに参加していた	
(15.8) 参加していない	
( 1.3) 地域に活動やイベントがあることを知らなかった	
( 0.4) その他 (具体的に )	( 1.3) 無回答

**現在の状況について教えてください。**

**【すべての方にうかがいます。】**

問8 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(具体的に)

(n=3,424) 都・道・府・県	(71.7) 福島県 ( 2.7) 東北(福島以外) (17.9) 関東 ( 5.9) その他 ( 1.8) 無回答
(n=2,455) 市・町・村・区	(34.3) 会津若松市 ( 1.9) 喜多方市 ( 3.0) 福島市 (10.0) 郡山市 ( 1.7) 南相馬市 (39.9) いわき市 ( 1.1) 田村市 ( -) 川内村 ( 0.2) 広野町 ( 7.7) 県内のその他の市町村 ( 0.2) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(1) 所有形態(○は1つ)

(n=3,424)

(20.9) 応急仮設住宅 (プレハブ型) →問10へ	( 3.2) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎など)
(29.8) 応急仮設住宅 (民間住宅などの借り上げ型 (家賃無償)) →問10へ	( 2.5) 家族どなたかの実家
(29.8) 民間賃貸	( 2.9) 親戚・知人家
( 5.2) 公営住宅	( 2.9) 自己所有 (持ち家)
	( 1.8) その他 (具体的に )
	( 1.1) 無回答

**【問9(1)所有形態で、「3」～「9」と回答した方にうかがいます。】**

(2) 住宅の建て方(○は1つ)

(n=1,651)

(61.9) 集合住宅 (2階建て以上)	(28.7) 一戸建て
( 1.4) 集合住宅 (平屋建て)	( 3.0) その他 (具体的に ) ( 5.0) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問10 現在の同居人数とその内訳、及び別居人数を教えてください。(具体的に)

(n=3,424)

現在の同居人数 (あなたを含めて)	(22.3)1人 (31.8)2人 (18.6)3人 (13.1)4人 ( 6.8)5人 ( 4.0)6人以上												
	( 3.4) 無回答												
そのうち、													
→	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現在小学生</th> <th>現在中学生</th> <th>現在高校生</th> <th>現在 65 歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>( 8.3)1人 ( 3.7)2人 ( 0.3)3人 (87.8)無回答</td> <td>( 6.5)1人 ( 0.8)2人 (92.7)無回答</td> <td>( 6.6)1人 ( 0.8)2人 ( 0.1)4人 (92.5)無回答</td> <td>(23.6)1人 (13.9)2人 ( 1.3)3人 ( 0.2)4人 (61.0)無回答</td> </tr> <tr> <td>(12.2)</td> <td>(16.6)</td> <td>(20.7)</td> <td>(39.0)</td> </tr> </tbody> </table>	現在小学生	現在中学生	現在高校生	現在 65 歳以上	( 8.3)1人 ( 3.7)2人 ( 0.3)3人 (87.8)無回答	( 6.5)1人 ( 0.8)2人 (92.7)無回答	( 6.6)1人 ( 0.8)2人 ( 0.1)4人 (92.5)無回答	(23.6)1人 (13.9)2人 ( 1.3)3人 ( 0.2)4人 (61.0)無回答	(12.2)	(16.6)	(20.7)	(39.0)
現在小学生	現在中学生	現在高校生	現在 65 歳以上										
( 8.3)1人 ( 3.7)2人 ( 0.3)3人 (87.8)無回答	( 6.5)1人 ( 0.8)2人 (92.7)無回答	( 6.6)1人 ( 0.8)2人 ( 0.1)4人 (92.5)無回答	(23.6)1人 (13.9)2人 ( 1.3)3人 ( 0.2)4人 (61.0)無回答										
(12.2)	(16.6)	(20.7)	(39.0)										

(1) 現在、あなたがお住まいの住宅には、震災発生当時の世帯でまとまって避難していますか。(○は1つ)

(震災発生当時世帯主<sup>へ</sup>-λ : n=2,620)

(57.4) 世帯でまとまって避難している →次ページの問11へ
(31.2) 複数か所に分かれて避難している (11.3) 無回答

**【問10(1)で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】**

(2) 現在、あなたと別居している方の人数は何人ですか。

(震災発生当時世帯主<sup>へ</sup>-λ : n=818)

現在の別居人数 (あなたと別居している方の人数)	(39.6)1人 (27.0)2人 (14.2)3人 (10.3)4人 ( 5.7)5人 ( 1.5)6人以上
	( 1.7) 無回答

**【問10(1)で「2 複数か所に分かれて避難している」と回答した方にうかがいます。】**

(3) 震災発生当時、ご一緒にお住まいであった世帯のご家族は、現在、合計何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

(震災発生当時世帯主<sup>へ</sup>-λ : n=818) ※現在のあなたのお住まいも含めた数を教えてください。

(65.8) 合計2か所に分散	(26.7) 合計3か所に分散	( 6.1) 合計4か所以上に分散
		( 1.5) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問 11 現在のあなたの職業を教えてください。

現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業 (就業形態) (○は1つ)

(n=3,424)

( 4.7) 自営業	( 3.7) 公務員	(48.8) 無職(退職者も含む) →問 11-2 へ
( 8.4) 会社員 (事務)	( 3.3) パート・アルバイト	( 2.0) その他 (具体的に )
(24.5) 会社員 (労務)	( 0.6) 学生 →問 12 へ	( 3.9) 無回答

**【仕事に就いている方にうかがいます。】**

(2) 業種 (○は1つ)

(n=1,598)

( 1.9) 農林漁業	(18.8) 電気・ガス	(16.6) その他
(25.7) 建設業	( 2.9) 運輸業	(具体的に )
( 9.3) 製造業	(18.8) 卸・小売り・飲食、サービス業	( 6.0) 無回答

**【自営業以外で仕事についている方にうかがいます。】**

問11-1 現在勤めている会社・組織・団体は、震災発生当時の会社・組織・団体と同じですか。(○は1つ)

(n=1,436)

(68.9) 同じ	(21.9) 違う	( 9.2) 無回答
-----------	-----------	------------

**【問 11 (1) 職業で、「7 無職(退職者も含む)」と回答した方にうかがいます。**

それ以外の方は問 12 へお進みください。】

問11-2 あなたは現在、職を探していますか。(○は1つ)

(n=1,671)

(23.3) 職を探している →問 12 へ	(69.2) 職を探していない	( 7.5) 無回答
------------------------	-----------------	------------

**【問 11-2 で「2 職を探していない」と回答した方にうかがいます。】**

問11-3 現在、職を探していないもっとも大きな理由を教えてください。(○は1つ)

(n=1,156)

( 3.9) 元の地域・職場に戻る予定だから		
( 7.4) 希望する職場がないから		
( 2.1) 当面賠償金で生活できるから		
(11.9) 震災を機にリタイア (退職など) したから		
(39.0) 震災前からリタイア (退職など) しているから・専業主婦だから		
(30.2) その他 (具体的に )		( 5.6) 無回答

**【すべての方にうかがいます。】**

問12 現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。(○は1つ)

(n=3,424)

( 9.8) 医療	(17.0) 就労	
( 5.8) 教育	(28.6) コミュニティ形成	( 2.6) 特になし
( 5.6) 介護・福祉	(20.1) その他 (具体的に )	(10.6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問13 医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

(n=3,424)

( 3.4) 医療機関がない、もしくは少ない	(20.6) 受付から診療まで時間がかかる
(15.9) 遠くまで通院することになった	( 6.8) 診察・診療の質に満足できなくなった
( 3.5) 特定の診療科がない	( 2.6) その他 (具体的に )
(26.8) かかりつけ医がない (気軽に相談できない)	(43.6) 特にない
	( 5.4) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問14 ご自身もしくはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

(n=3,424)

(28.3) 自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない	
( 2.4) 施設・事業所が少なくサービスが受けられない (もしくはサービス頻度が相当減った)	
( 1.8) 設備が整っていない	
( 1.8) 職員が少ない (足りていない)	
( 3.5) その他 (具体的に )	
(51.6) 特にない	(12.4) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問15 教育 (学校) について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

(n=3,424)

(24.1) 自分や家族は、現在、学校に通って教育を受けていない	
( 8.2) 通学に時間がかかるようになった	
( 4.8) 避難先で通学する学校において、教室などの施設が不足している	
( 2.9) 教員 (先生) による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	
( 5.9) 震災による休校期間があったため学習の進捗が遅れている	
( 5.6) 避難している子供たちに対して放射能に関する偏見がある	
( 6.0) その他 (具体的に )	
(41.0) 特にない	(15.6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問16 就労について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

(n=3,424)

(50.4) 就労していない	( 5.3) 避難していることに対して職場の人の目が 気になる
(21.3) 通勤に時間がかかるようになった	( 6.1) その他 (具体的に )
( 6.2) 震災前と違う職であり、慣れない	( 9.9) 特にない
(17.8) 給与が減った	
( 8.8) 長期雇用が保障されない	( 4.8) 無回答

【すべての方にかがいます。】

問17 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=3,424)

- |   |            |
|---|------------|
| (64.9) 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない (もしくはまったくない) |            |
| (39.7) 避難先の地域住民との交流が少ない (もしくはまったくない)        |            |
| (24.2) 気軽に困りごとを相談できる人 (民生委員、行政職員) が近くにいない   |            |
| ( 4.9) その他 (具体的に )                          |            |
| (20.4) 特にない                                 | ( 3.5) 無回答 |

**ここからは、将来についての気持ちを教えてください。**

※同封の参考資料をご覧ください。以下の問いにお答えください。

【すべての方にかがいます。】

問18 震災発生当時にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられますが、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。(○は1つ)

(n=3,424)

- |  |                 |            |
|--|-----------------|------------|
| (19.2) 今の場所で継続して暮らしたい                    | → 次ページの間 18-3 へ |            |
| (14.0) 今の場所から引っ越したい (現在居住している市町村内への引っ越し) |                 |            |
| (19.9) 今の場所から引っ越したい (現在居住している市町村外への引っ越し) |                 |            |
| (43.2) 現時点ではわからない、判断できない                 |                 | ( 3.8) 無回答 |

【問 18 で「2」～「4」と回答した方にかがいます。】

問 18-1 避難期間中の生活において居住を希望する住宅は、どのような所有形態、住宅の建て方ですか。

(1) 所有形態(○は1つ)

(n=2,636)

- |                          |                    |            |
|--------------------------|--------------------|------------|
| (19.2) 民間賃貸              | (54.2) 自己所有 (持ち家)  |            |
| (18.9) 公営住宅 (災害公営住宅を含む)  | ( 3.3) その他 (具体的に ) |            |
| ( 1.1) 給与住宅 (社宅、公務員宿舎など) |                    | ( 3.3) 無回答 |

(2) 住宅の建て方(○は1つ)

(n=2,636)

- |                           |                    |            |
|---------------------------|--------------------|------------|
| ( 8.8) 集合住宅 (一般的な中高層のもの)  | (74.4) 一戸建て        |            |
| (11.9) 集合住宅 (一戸建に近い低層なもの) | ( 1.7) その他 (具体的に ) |            |
|                           |                    | ( 3.1) 無回答 |

【問18で「3 今の場所から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方に  
うかがいます。】

問18-2 どちらに移動することを望みますか。(〇はいくつでも)  
(n=680)

( 0.9) 会津若松市	( 7.9) 郡山市	( 4.6) 田村市
( 0.3) 喜多方市	( 5.9) 南相馬市	( 0.9) 川内村
( 1.3) 福島市	(60.7) いわき市	( 6.3) 広野町
( 6.2) 県内のその他の市町村	(具体的に	)
(15.9) 県外 →	(都・道・府・県)	(市・町・村・区)
(12.4) 決まっていない		( 2.1) 無回答

(n=108)

(18.5) 東北(福島以外)	(50.0) 関東	(12.0) その他	(20.4) 無回答
-----------------	-----------	------------	------------

【すべての方にうかがいます。】

問18-3 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に)  
(n=3,424)

今後一緒に住む予定の世帯家族人数 (あなたを含めて)	(12.3) 1人 (23.1) 2人 (19.9) 3人 (18.1) 4人 (11.8) 5人 (10.8) 6人以上 ( 4.0) 無回答
-------------------------------	---

【すべての方にうかがいます。】

問19 町が、復興の拠点となる場所を設ける場合、あなたはそこに居住しますか。  
(〇は1つ)

(n=3,424)

(22.8) 居住する		
(24.2) 居住しない	→10 ページの間 20 へ	
(50.8) 現時点では判断できない	→10 ページの間 20 へ	( 2.2) 無回答

【問19で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

問19-1 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこに移転するまで、どのくらいの期間であれば待つことができますか。(〇は1つ)

(n=782)

(13.8) 1年以内	(49.1) 3年以内	(26.1) 5年以内	( 7.4) その他 (具体的に )
-------------	-------------	-------------	--------------------

( 3.6) 無回答

【問19で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】

問19-2 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこへ移転するかどうかを決める上で、あなたがもっとも優先することは何ですか。(〇は1つ)

(n=782)

(15.6) 早く新たな住居に入居すること		
(21.5) 希望する地域であること		
(47.8) 希望する住居形態 (一戸建て、集合住宅など) であること		
( 7.3) 雇用・就労の場があること		
( 3.1) その他 (具体的に	)	( 4.7) 無回答



**【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】**

問19-3 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、大熊町民がどの程度のコミュニティの単位で移転することが望ましいと考えますか。(○は1つ)

(n=782)

(39.5)町単位	(14.7)世帯単位		
(37.7)行政区単位	( 2.2)その他 (具体的に	)	( 5.9)無回答

**【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】**

問19-4 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、他の町村の住民とともに移転するとしたら、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

(n=782)

(55.0)大熊町の住民だけで移転する方が望ましい			
( 5.8)他の町村の住民とともに移転する方が望ましい			
(36.3)どちらでもかまわない			
( 0.5)その他 (具体的に	)	( 2.4)無回答	

**【問 19 で「1 居住する」と回答した方にうかがいます。】**

問19-5 町が復興の拠点となる場所を設ける場合、そこに求めるもの(住宅を除く)は何ですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=782)

(86.3)医療	(81.3)商店・コンビニエンスストアなど		
(61.0)介護・福祉	(43.2)コミュニティ		
(42.1) 教育 (学校)	(68.8)役場出張所		
(45.4)雇用・就労の場	( 5.2)その他 (具体的に	)	( 3.7)無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 20 避難指示が解除された際に、大熊町の復旧・復興のために、「もっとも必要と思うもの」、「2番目に必要と思うもの」、「3番目に必要と思うもの」を、下のア)～サ)の中からそれぞれ1つずつ選び、空欄に○をつけてください。(それぞれに○は1つずつ)

	優先順位⇒	もっとも必要と思うもの (○は1つ) (n=3,424) ↓	2番目に必要と思うもの (○は1つ) (n=3,424) ↓	3番目に必要と思うもの (○は1つ) (n=3,424) ↓
ア)放射線量が低下すること		(42.6)	(15.1)	( 1.8)
イ)原子力発電所の安全性が確保されること		(23.0)	(19.9)	( 3.2)
ウ)水道水等の生活用水が安全であることが確認されること		( 6.5)	(14.6)	(18.5)
エ)大熊町もしくは大熊町から通勤できる範囲で雇用が確保されること		( 2.8)	( 4.8)	( 5.5)
オ)災害公営住宅が整備されること		( 2.1)	( 4.0)	( 3.7)
カ)交通インフラ(道路、公共交通機関)が整備されること		( 4.5)	( 7.2)	( 9.8)
キ)医療機関の整備、介護・福祉サービスが確保されること		( 4.4)	( 7.2)	(11.2)
ク)町内の学校が再開されること		( 1.4)	( 2.6)	( 2.6)
ケ)町内に商店、コンビニエンスストアなどの生活商業施設が再開されること		( 3.0)	( 5.4)	(11.4)
コ)他の住民がある程度戻ること		( 1.6)	( 3.4)	( 7.4)
サ)その他(具体的に )		( 1.7)	( 0.9)	( 1.4)
	無回答	( 6.3)	(14.9)	(23.5)

【すべての方にうかがいます。】

問 21 将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ)

(n=3,424)

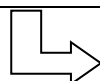
(11.0)現時点で戻りたいと考えている	→12 ページの間 26 へ
(41.9)現時点でまだ判断がつかない	
(45.6)現時点で戻らないと決めている	→次ページの間 23 へ
	( 1.4)無回答

【問 21 で「2 現時点でまだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 22 大熊町に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

(n=1,435)

(59.6)受領する賠償額の確定	
(50.7)どの程度の住民が戻るかの情報	
(79.7)道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途	
(78.9)放射線量の低下の目途	
(54.9)中間貯蔵施設の情報	
( 7.2)その他(具体的に )	( 2.1)無回答



この設問の回答後は 12 ページの間 26 へ

**【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】**

問 23 「現時点で戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

(n=1,563)

- (80.8)放射線量に対する不安があるから
- (70.2)原子力発電所の安全性に不安があるから
- (11.2)避難先で仕事を見つけているから
- (34.2)大熊町に戻っても仕事がないから
- (67.6)家が汚損、劣化し、住める状況ではないから
- (18.8)営農などができないから
- (24.2)町外への移動交通が不便だから
- (54.7)医療環境に不安があるから
- (30.3)介護・福祉サービスに不安があるから
- (30.5)教育環境に不安があるから
- (62.6)生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
- (28.5)他の住民が戻らないから
- (18.6)その他 (具体的に ) ( 3.2)無回答

**【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】**

問 24 戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(〇は1つ)  
「2 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入ください。

(n=1,563)

- (10.2)すでに新しい生活拠点に転居済み →問 25 へ
- ( 7.3)転居時期が決まっている 平成 年 月頃 →問 25 へ
- (78.3)転居時期は決まっていない ( 4.2)無回答

(n=114)

- (31.6)半年以内 (41.2)1年以内 (14.9)1年半以内 (5.3)2年以内 (7.0)3年以上後 (-)無回答

**【問 24 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】**

問 24-1 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(〇はいくつでも)

(n=1,224)

- (65.0)受領する賠償額が確定した段階
- (59.0)希望する転居先での住宅が確保された段階
- (18.1)希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階
- (10.8)職が決まった段階
- ( 7.8)その他 (具体的に ) ( 2.5)無回答

**【問 21 で「3 現時点で戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】**

問 25 大熊町に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。

(n=1,563)

(〇はいくつでも)

- (61.4)住居の確保の支援 (49.9)仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保
- (57.3)継続的な健康管理の支援 (72.4)大熊町からの継続的な情報提供
- (15.4)仕事のあっせん ( 6.7)その他 (具体的に ) ( 4.2)無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 26 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

F 1 あなたの性別（1つだけ）

(n=3,424)

(70.3) 男性	(28.4) 女性	( 1.3) 無回答
-----------	-----------	------------

F 2 あなたの現在の年齢（1つだけ）

(n=3,424)

( 0.6) 10～19歳	(14.8) 40～49歳	(12.6) 70～79歳
( 6.1) 20～29歳	(20.9) 50～59歳	( 7.9) 80歳以上
(14.3) 30～39歳	(21.9) 60～69歳	( 0.9) 無回答

F 3 あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。（○は1つ）

(n=3,424)

(76.5) 当時世帯主だった	(21.1) 当時世帯主ではなかった
-----------------	--------------------

( 2.4) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

**9月24日(月)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。**